

救急搬送データから見る  
日常生活事故の実態

令和4年

東京消防庁  
防災部防災安全課

# 目 次

データ・用語	1
第1部 令和4年の概要	
1 年別発生状況	2
2 年齢層別搬送人員	2
3 月別・時間帯別搬送人員	3
4 事故種別ごとの搬送人員	4
5 発生場所別搬送人員	4
6 初診時程度別搬送人員	5
第2部 種別ごとに見る事故	6
1 ころぶ	8
2 落ちる	10
3 ぶつかる	12
4 ものがつまる・ものが入る・誤って飲み込む	14
5 切る・刺さる	16
6 はさむ・はさまれる	18
7 やけど	20
8 かまれる・刺される	22
9 おぼれる	24
第3部 年齢から見た事故	26
1 年齢区分から見た事故	
(1) 0歳～5歳（乳幼児）の事故	27
① 0歳～5歳	27
② 0歳	31
③ 1歳	33
④ 2歳	35
⑤ 3歳～5歳	37
(2) 6歳～12歳（小学生）の事故	39
(3) 13歳～18歳（中学生・高校生）の事故	42
(4) 19歳～64歳の事故	45
(5) 65歳以上（高齢者）の事故	48
① 65歳以上（高齢者）	48
② 65歳～74歳（前期高齢者）と75歳以上（後期高齢者）	52
2 年齢層別での比較	
(1) 年別搬送人員での比較	55
(2) 事故種別（その他、不明を除く）ごとの比較	57
(3) 時間帯別での比較	59

#### 第4部 初診時程度（死亡・重篤）から見た事故

1	年別発生状況	62
2	月別搬送人員	62
3	事故種別ごとの搬送人員	63
4	時間帯別・事故種別ごとの搬送人員	64
5	年代別・発生場所の搬送人員	65
6	事故種別ごとに見る死亡・重篤事故	66
(1)	ものがつまる等	66
(2)	おぼれる	67
(3)	落ちる	68
(4)	ころぶ	69
(5)	切る・刺さる	70
(6)	ぶつかる	71
(7)	はさむ・はさまれる	72
(8)	やけど	73

# データ・用語

## 日常生活事故

救急事故のうち、運動競技事故、自然災害事故、水難事故、労働災害事故、一般負傷に該当するものをいう。

## 分析データ

平成30年～令和4年中の救急搬送データ（救急搬送したもの）における日常生活事故に該当するデータ

## 初診時程度

- ・死亡・・・・・・・・初診時死亡が確認されたもの
- ・重篤・・・・・・・・生命の危険が切迫しているもの
- ・重症・・・・・・・・生命の危険が強いと認められたもの
- ・中等症・・・・・・・・生命の危険はないが入院を要するもの
- ・軽症・・・・・・・・軽易で入院を要しないもの

## 関連器物

受傷原因に直接または間接的に影響があった器物のことをいう。

## 事故種別

- ・落ちる・・・・・・・・倒れた際に高低差の移動を伴って受傷したもの
- ・ころぶ・・・・・・・・倒れた際に高低差の移動を伴わず受傷したもの
- ・ものがつまる・ものが入る・誤って飲み込む（ものがつまる等）・・・・食物または、食物以外のものを飲み込んで受傷したもの（目・耳・鼻へ異物が入ったものを含む）
- ・ぶつかる・・・・・・・・人と人、人と物との衝突により受傷したもの
- ・はさむ・はさまれる・・・・・・・・物体間または物体内に挟まれたもの
- ・やけど・・・・・・・・高温の液体、気体等により受傷したもの
- ・切る・刺さる・・・・・・・・刃物や鋭利物等により受傷したもの
- ・かまれる・刺される・・・・・・・・動物や虫などにかまれた、刺された等により受傷したもの
- ・おぼれる・・・・・・・・浴槽、プール、河川等で溺れたもの

## 年齢区分

- ・乳幼児・・・・・・・・5歳以下
- ・小学生・・・・・・・・6歳以上13歳未満
- ・中学生・高校生・・・・・・・・13歳以上19歳未満
- ・高齢者・・・・・・・・65歳以上
- ・前期高齢者・・・・・・・・65歳以上75歳未満
- ・後期高齢者・・・・・・・・75歳以上

## 東京消防庁管内

東京都のうち稲城市、島しょ地区を除く地域

# 第1部 令和4年の概要

## 1. 年別発生状況

東京消防庁管内では、日常生活における事故により平成30年から令和4年までの5年間に679,852人が救急搬送されています。

令和4年中は、139,710人が救急搬送されており、コロナ禍前の水準に戻ってきています（図1-1）。

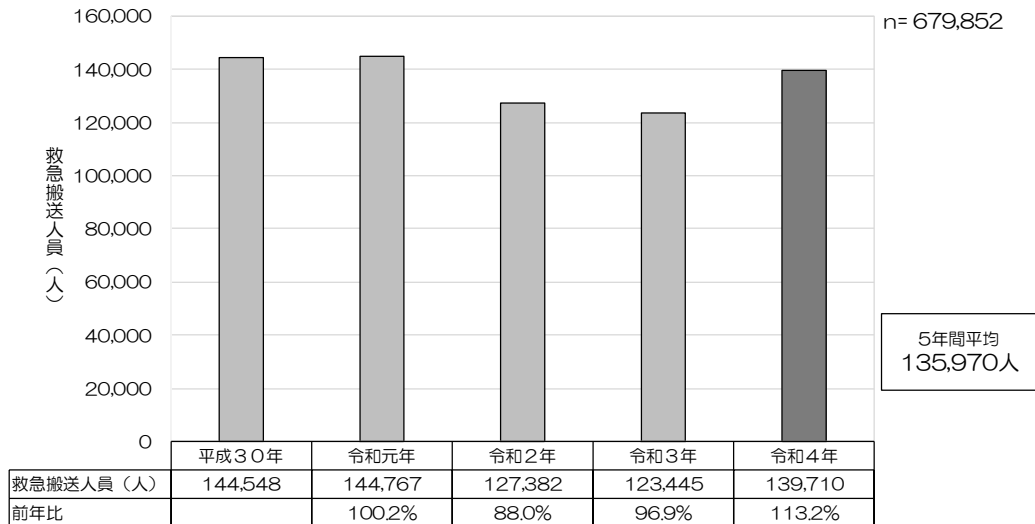


図1-1 年別の救急搬送人員

## 2. 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別の救急搬送人員を見ると、乳幼児と高齢者に多く発生しています（図1-2）。

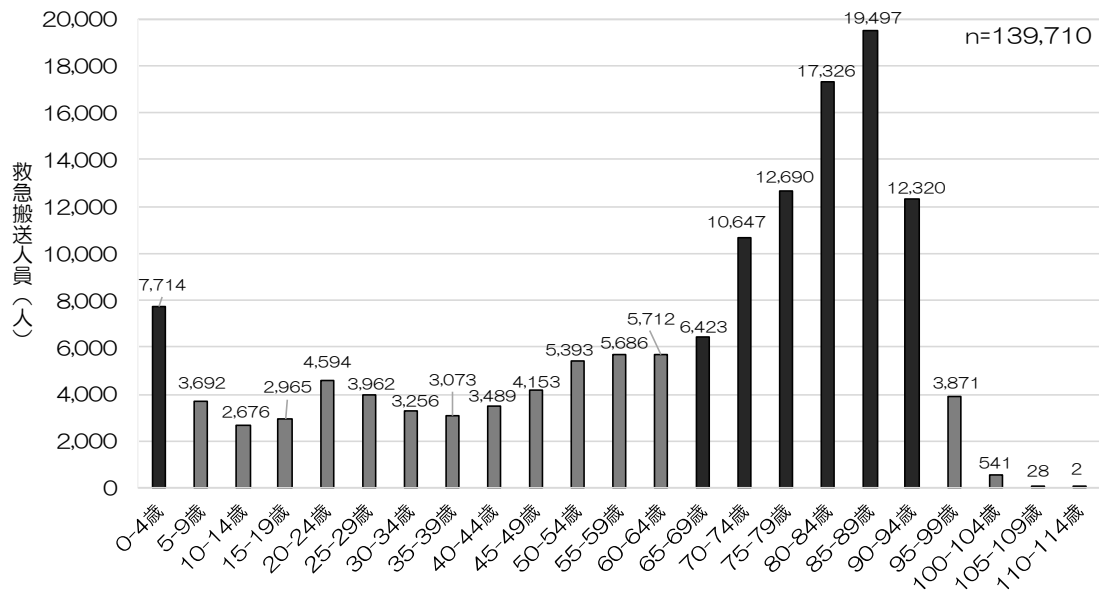


図1-2 年齢層別の救急搬送人員

### 3. 月別・時間帯別搬送人員

月別に見ると、12月の13,244人が最も多く、次いで6月に12,866人が救急搬送されています（図1-3）。

時間帯別で見ると、日中の時間帯に多く救急搬送されています（図1-4）。

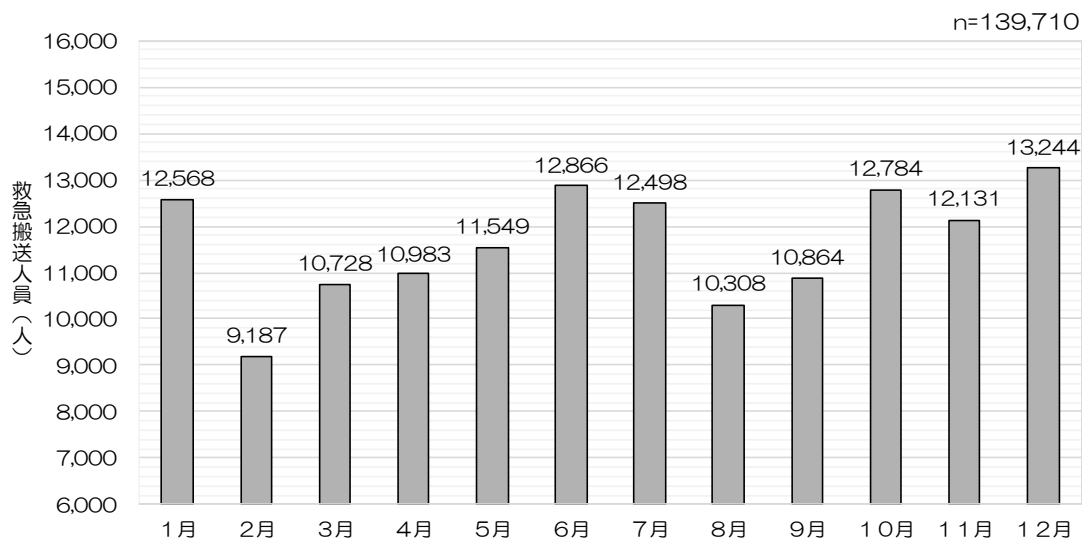


図1-3 月別の救急搬送人員

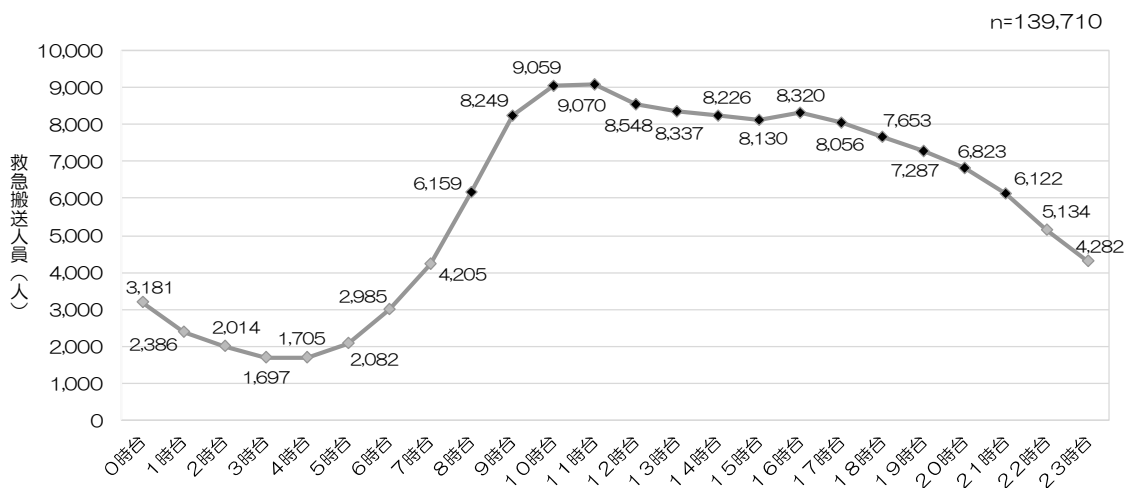


図1-4 時間帯別の救急搬送人員

#### 4. 事故種別ごとの搬送人員

「ころび」事故が全体の約6割を占め最も多くなっています。  
 なお、事故種別ごとの概要については第2部で取り上げています（図1-5）。

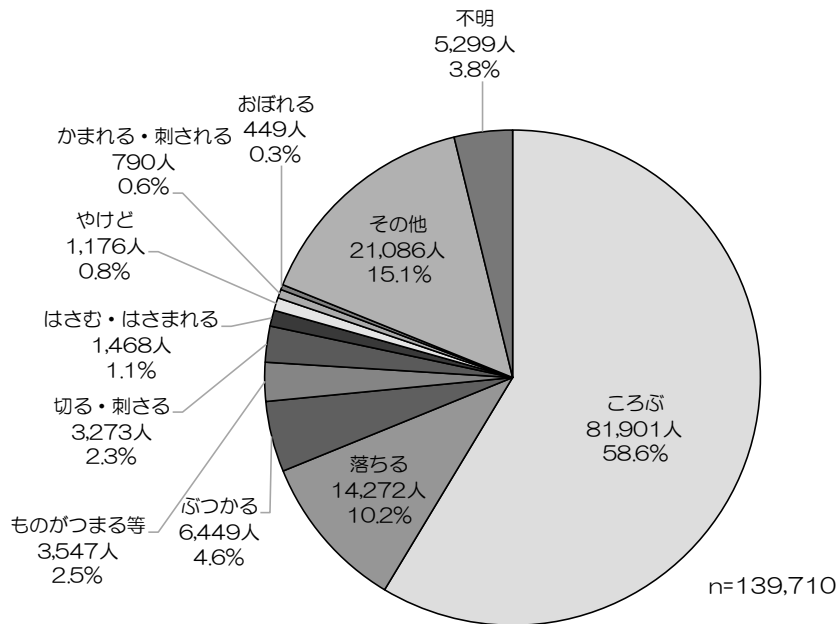


図1-5 事故種別ごとの救急搬送人員

#### 5. 発生場所別搬送人員

半数以上が住宅等居住場所で発生しています（図1-6）。

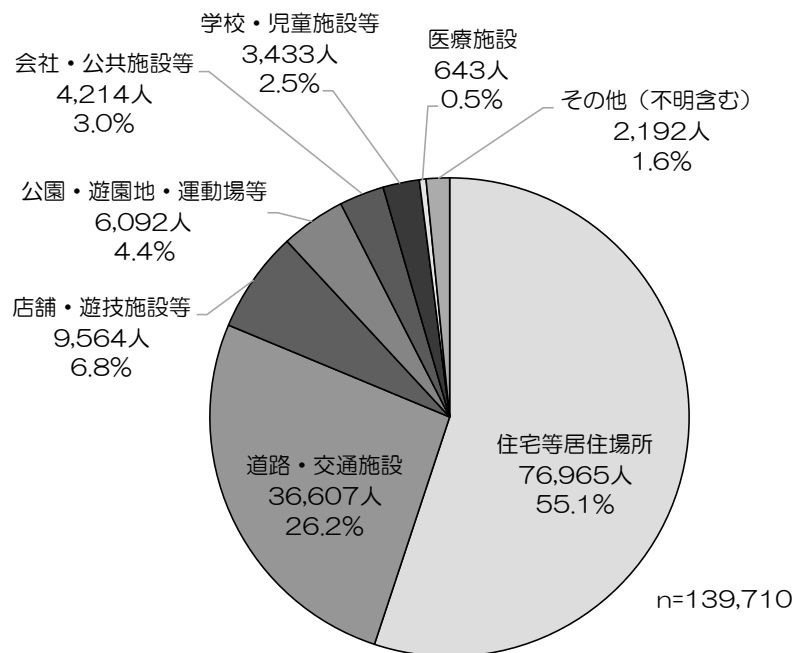


図1-6 発生場所別の救急搬送人員

## 6. 初診時程度別搬送人員

3割以上が入院を必要とする中等症以上で、生命に危険を及ぼすような事故も発生しています（図1-7）。

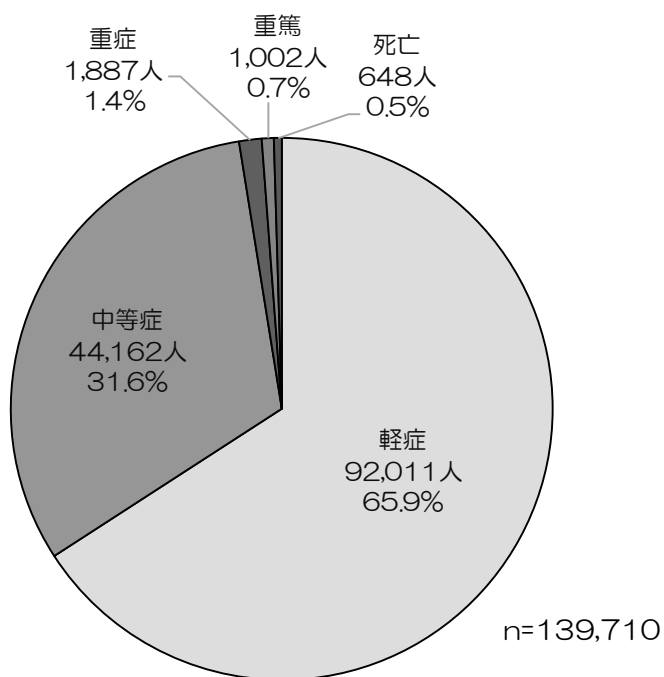


図1-7 初診時程度別の救急搬送人員



## 第2部 種別ごとに見る事故

ここでは、日常生活における事故を「ころぶ」「落ちる」「ぶつかる」「ものがつまる・ものが入る・誤って飲み込む（ものがつまる等）」「切る・刺さる」「はさむ・はさまれる」「やけど」「かまれる・刺される」「おぼれる」の種別ごとに取り上げています。

令和4年中で最も多いのは「ころぶ」事故で、全体（※その他、不明を除く）の7割以上となっています（図2-1）。

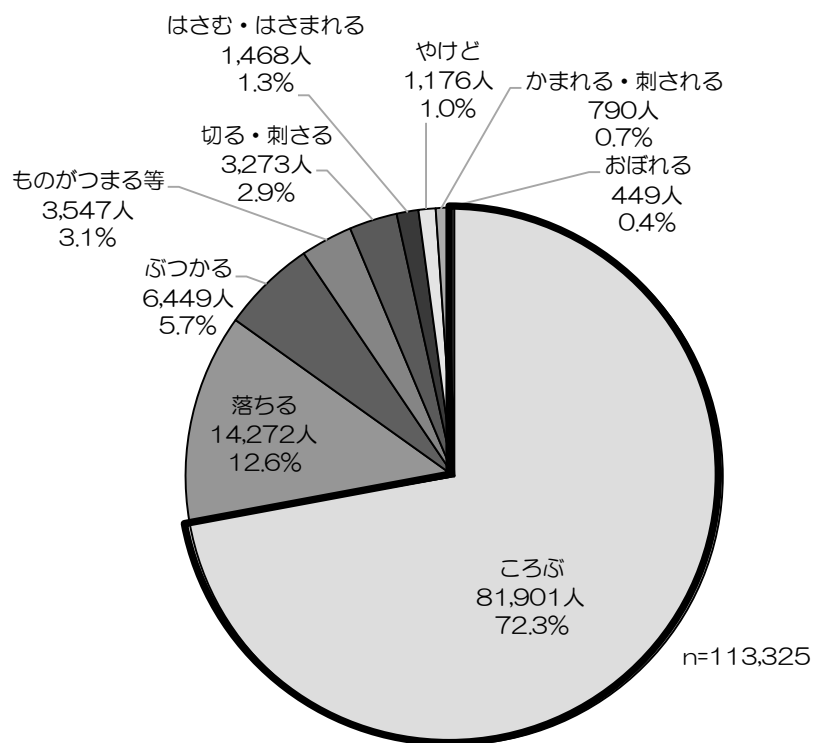


図2-1 事故の種類別構成割合（その他、不明を除く）

<乳幼児>

- ・ものが詰まったり、ものを誤って飲み込む事故の割合が多くなっています。
- ・やけどの割合も多くなっています。

<10代>

- ・ぶつかる事故の割合が多くなっています。

<高齢者>

- ・高齢になるにつれて**ころび**事故の割合が増えています（図2-2、図2-3）。

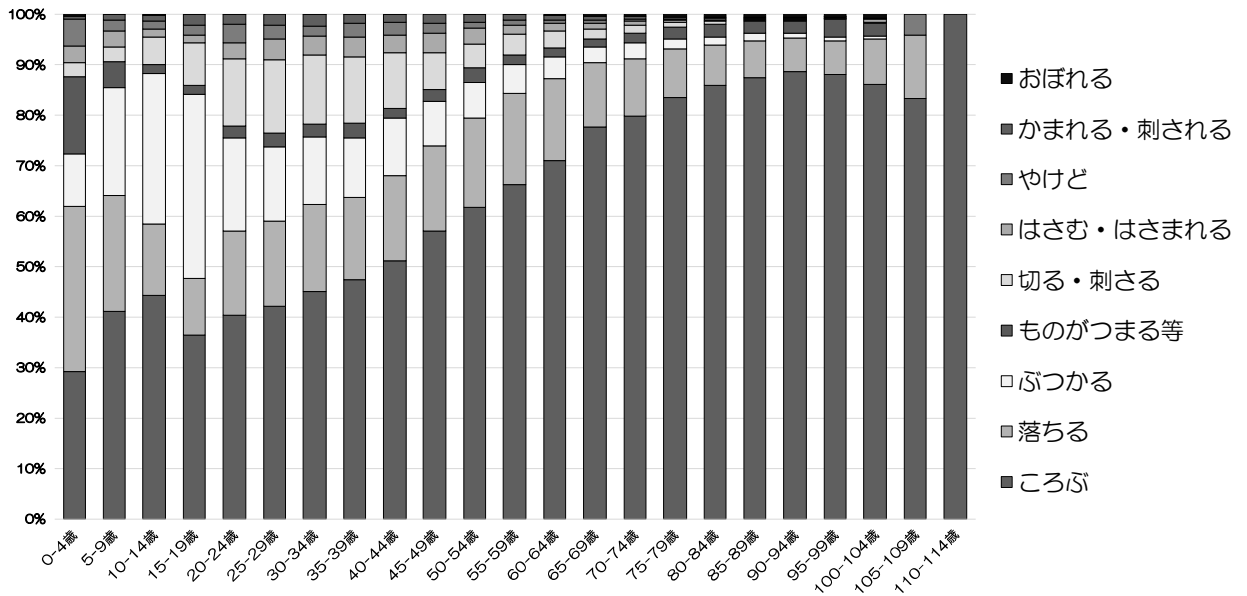


図2-2 年齢別の事故の種類別構成割合（その他、不明を除く）

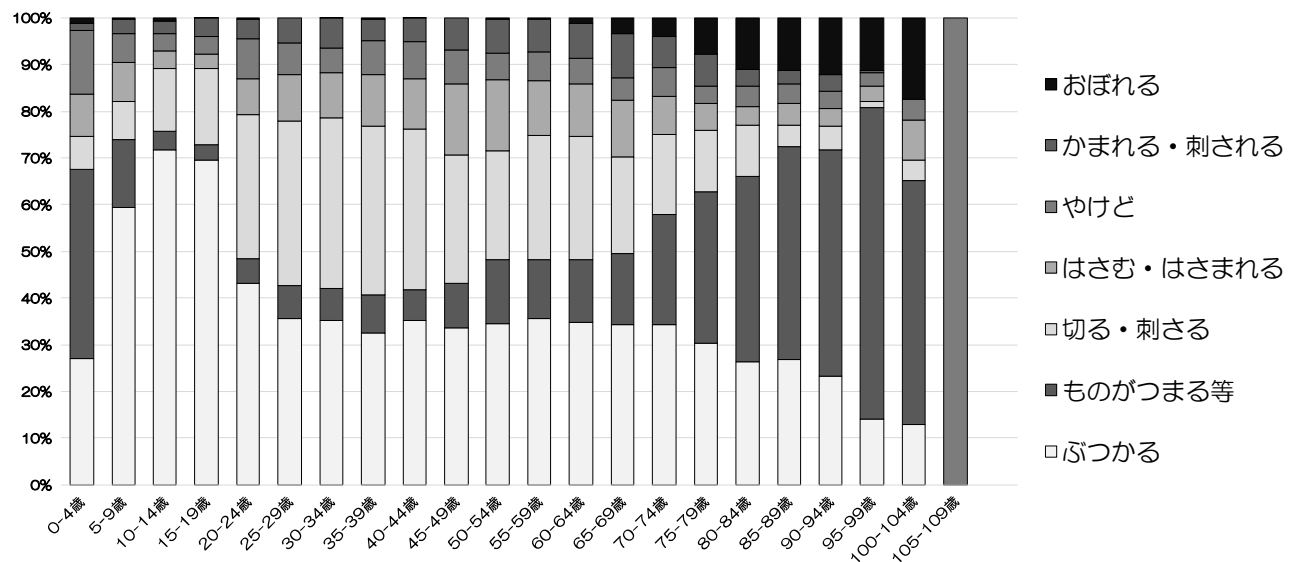


図2-3 年齢別の事故の種類別構成割合（ころび、落ちる、その他、不明を除く）

# 1. ころぶ

## (1) 年別搬送人員

「ころぶ」事故は日常生活における事故の中で最も多く、搬送人員数の推移が事故全体の搬送人員の推移に近いものになっています。

令和4年中は**81,901**人が救急搬送されています（図2-4）。

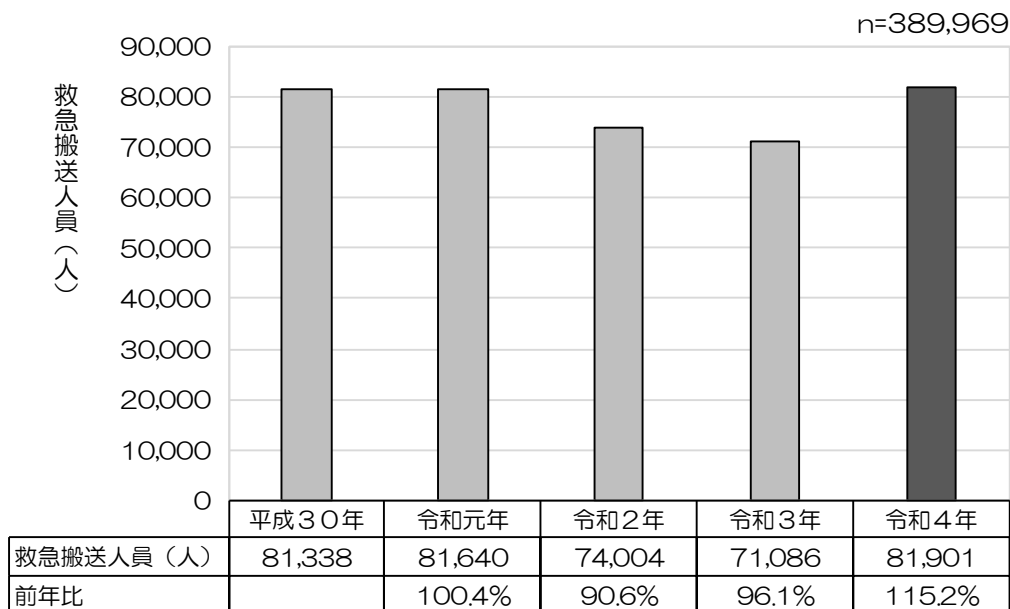


図2-4 年別の救急搬送人員

## (2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、**65歳以上の高齢者**が多く救急搬送されています（図2-5）。

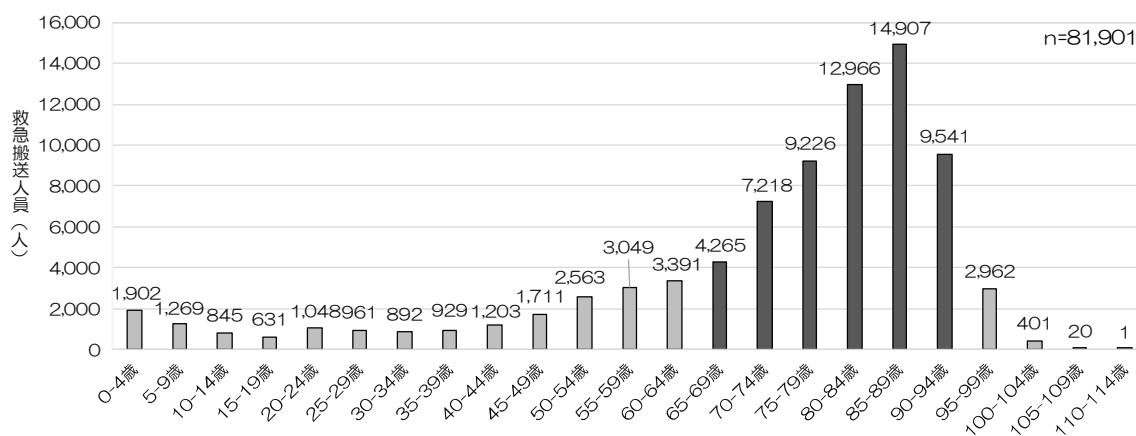


図2-5 年齢層別の救急搬送人員

### (3) 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所が最も多く、次いで道路・交通施設となっています（図2-6）。

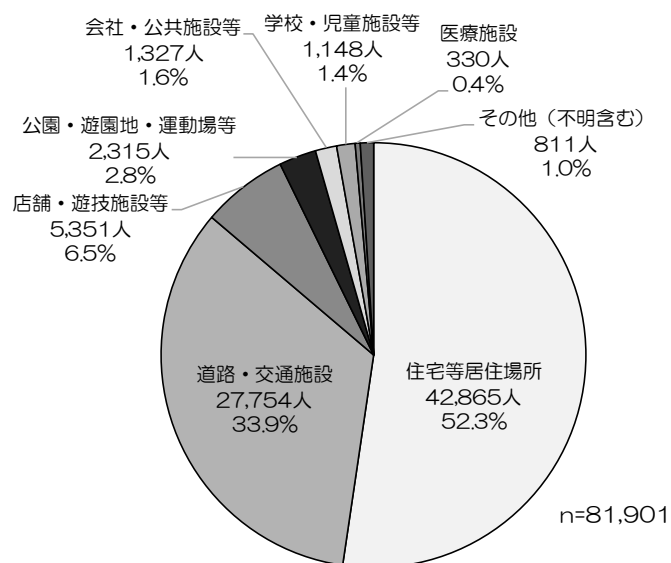


図2-6 発生場所別の救急搬送人員

### (4) 初診時程度別搬送人員

3割以上が入院を要する中等症以上と診断されています（図2-7）。

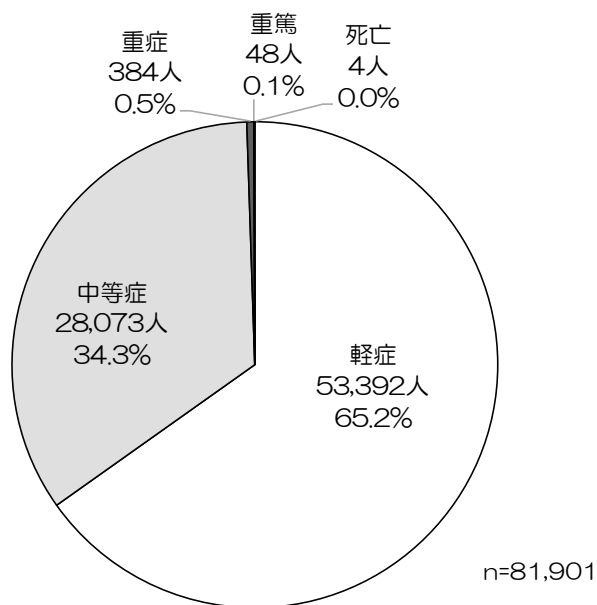


図2-7 初診時程度別の救急搬送人員

#### 【事例 ころぶ】

自宅のトイレ内でマットに足を滑らせて転倒した（80代 中等症）。

## 2. 落ちる

### (1) 年別搬送人員

階段や脚立などから「落ちる」事故で、令和4年中に14,272人が救急搬送されています（図2-8）。

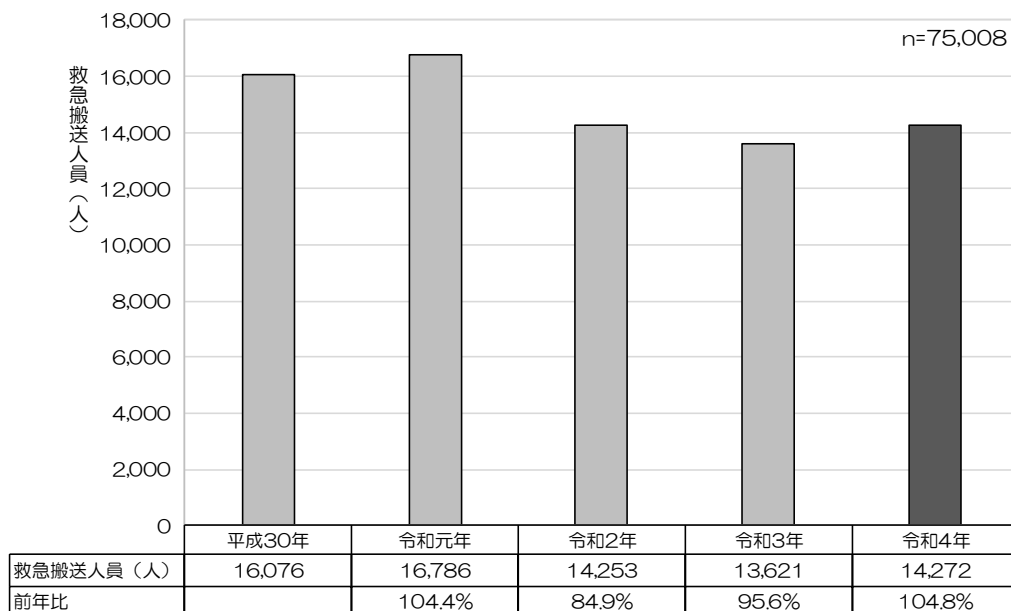


図2-8 年別の救急搬送人員

### (2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、0歳から4歳までが突出して多く、2,150人が救急搬送されています（図2-9）。

ベッド等から落ちる事故や、人に抱かれていて落ちる事故も多く発生しています。

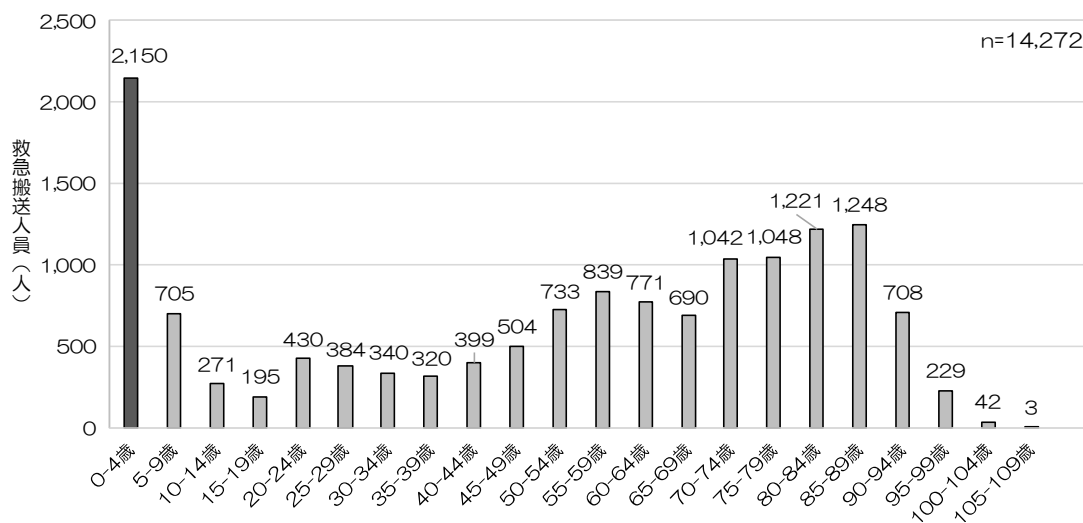


図2-9 年齢層別の救急搬送人員

### (3) 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所が最も多く約6割となっています。

次いで、道路・交通施設、店舗・遊技施設等で多く発生しています(図2-10)。

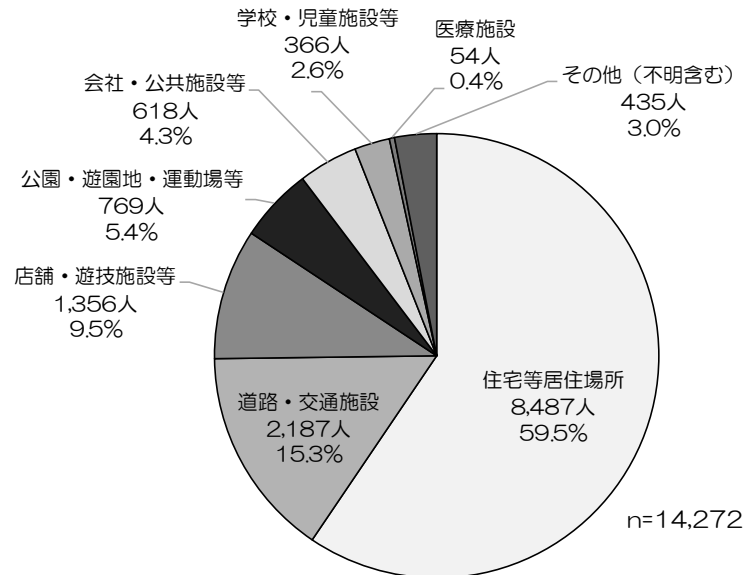


図2-10 発生場所別の救急搬送人員

### (4) 初診時程度別搬送人員

「ころぶ」事故と同様に3割以上が中等症以上と診断されています(図2-11)。

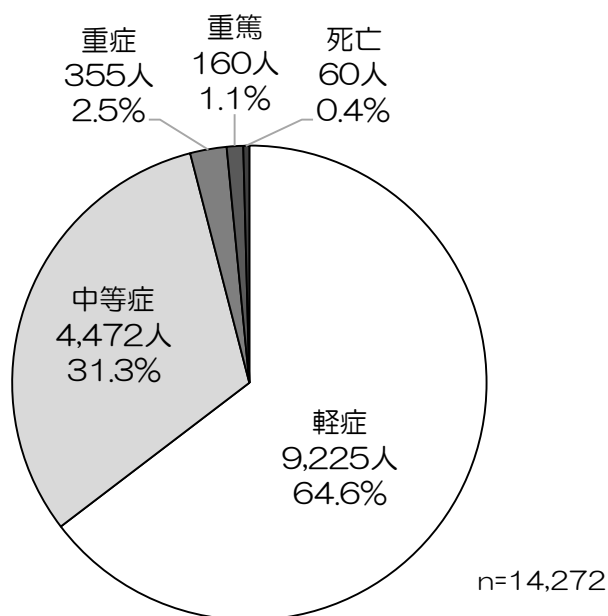


図2-11 初診時程度別の救急搬送人員

#### 【事例 落ちる】

2段ベッドの上で兄弟と遊んでいたところ、誤って床に転落した(4歳 中等症)。

### 3. ぶつかる

#### (1) 年別搬送人員

飛んできたボールに「ぶつかる」事故や、走っていて人やものに「ぶつかる」事故で、令和4年中に**6,449人**が救急搬送されています（図2-12）。

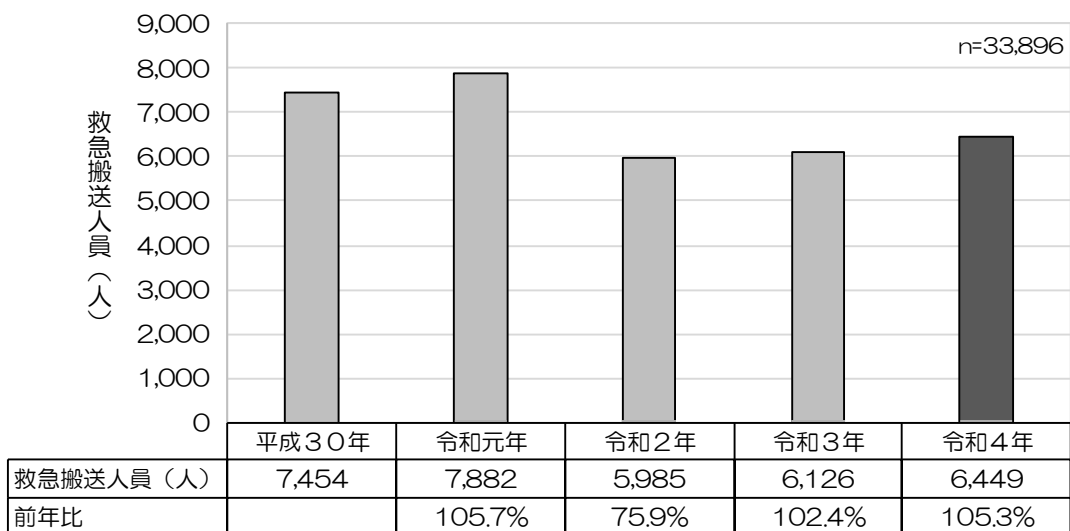


図2-12 年別の救急搬送人員

#### (2) 年齢層別搬送人員

年齢層別（5歳単位）では、**10代以下**で多くなっています。  
加齢とともに減少する傾向が見られます（図2-13）。

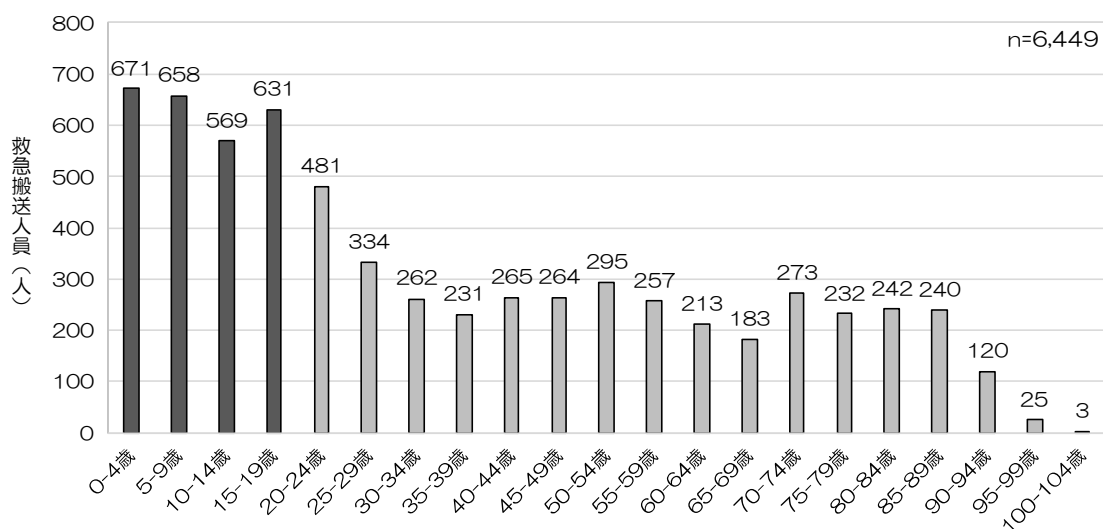


図2-13 年齢層別の救急搬送人員

### (3) 発生場所別搬送人員

発生場所別では、住宅等居住場所が最も多くなっています。

次いで公園・遊園地・運動場等や道路・交通施設での事故が多く発生しています

(図 2-14)。

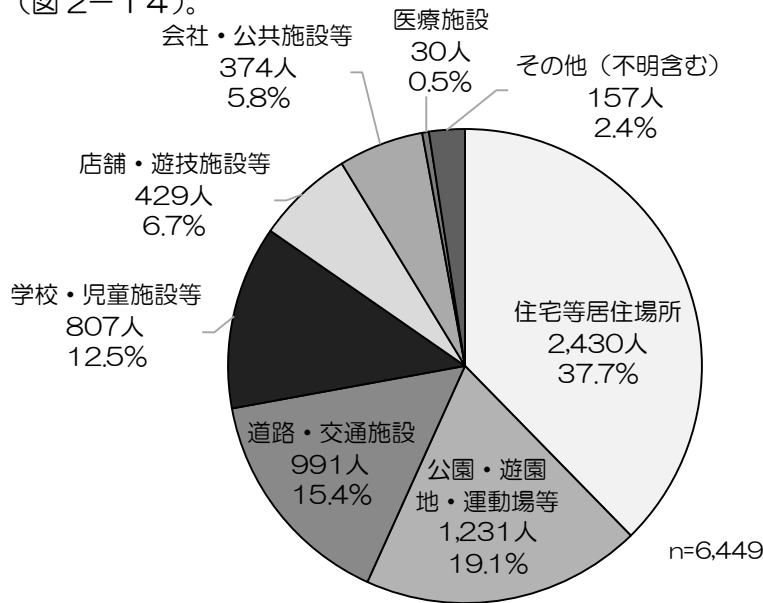


図 2-14 発生場所別の救急搬送人員

### (4) 初診時程度別搬送人員

初診時程度別では、全体の8割以上が軽症ですが、重症や重篤と診断される事故も発生しています(図 2-15)。

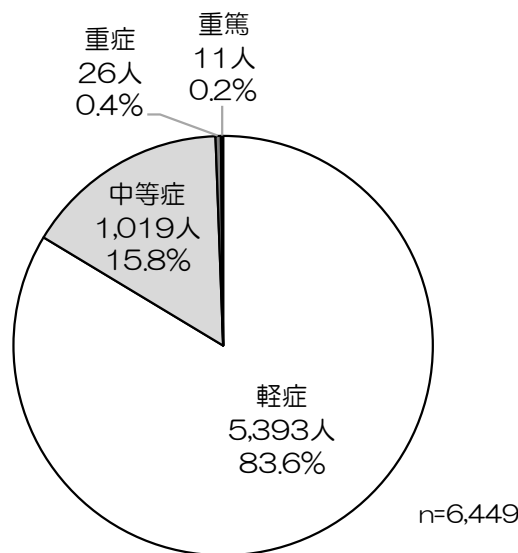


図 2-15 初診時程度別の救急搬送人員

#### 【事例 ぶつかる】

サッカーの試合中に、相手チームの選手と接触した際に肘が当たり受傷した(10代中等症)。



## 4. ものがつまる・ものが入る・誤って飲み込む

### (1) 年別搬送人員

食べ物を喉につまらせたり、たばこや玩具などを飲み込んでしまう事故により、令和4年中は**3,547人**が救急搬送されています（図2-16）。

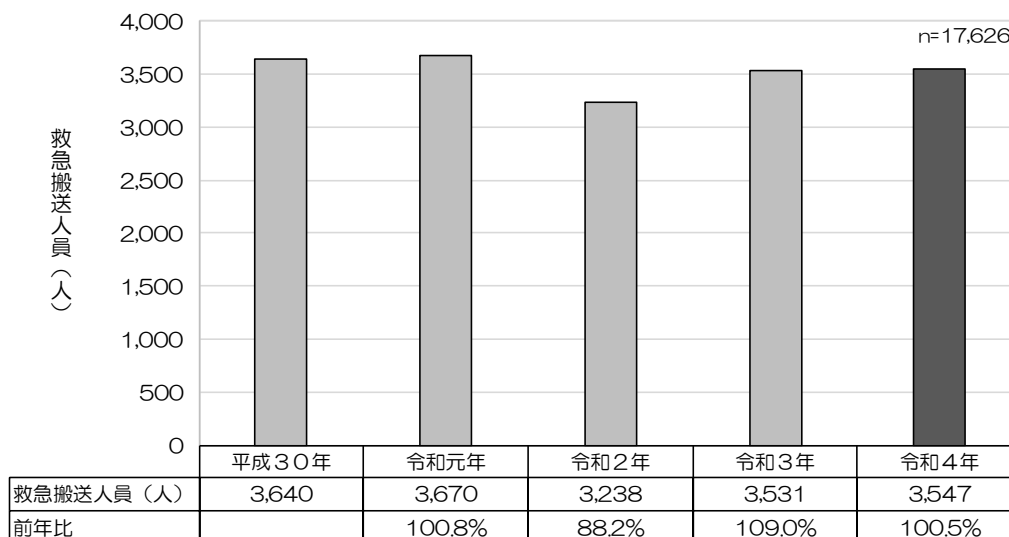


図2-16 年別の救急搬送人員

### (2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、0歳から4歳までが最も多く、**1,010人**が救急搬送されています（図2-17）。

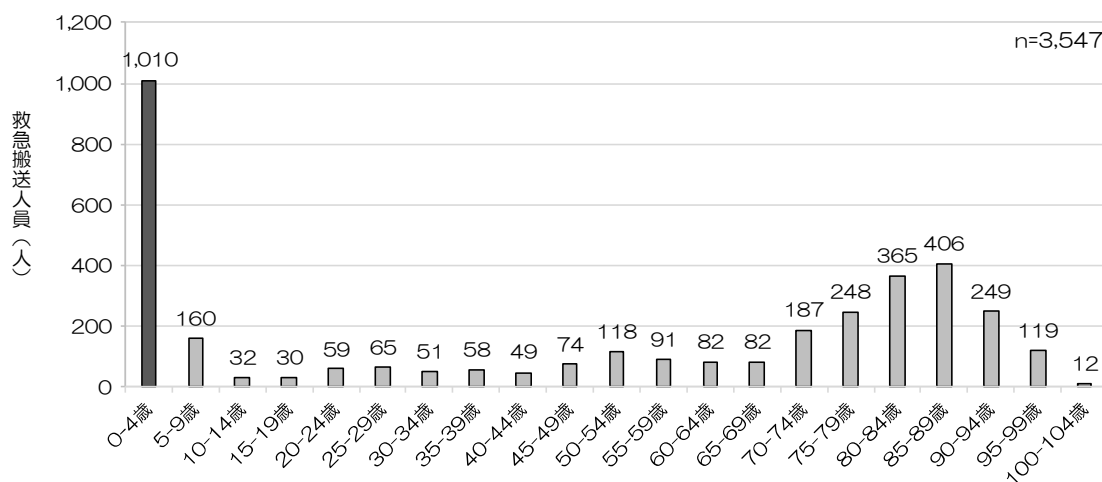


図2-17 年齢層別の救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所が約9割と最も多くなっています（図2-18）。

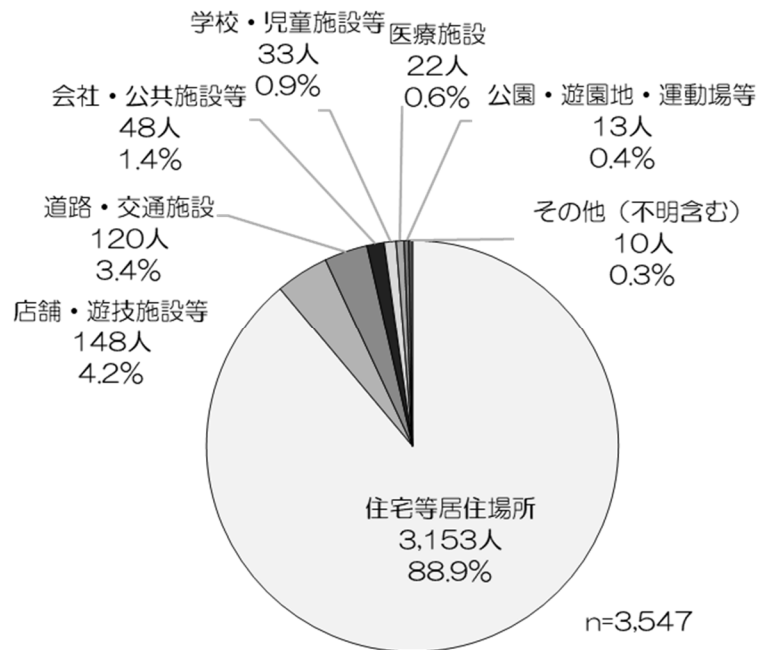


図2-18 発生場所別の救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

3割以上が中等症以上と診断されています。

「ころぶ」、「落ちる」事故よりも重篤・死亡の割合が多くなっています（図2-19）。

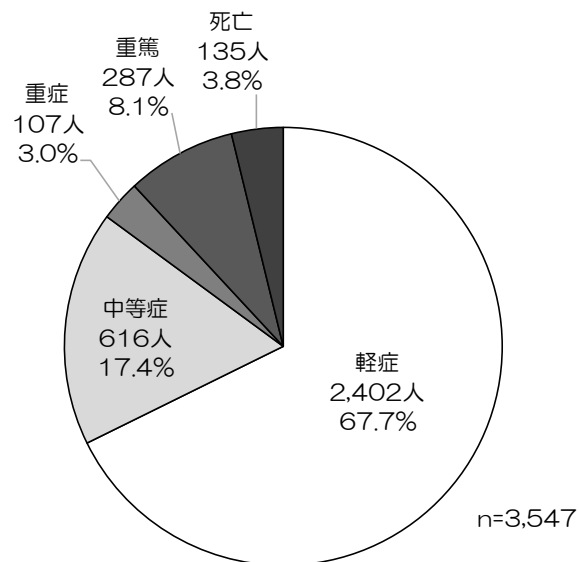


図2-19 初診時程度別の救急搬送人員

【事例 ものがつまる】

餅を食べていたところせき込み始め、意識を失った（80代 重症）。

## 5. 切る・刺さる

### (1) 年別搬送人員

刃物で切ったり、何かが刺さったりする事故で、令和4年中に**3,273**人が救急搬送されています（図2-20）。

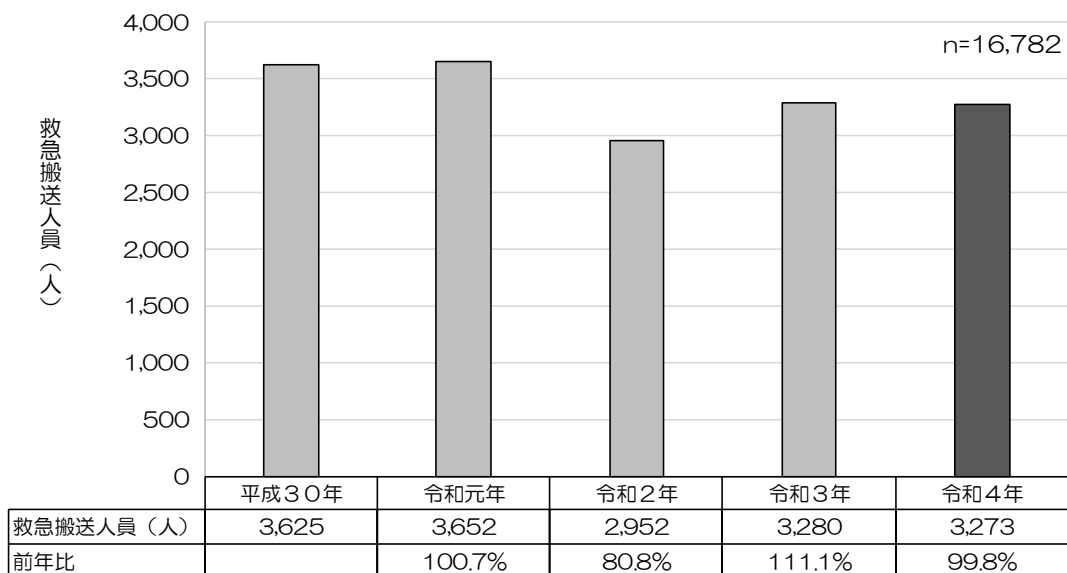


図2-20 年別の救急搬送人員

### (2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、**20代**が多くなっています（図2-21）。

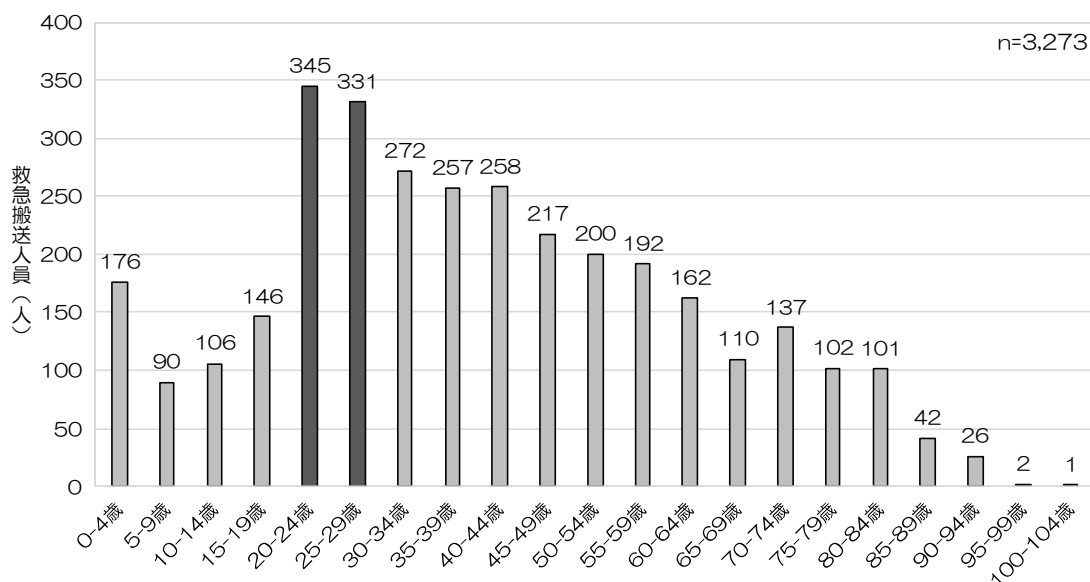


図2-21 年齢層別の救急搬送人員

### (3) 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所が最も多く6割以上を占めています。

次いで店舗・遊技施設等、会社・公共施設等が多くなっています(図2-22)。

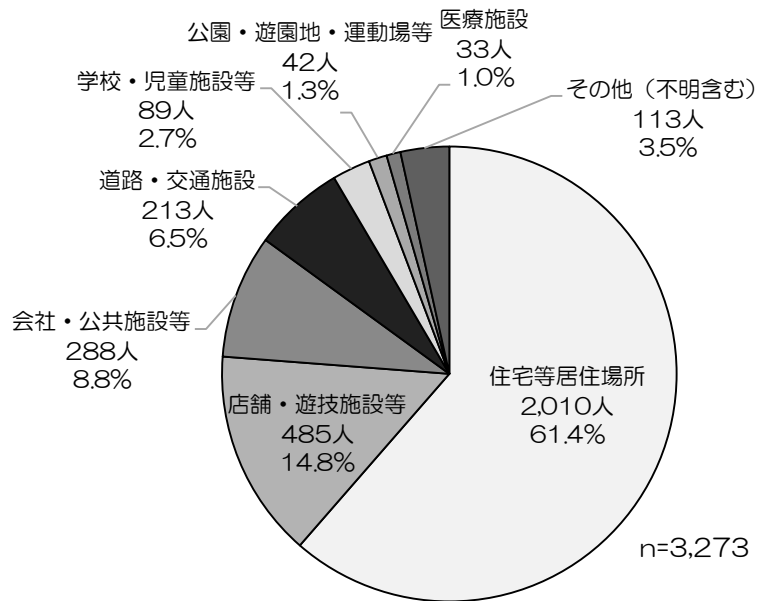


図2-22 発生場所別の救急搬送人員

### (4) 初診時程度別搬送人員

全体の8割以上が軽症ですが、重症、重篤、死亡と診断される事故も発生しています(図2-23)。

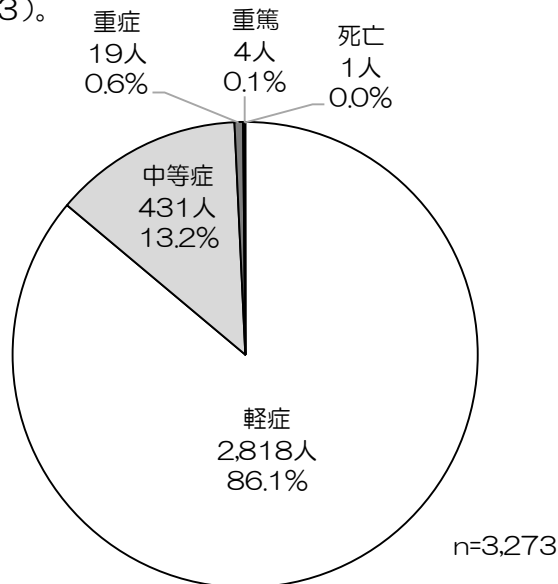


図2-23 初診時程度別の救急搬送人員

#### 【事例 切る】

食器をシンクに入れようとした際に転倒し、持っていた皿が割れてその破片で手を切ってしまった(50代 中等症)。

## 6. はさむ・はさまれる

### (1) 年別搬送人員

ドアや機械、鉄道車両の戸袋などにはさまれたり巻き込まれたりする事故で、令和4年中に1,468人が救急搬送されています（図2-24）。

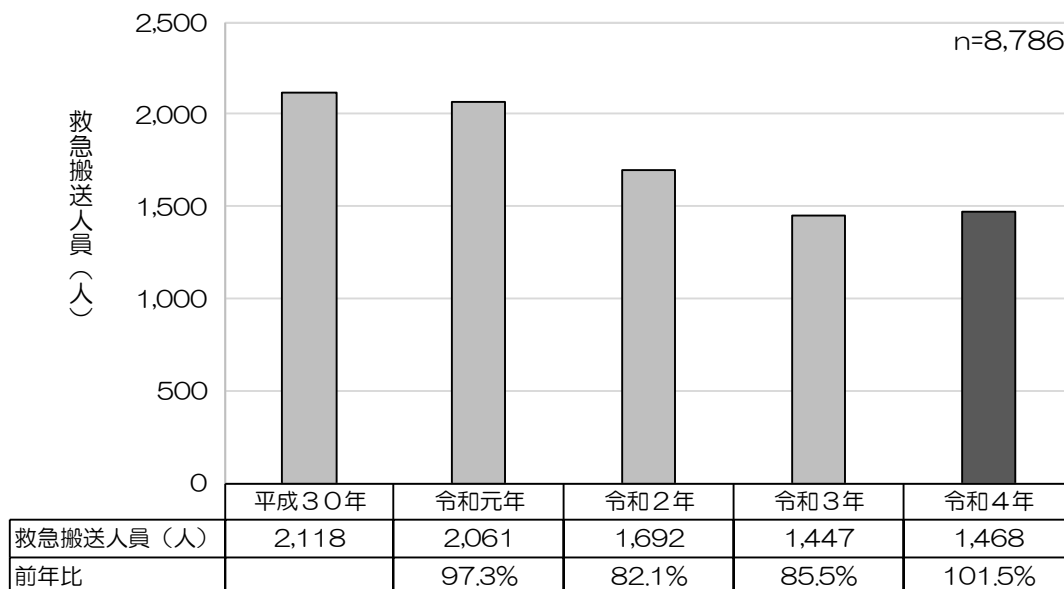


図2-24 年別の救急搬送人員

### (2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、0歳から4歳までが最も多く224人が救急搬送されています（図2-25）。

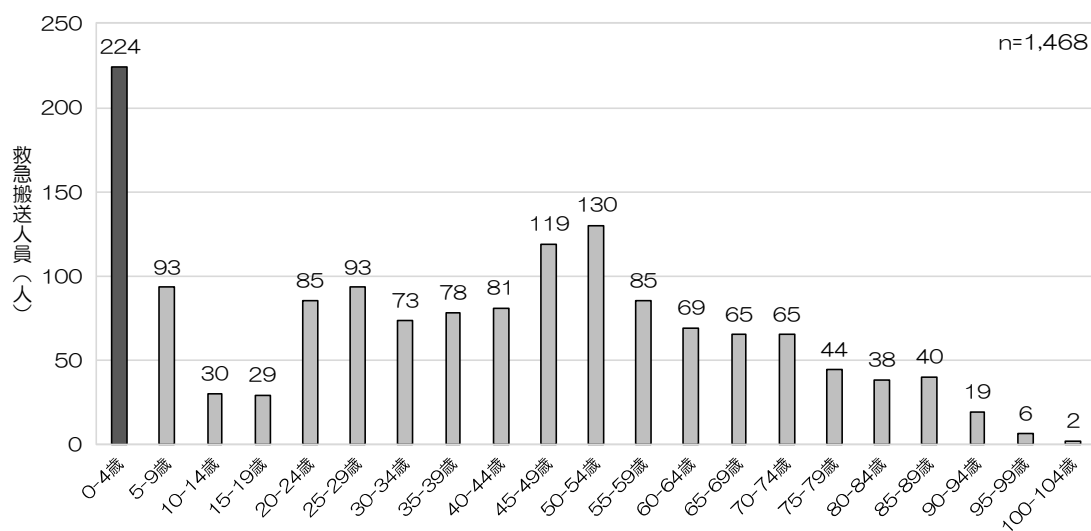


図2-25 年齢層別の救急搬送人員

### (3) 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所が3割以上と最も多なっています。

次いで会社・公共施設等や道路・交通施設でも多く発生しています(図 2-26)。

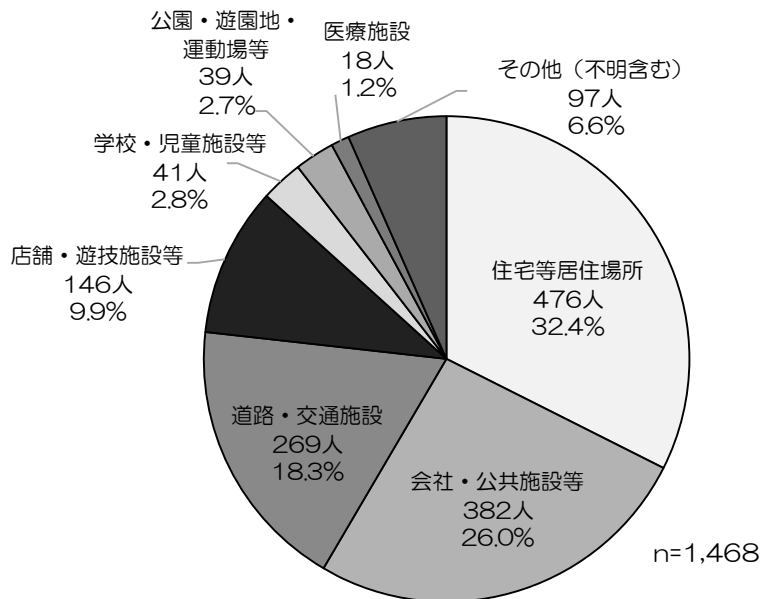


図 2-26 発生場所別の救急搬送人員

### (4) 初診時程度別搬送人員

3割以上が中等症以上と診断されています(図 2-27)。

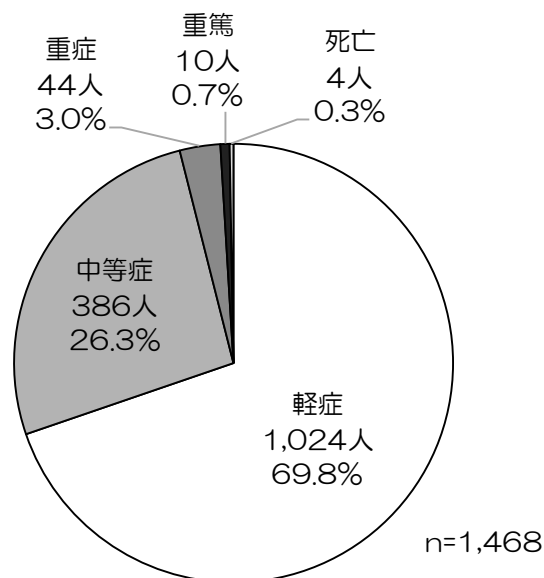


図 2-27 初診時程度別の救急搬送人員

#### 【事例 はさまれる】

自宅でベランダの窓を閉めたところ誤って自身の指を挟んでしまい受傷した(40代中等症)。

## 7. やけど

### (1) 年別搬送人員

熱湯や天ぷら油等によるやけどで、令和4年中に1,176人が救急搬送されます（図2-28）。

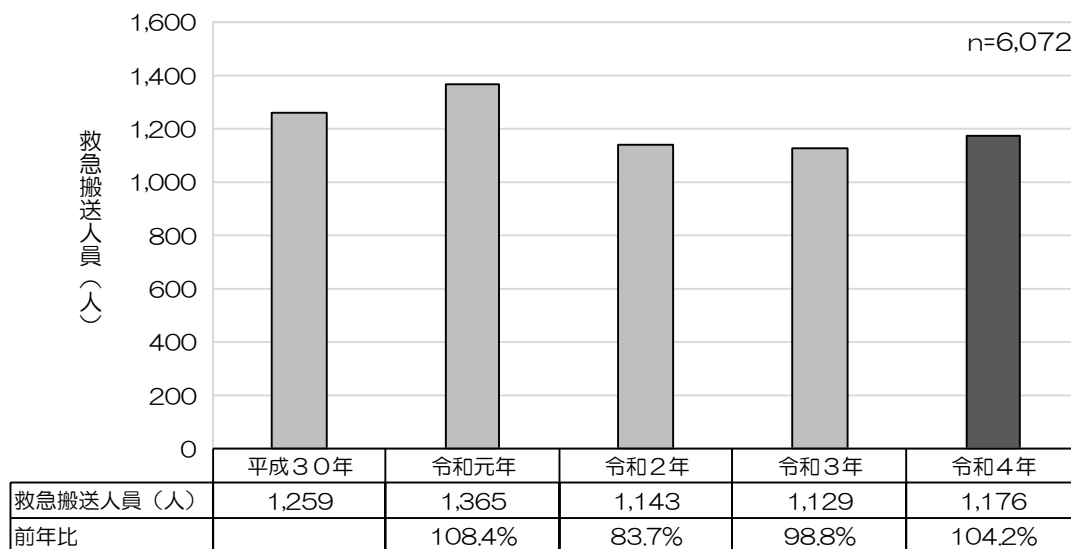


図2-28 年別の救急搬送人員

### (2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、0歳から4歳までが最も多く、339人が救急搬送され、全体の約3割を占めています（図2-29）。

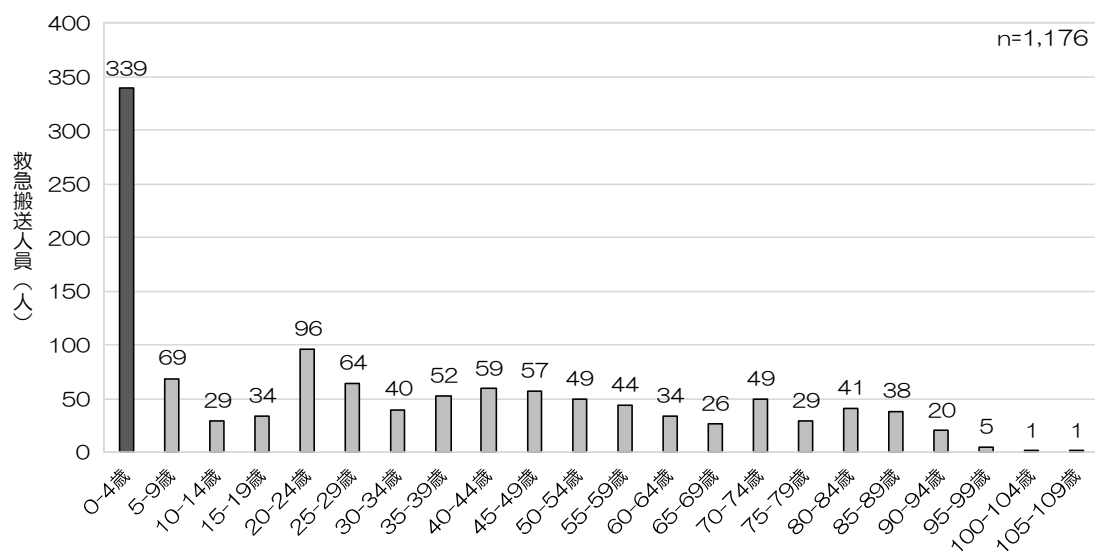


図2-29 年齢層別の救急搬送人員

### (3) 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所の割合が最も多く、約8割となっています（図2-30）。

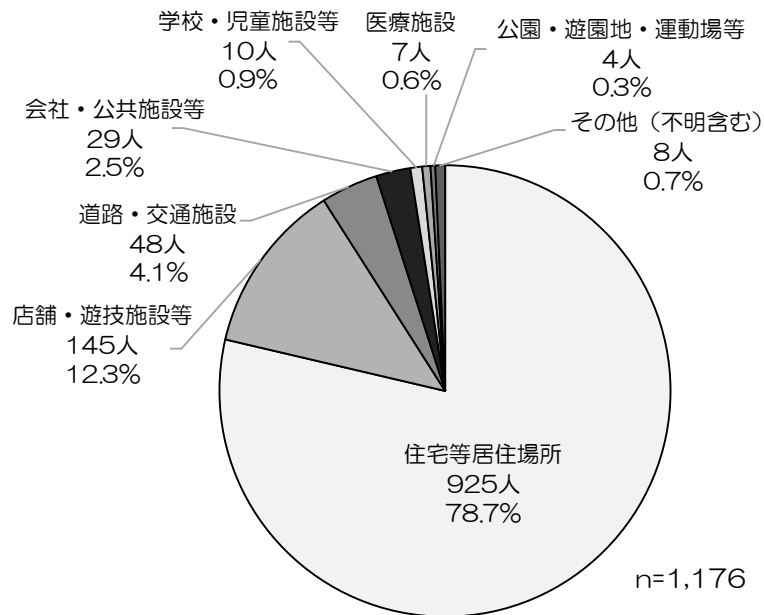


図2-30 発生場所別の救急搬送人員

### (4) 初診時程度別搬送人員

2割以上が中等症以上と診断されています（図2-31）。

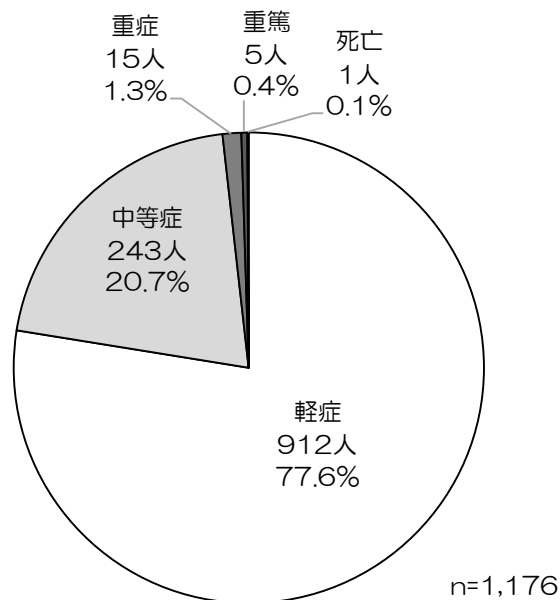


図2-31 初診時程度別の救急搬送人員

#### 【事例 やけど】

テーブル上に置いてあったカップ麺を倒してしまい、熱湯が体にかかってやけどした（1歳 中等症）。



## 8. かまれる・刺される

### (1) 年別搬送人員

犬にかまれる、蜂に刺される等で、令和4年中に**790人**が救急搬送されています（図2-32）。

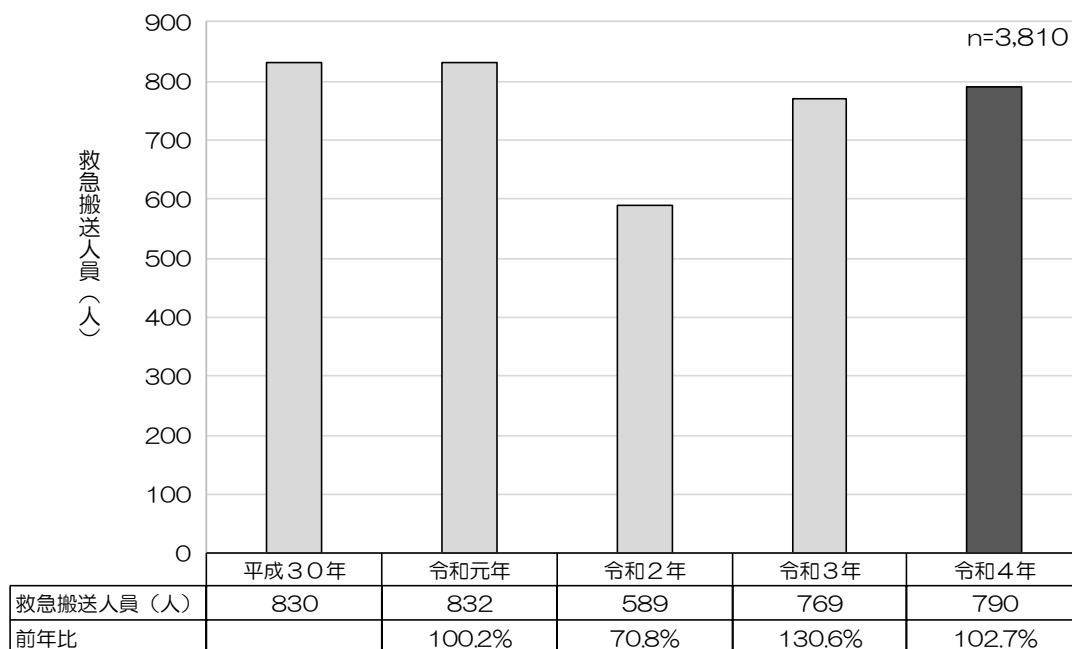


図2-32 年別の救急搬送人員

### (2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、50歳から54歳までが**62人**と多くなっていますが、各年代で発生しています（図2-33）。

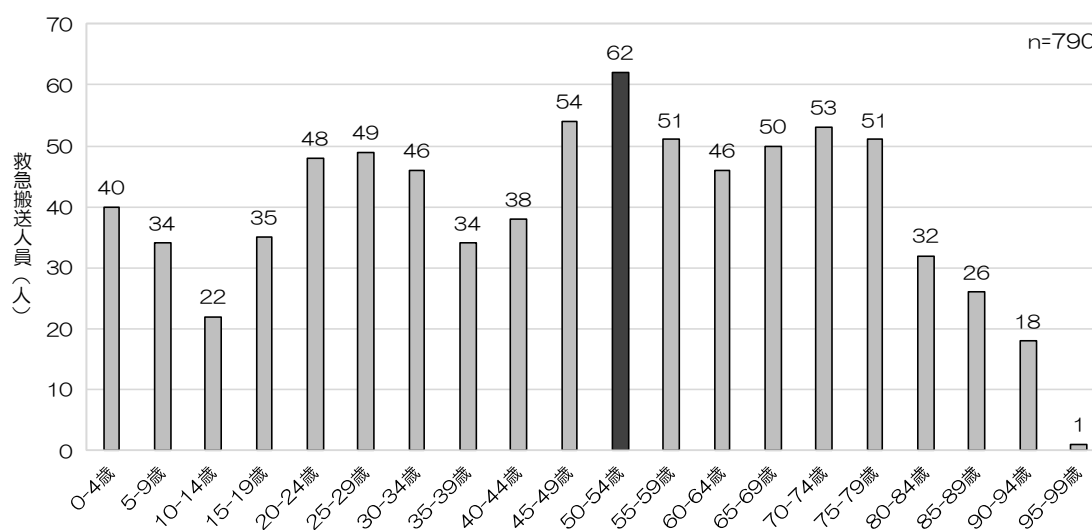


図2-33 年齢層別の救急搬送人員

### (3) 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所が多くなっており、ペットの動物にかまれる等の事故が発生しています。

次いで道路・交通施設が多くなっています（図 2-34）。

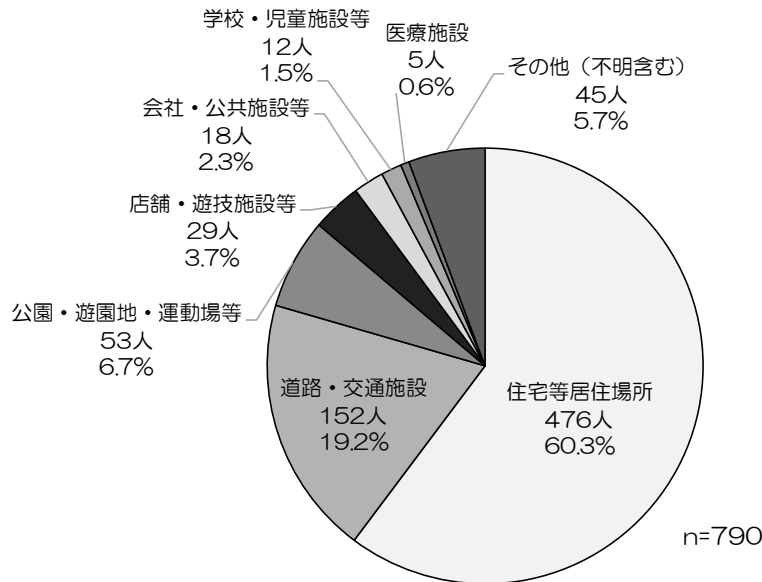


図 2-34 発生場所別の救急搬送人員

### (4) 初診時程度別搬送人員

軽症が約9割を占めていますが、中等症以上と診断される事故も発生しています（図 2-35）。

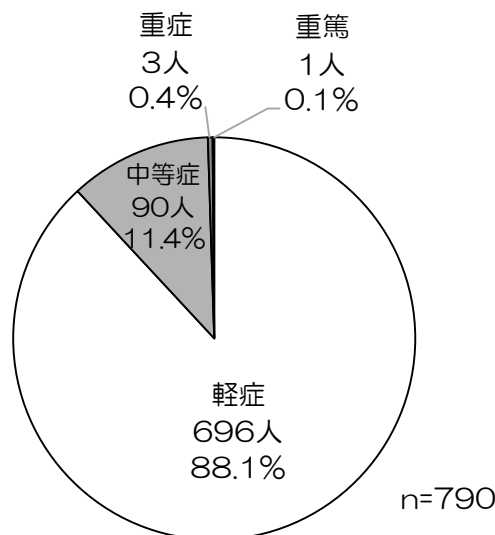


図 2-35 初診時程度別の救急搬送人員

#### 【事例 刺される】

洗濯物を取り込んでいたところ、服に紛れていた蜂に刺された（50代 中等症）。

## 9. おぼれる

### (1) 年別搬送人員

浴槽や海、河川等での事故で、令和4年中は**449人**が救急搬送されています。

過去5年の推移をみると**減少傾向**にあり、**70代**の搬送人員が特に減少しています(図2-36)。

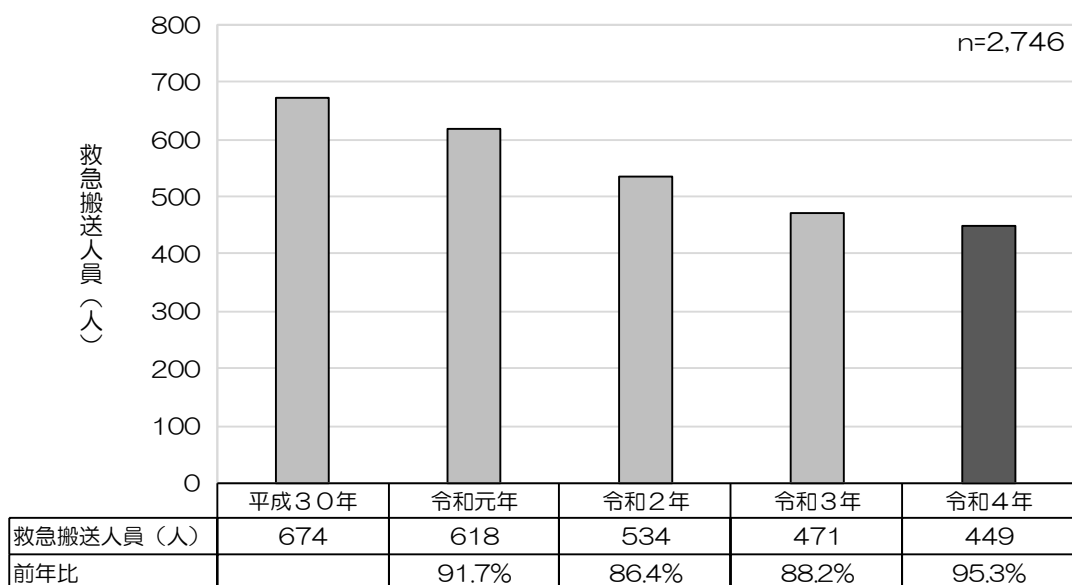


図2-36 年別の救急搬送人員

### (2) 年齢層別搬送人員

年齢層(5歳単位)別では、**乳幼児**、**高齢者**に多く発生しています(図2-37)。

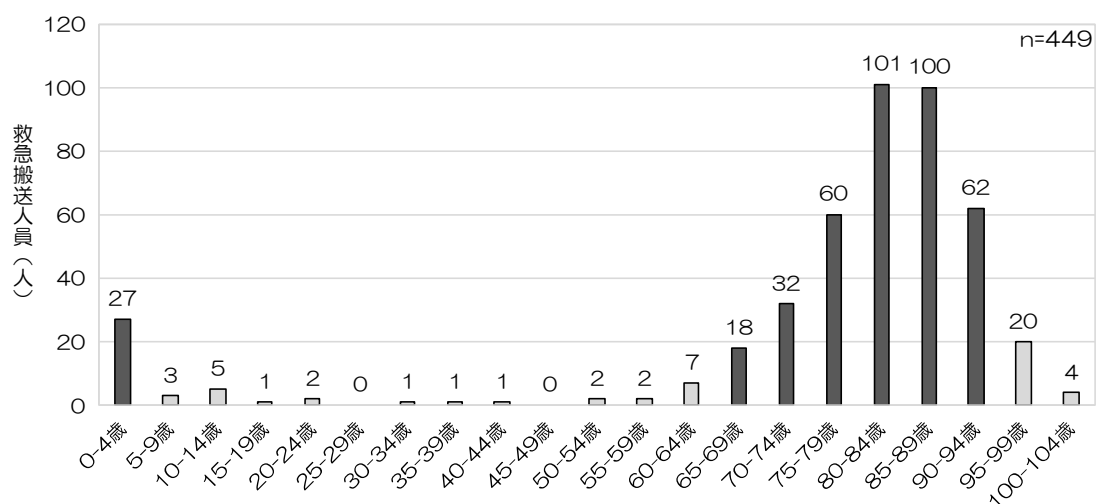


図2-37 年齢層別の救急搬送人員

### (3) 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所が約9割で最も多くなっています（図2-38）。

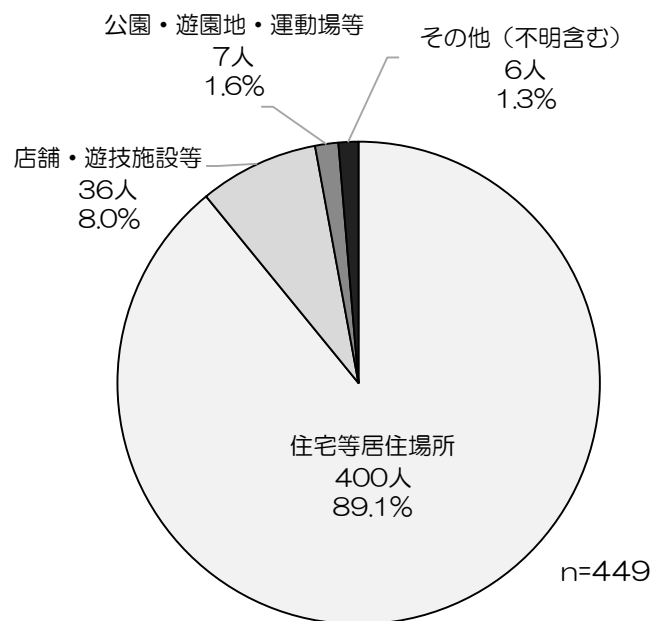


図2-38 発生場所別の救急搬送人員

### (4) 初診時程度別搬送人員

9割以上が中等症以上と診断されており、さらに約8割が重篤又は死亡と診断されています（図2-39）。

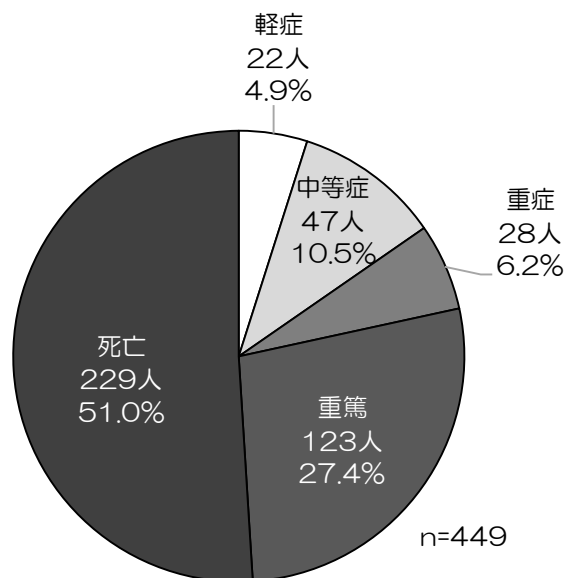


図2-39 初診時程度別の救急搬送人員

#### 【事例 おぼれる】

なかなか浴室から出てこないため様子を見に行くと、浴槽内で顔を水没させ意識がない状態だった（70代 死亡）。

## 第3部 年齢から見た事故

ここでは、年齢層別での比較や乳幼児、就学区分、成人、高齢者などの年齢区分ごとに事故の傾向や事故の要因等を取り上げています。

令和4年中の救急搬送人員を年齢層別に見ると、70代が23,337人、80代が36,823人と多く救急搬送されています。

また、若い年代を見ると9歳以下が11,406人と多く救急搬送されています（図3-1）。

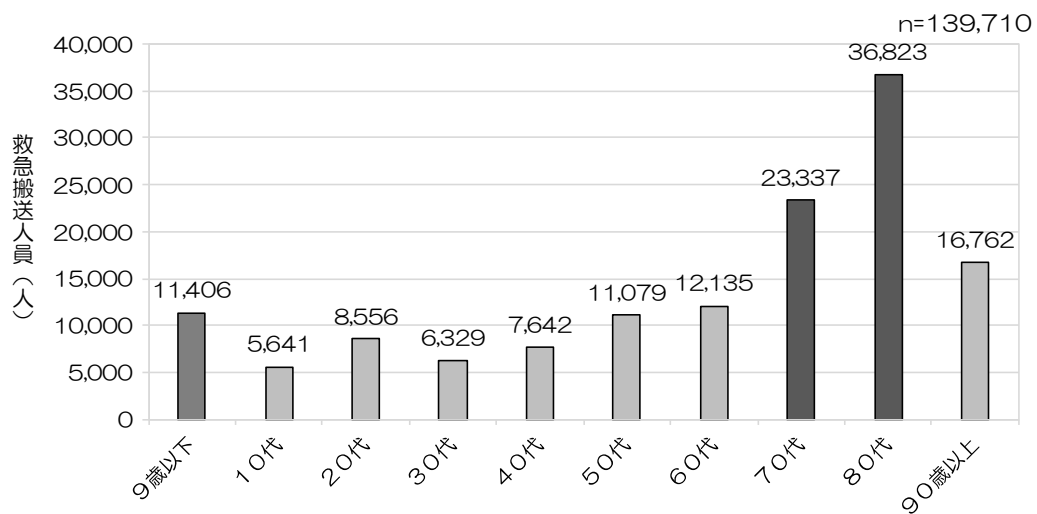


図3-1 年齢層別の救急搬送人員

# 1. 年齢区分から見た事故

## (1) 0歳～5歳（乳幼児）の事故

### ① 0歳～5歳

#### ア 年別搬送人員

0歳から5歳までの乳幼児の事故で、平成30年から令和4年までの5年間に45,090人が救急搬送されています。

コロナ禍の前後で大きな差はなく推移しています。

令和4年は8,608人が救急搬送されています（図3-2）。

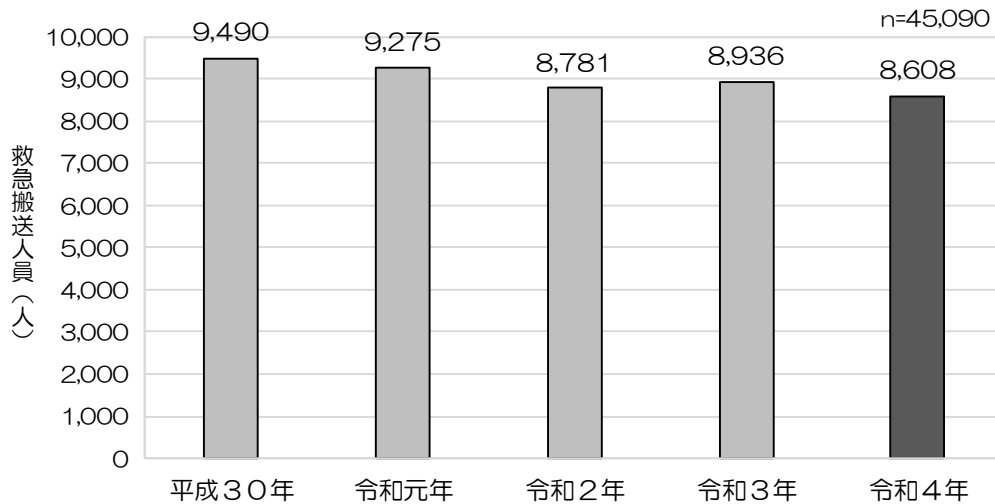


図3-2 年別の救急搬送人員

#### イ 年齢別搬送人員

年齢別では、1歳児の救急搬送人員が1,929人と最も多く、次いで2歳児が1,725人となっています（図3-3）。

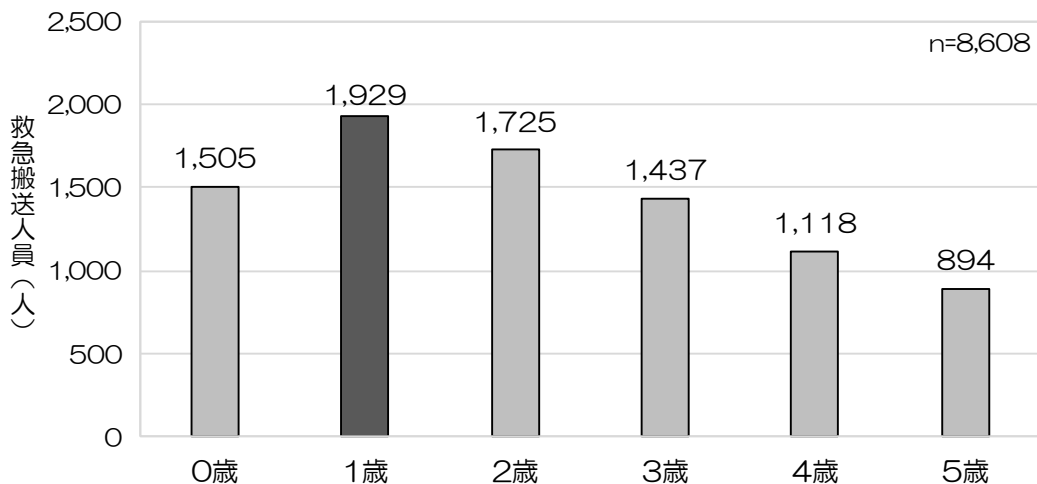


図3-3 年齢別の救急搬送人員

### ウ 時間帯別搬送人員

時間帯別では、19時台をピークに多く救急搬送されています（図3-4）。

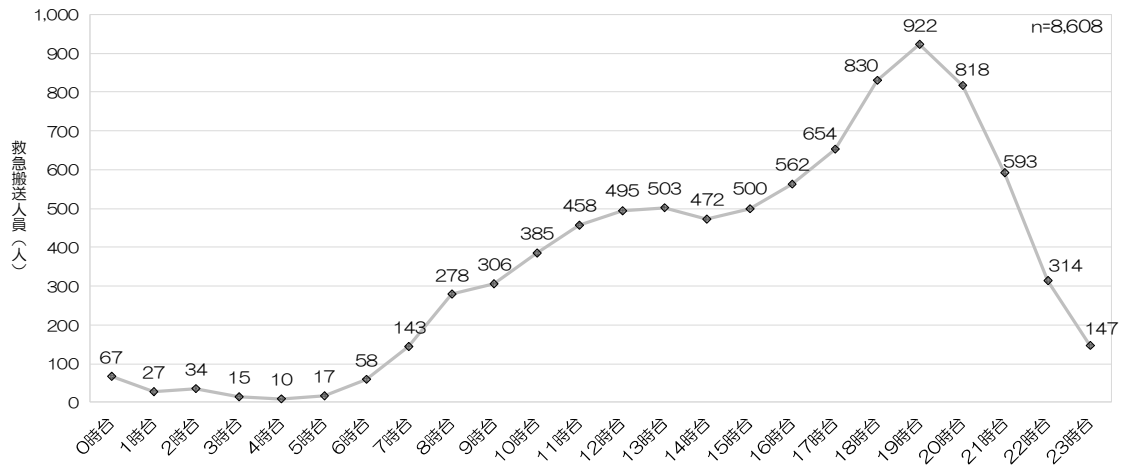


図3-4 時間帯別の救急搬送人員

### エ 発生場所別搬送人員

7割以上が住宅等居住場所となっています（図3-5）。

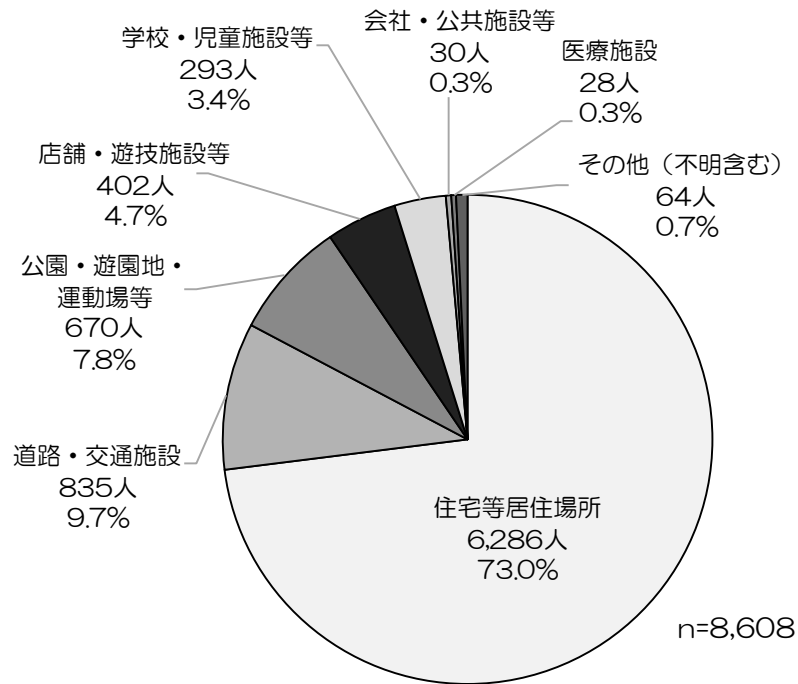
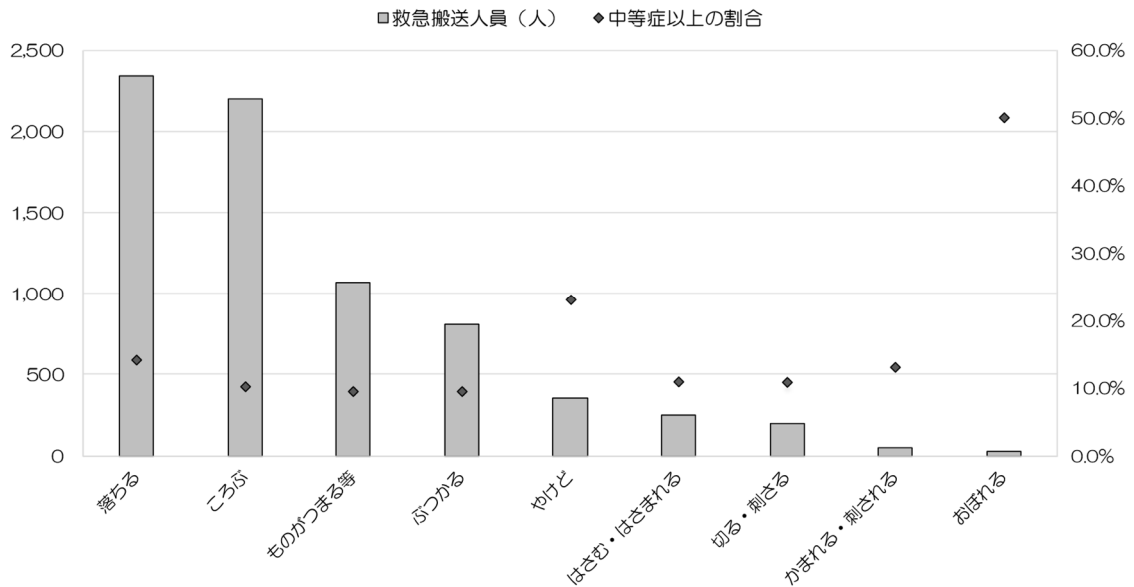


図3-5 発生場所別の救急搬送人員

## オ 事故種別ごとの搬送人員

もっとも多いのは「落ちる」事故で、2,342人が救急搬送されています。  
中等症以上の割合が最も高いのは「おぼれる」事故で、5割と突出して高くなっています。

「やけど」でも2割以上が中等症以上と診断されています（図3-6）。



事故種別	落ちる	ころぶ	ものがつまる等	ぶつかる	やけど	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	2,342人	2,203人	1,065人	809人	358人	250人	195人	46人	28人
中等症以上の割合	14.0%	10.1%	9.4%	9.4%	22.9%	10.8%	10.8%	13.0%	50.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-6 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合



## カ 年齢ごとに見る特徴的な事故の変化

乳幼児は日々成長し、昨日できなかったことが、今日できるようになっているかもしれません。子どもの発達を知り、その時期に起こりやすい事故を知り対策をとることで、重大な事故を防ぐことが出来ます。

### 0歳

ベッド（172人）や、人（86人）が抱いている状態から「落ちる」事故が多く発生しています。

包み・袋（79人）、たばこ（63人）を「誤って飲み込む」事故も多く発生しており、なんでも口に入れてしまう特徴が見てとれます。

ポット・魔法瓶（20人）に入っている熱い液体で「やけど」をする事故も発生しています。

### 1歳

一人歩きを始める頃で、「ころぶ」事故、「落ちる」事故ともに階段（ころぶ：27人、落ちる：135人）、椅子（ころぶ：26人、落ちる：87人）が関連する事故が多く発生しています。

シール、プラモデル等のその他の玩具（33人）やたばこ（30人）を「誤って飲み込む」事故も多く発生しています。

手動ドア（35人）に「はさむ・はさまれる」事故、味噌汁・スープ（30人）などによる「やけど」の事故など、様々な事故が発生しています。

### 2歳

「落ちる」事故では、階段（117人）や自転車の補助イス（48人）などに関連して多く発生しています。

「ころぶ」事故では、机・テーブル（34人）などの家具類で多く発生しています。

手動ドア（27人）に「はさむ・はさまれる」事故、カップ麺・鍋（各6人）に起因する「やけど」の事故も発生しており、注意が必要です。

### 3歳 | 5歳

階段（91人）や椅子（64人）で「ころぶ」事故が多く発生しています。

2歳児と同じく、階段（146人）や自転車の補助イス（77人）、椅子（76人）から「落ちる」事故も多く発生しています。

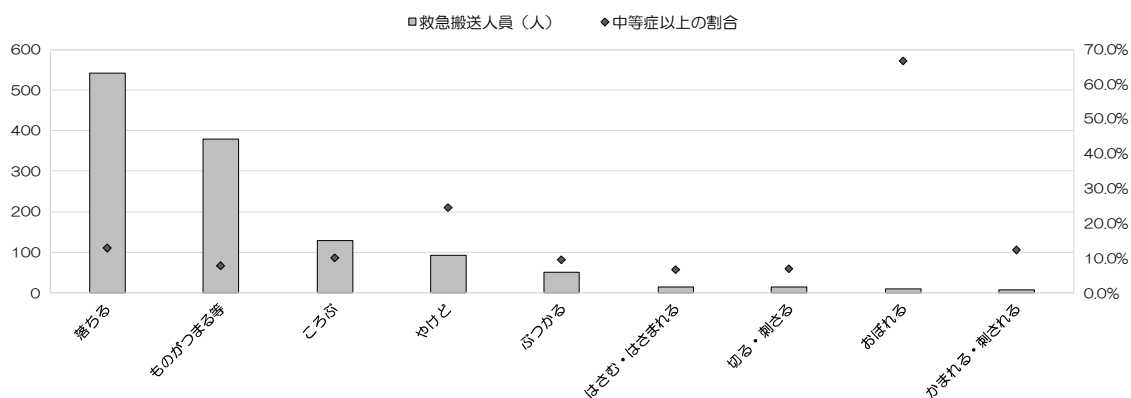
プラスチックのブロック等のその他の玩具（35人）などを「誤って飲み込む」事故や、ナイフ（17人）による「切る・刺さる」事故が発生しており、注意が必要です。

## ② 0歳

### ア 事故種別ごとの搬送人員

「落ちる」事故で541人が救急搬送されています。

「おぼれる」事故は、中等症以上となる割合が約7割と最も高くなっています（図3-7）。



事故種別	落ちる	ものがつまる等	ころぶ	やけど	ぶつかる	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	おぼれる	かまれる・刺される
救急搬送人員	541人	378人	128人	93人	52人	15人	14人	9人	8人
中等症以上の割合	13.1%	7.9%	10.2%	24.7%	9.6%	6.7%	7.1%	66.7%	12.5%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-7 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

### イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

0歳では、ベッドから落ちる事故が最も多く、172人が救急搬送されています。

「ものがつまる」等の事故ではお菓子の袋やペットボトルのラベルなどの「包み・袋」の誤飲による事故が多く発生しています（表3-1）。

表3-1 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	落ちる	ものがつまる等	ころぶ	やけど	ぶつかる	はさむ・はさまれる	おぼれる	切る・刺さる	かまれる・刺される
1位	ベッド 172人	包み・袋 79人	机・テーブル 11人	ポット・魔法瓶 20人	机・テーブル 10人	椅子 4人	浴槽 9人	ハサミ・爪切り 7人	動物等 6人
2位	人 86人	たばこ 63人	人 10人	お茶・コーヒー類 18人	人 7人	手動ドア 2人		ガラス片 2人	虫 2人
3位	階段 67人	その他の玩具 42人	ベビーカー 9人	味噌汁・スープ 17人	その他の家具 6人	ベビーカー 自動車のドア 窓 等		ガラス瓶 手動ドア プラスチック製の 玩具 等	
4位	ソファ 47人	異物 13人	椅子 7人	熱湯 12人	容器・ケース スマホ・携帯電話				
5位	椅子 43人	電池 10人	敷物類 4人	おかゆ類、種類、食器類 7人	各3人	各1人		各1人	

※その他の玩具とは、プラスチック製の玩具やフィギュア、シール等

※「ぶつかる」におけるその他の家具とは、鏡、棚等

## ウ 0歳の事事故事例

### 【事例1 ソファから転落】

ソファの上に寝かせていたところ、目を離したすきに床に転落した（2か月中等症）。

#### 【事故防止ポイント】

ベッドやソファ、階段などから「落ちる」事故が多く発生しています。

昨日までできなかった寝返りが、今日できるかもしれません。

- 目を離すときはベビーベッドの柵を上げましょう。
- 高い所に寝かせないようにしましょう。
- 階段の上下には、転落防止用の柵等をつけましょう。

### 【事例2 ラベルを誤って飲み込む】

娘が苦しそうにしており、確認するとお菓子のビニール袋を一部飲み込んでいた（9か月 中等症）。

#### 【事故防止ポイント】

乳幼児は、トイレットペーパーの芯（39mm）を通る大きさのものなら、口に入れてしまい飲み込む危険性があります。

早い子では、5か月頃から「物をつかむ」、つかんだら「口に入れる」行動が見られます。

- 成長段階に応じ、食べ物は適切な大きさに切る、つぶす等をして食べさせましょう。
- 子どもが飲み込めそうなものが子どもの届くところがないように、日頃から整理整頓をこころがけましょう。

### 【事例3 入浴中におぼれる】

入浴中に親が目を離していた間に、浴槽に全身が水没していた（6か月 重篤）。

#### 【事故防止ポイント】

おぼれの事故の多くは家庭のお風呂で発生しており、重症化しやすいため、十分気を付けましょう。

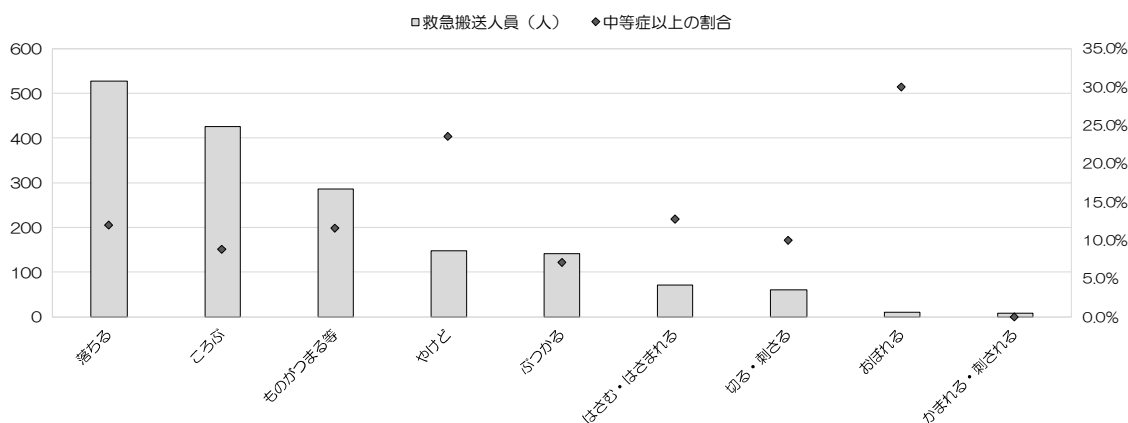
- 子どもは大人の後に浴室に入れ、先に浴室から出しましょう。
- 大人が髪を洗う時は子供を浴槽から出しましょう。
- 入浴後の浴槽の水は抜きましょう。

### ③ 1歳

#### ア 事故種別ごとの搬送人員

歩く、走る、といった行動ができるようになる時期なので、0歳に比べ、「ころぶ」事故が3倍以上になっています。

「おぼれる」事故は、中等症以上となる割合が最も高く、「やけど」事故でも2割以上が中等症以上と診断されています（図3-8）。



事故種別	落ちる	ころぶ	ものがつまる等	やけど	ぶつかる	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	おぼれる	かまれる・刺される
救急搬送人員	528人	425人	285人	149人	141人	71人	60人	10人	9人
中等症以上の割合	11.9%	8.7%	11.6%	23.5%	7.1%	12.7%	10.0%	30.0%	0.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-8 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

#### イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

階段、椅子等から「落ちる」事故が多く発生しています。

手動ドアに「はさむ・はさまれる」事故も多く発生しています（表3-2）。

表3-2 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	落ちる	ころぶ	ものがつまる等	やけど	ぶつかる	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	おぼれる	かまれる・刺される
1位	階段	階段	その他の玩具	味噌汁・スープ	机・テーブル	手動ドア	ナイフ 歯ブラシ	浴槽	動物等
	135人	27人	33人	30人	21人	35人		9人	7人
2位	椅子	椅子	たばこ	お茶・コーヒー類	その他の家具	自転車	各13人	池	虫
	87人	26人	30人	25人	15人	7人		1人	2人
3位	ベッド	机・テーブル	電池	食器類	人	鉄道車両の戸袋	ハサミ・爪切り		
	53人	25人	21人	22人	14人	5人	10人		
4位	ソファ	その他の家具	野菜・果物	ポット・魔法瓶	手動ドア 壁・天井	その他の家具 椅子	食器類		
	36人	24人	16人	19人			7人		
5位	自転車の補助イス	ベッド	薬剤等	鍋	各10人	各3人	ガラス片		
	31人	20人	14人	12人			5人		

※「ころぶ」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、ラック等

「ぶつかる」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、タンス等

「はさむ・はさまれる」におけるその他の家具とは、クローゼットの扉、棚等

※その他の玩具とは、ミニカーの部品、シール、粘土等

## ウ 1歳の事故事例

### 【事例1 椅子から落ちる】

食事中に椅子の上に立ち上がり、後方から落下して受傷した（1歳 軽症）。

#### 【事故防止ポイント】

- 歳児と比べ、活発に動くようになります。
- ・普段から目を離さないよう注意しましょう。
- ・椅子などに座らせる時は、チェアベルト等を活用し、大きな事故にならないように工夫しましょう。

### 【事例2 薬の誤飲】

親が普段飲んでいる薬が開封されていることに気づき、子どもを見ると口の周りに薬が付着していた（1歳 軽症）。

#### 【事故防止ポイント】

- ・医薬品は、子どもの手の届くところに置かないようにしましょう。
- ・医薬品は、薬理作用があるため、保管や管理には細心の注意を払いましょう。
- ・シロップ等、子どもが飲みやすいように味付けしてあるものは、冷蔵庫に入れておいても、自ら取り出して飲んでしまうことがあるため、保管・管理には十分注意しましょう。

### 【事例3 歯ブラシが刺さった事故】

歯ブラシをくわえたまま階段から転落し、歯ブラシが喉に刺さった（1歳 中等症）。

#### 【事故防止ポイント】

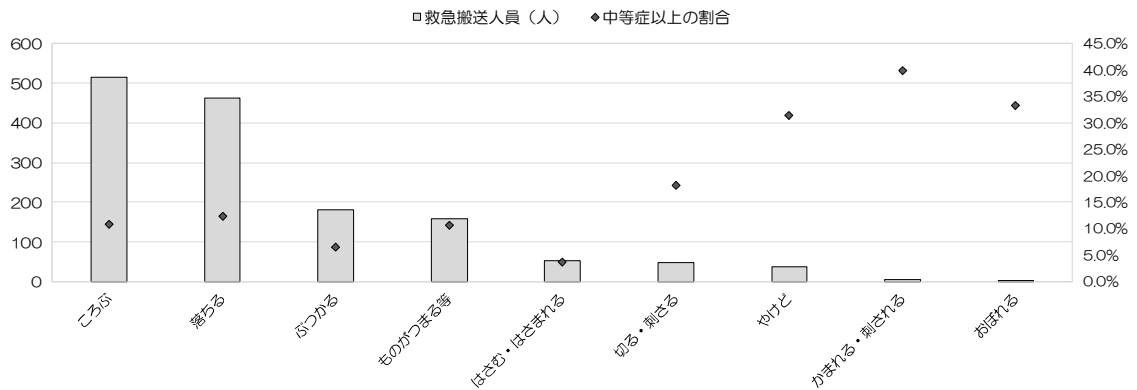
- 歯ブラシが口腔内に刺さる事例も発生しています。
- ・歯ブラシを口に入れたまま、歩いたり走ったりさせないようにしましょう。
- ・不安定な場所で歯みがきをしていて、転落した事例もあることから、椅子や踏み台等に乗った状態で歯みがきをさせないようにしましょう。
- ・歯みがき中に人や物と接触し、受傷するケースも多くあるため、歯みがき中は保護者が付き添い、周囲にも注意を払いましょう。

#### ④ 2歳

##### ア 事故種別ごとの搬送人員

「ころぶ」事故、「落ちる」事故に次いで、「ぶつかる」事故が多く発生しています。

「かまれる・刺される」事故では4割が中等症以上と診断されています（図3-9）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	やけど	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	515人	463人	182人	159人	53人	49人	38人	5人	3人
中等症以上の割合	10.9%	12.5%	6.6%	10.7%	3.8%	18.4%	31.6%	40.0%	33.3%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-9 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

##### イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

階段から「落ちる」事故が多く発生しています。

運動機能が発達し、自由に動き回ることができるようになってくるため、家の中を走り回って「ころぶ」、家具等に「ぶつかる」事故も発生しています（表3-3）。

表3-3 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	やけど	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
1位	机・テーブル 34人	階段 117人	机・テーブル 34人	その他の玩具 20人	手動ドア 27人	カップ種 鍋 各6人	歯ブラシ 12人	動物等 3人	浴槽 3人
2位	その他の家具 29人	自転車の補助イス 48人	その他の家具 22人	薬剤等 15人	エレベーター 5人		ナイフ 10人	虫 2人	
3位	椅子 階段 各27人	椅子 47人	ベッド 12人	ビー玉類 14人	自転車 4人	味噌汁・スープ 5人	食器類 7人		
4位		ベッド 37人	手動ドア 11人	電池 12人	その他の家具 3人	お茶・コーヒーク 4人	ハサミ・爪切り 6人		
5位	ベッド 23人	人 31人	壁・天井 10人	魚等の骨 10人	自動車のドア 等 各2人	ポット・魔法瓶 等 各3人	手動ドア 3人		

※ 「ころぶ」、「ぶつかる」、「はさむ・はさまれる」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚等

※ その他の玩具とは、ブロック型の玩具、シール、マグネット等

## ウ 2歳の事故事例

### 【事例1 椅子から落ちる事故】

ベランダに置いてあった椅子に上って遊んでいたところ、バランスを崩して転落した（2歳 軽症）。

#### 【事故防止ポイント】

ベランダや窓のほかに、椅子などの家具からの墜落・転落事故も発生しています。

高所からの墜落は重症化しやすいため十分注意しましょう。

### 【事例2 ボタン電池の誤飲】

子どものそばにあった未開封のボタン電池が開封され、中身がなくなっていることに親が気付いた（2歳 軽症）。

#### 【事故防止ポイント】

ボタン電池は放電能力が高いため、非常に短時間で消化管壁に潰瘍を作ります。

- ・子どもが飲み込めそうなものは、子どもの手の届くところに置かないようにしましょう。
- ・子どもから見えるところで電池交換をするのはやめましょう。

### 【事例3 手動ドアにはさまれる事故】

親が玄関ドアを閉めようとしたところ、指を挟みこんでしまい受傷した（2歳 軽症）。

#### 【事故防止ポイント】

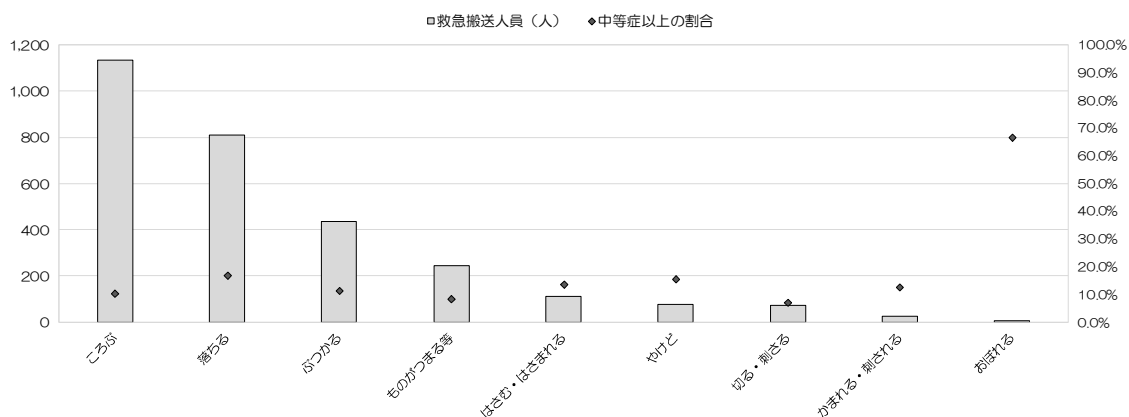
「はさまれ」の原因で一番多いのは手動ドアです。子どもの手や足は大人より小さく、狭い隙間でも入ってしまいます。

- ・指の切断に至ることもあるので、ドアの開閉時は周囲を確認しましょう。
- ・ドアの蝶番側は、指はさみを防止するグッズなどでカバーすることも事故防止に効果的です。

## ⑤ 3歳～5歳

### ア 事故種別ごとの搬送人員

3歳から5歳まででは、「ころぶ」事故が最も多くなっています。「おぼれる」事故は約7割が中等症以上となっています（図3-10）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	やけど	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	1,135人	810人	434人	243人	111人	78人	72人	24人	6人
中等症以上の割合	10.2%	16.7%	11.3%	8.2%	13.5%	15.4%	6.9%	12.5%	66.7%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-10 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

### イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

3歳から5歳まででは、階段から「落ちる」事故が多く発生しています。また、階段で「ころぶ」事故も多く発生しています（表3-4）。

表3-4 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	やけど	かまれる・刺される	おぼれる
1位	階段 91人	階段 146人	机・テーブル 50人	その他の玩具 35人	手動ドア 44人	ナイフ 17人	味噌汁・スープ 15人	虫 18人	浴槽 4人
2位	椅子 64人	自転車の補助イス 77人	人 33人	ビー玉類 29人	自転車 20人	ガラス片 13人	カップ麺 10人	動物等 6人	プール 2人
3位	机・テーブル 55人	椅子 76人	その他の家具 32人	アメ玉類 27人	鉄道車両の戸袋 7人	ハサミ・爪切り 10人	鍋 8人		
4位	その他の家具 52人	人 57人	壁・天井 28人	硬貨 20人	荷車 自動車のドア 各4人	歯ブラシ 8人	種類 7人		
5位	段差 37人	ソファ 52人	ベッド 23人	魚等の骨 15人		食器類 4人	熱湯 6人		

※ 「ころぶ」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、タンス等

「ぶつかる」におけるその他の家具とは、テレビ台、洗面台、キッチンカウンター等

※ その他の玩具とは、ブロック型の玩具、マグネット、スーパーボール等



## ウ 3歳～5歳の事故事例

### 【事例1 ころぶ事故】

キックボードで遊んでいたところ、バランスを崩して転倒し、受傷した（5歳 中等症）。

#### 【事故防止ポイント】

3歳になると運動能力も高くなり行動範囲が広がっています。

危険や安全の判断がまだ十分にできていないので、危険な行動は繰り返し教えてあげましょう。

### 【事例2 遊具からの墜落・転落】

公園のジャングルジムで遊んでいて、約1.5m下の地面に落ちて受傷した（3歳 中等症）。

#### 【事故防止ポイント】

墜落事故は重大事故につながる可能性が高い事故の一つです。

遊具からの転落事故のほか、窓やベランダに置いてあった椅子や室外機にのぼり、誤って墜落する事故も発生しています。

ベランダや窓の近くには、子どもがのぼれるものを置かないようにしましょう。

### 【事例3 カップ麺によるやけど】

机の上に置いてあったカップ麺を引き寄せようとして倒してしまい、大腿部にスープがかかり受傷した（3歳 中等症）。

#### 【事故防止ポイント】

テーブル上に置かれた熱いものが入った容器を乳幼児が引き寄せ、やけどを負う事故が多く発生しています。

- ・やけどのおそれのあるものは、子どもの手の届くところに置かないようにしましょう。
- ・テーブルの隅など、乳幼児の手の届きやすいところに熱いものは絶対に置かないようにしましょう。

## (2) 6歳～12歳（小学生）の事故

### ア 年別搬送人員

小学生の年代では、令和4年中に4,348人が救急搬送されています（図3-11）。

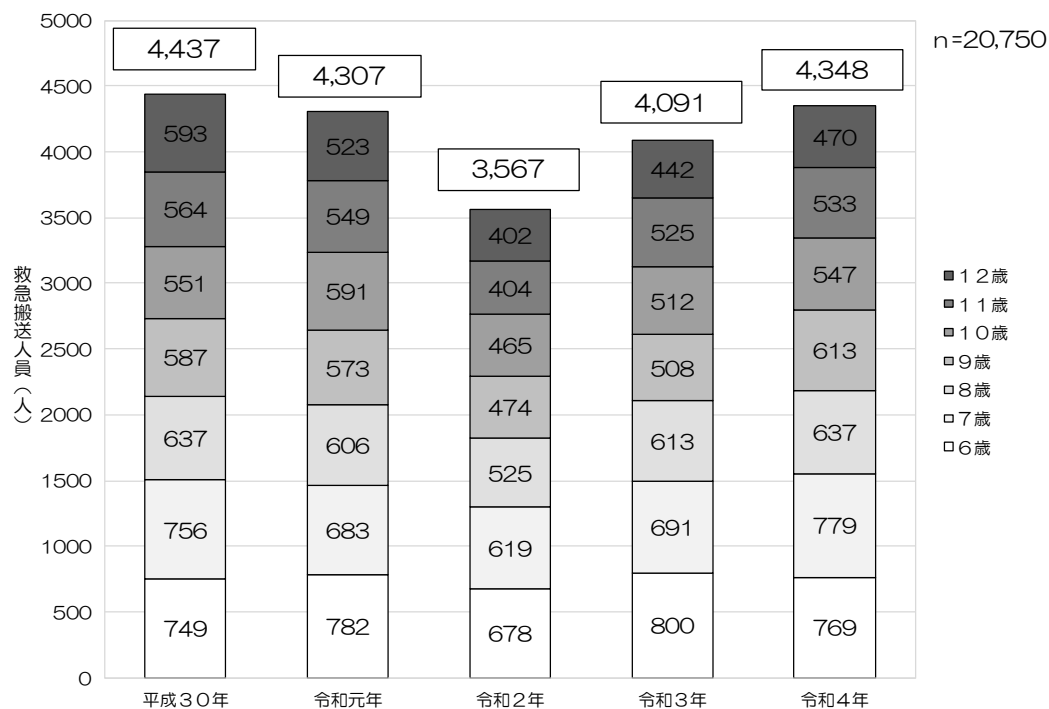


図3-11 年別の救急搬送人員（6歳～12歳）

### イ 月別搬送人員

月別では、6月に最も多く搬送されています（図3-12）。

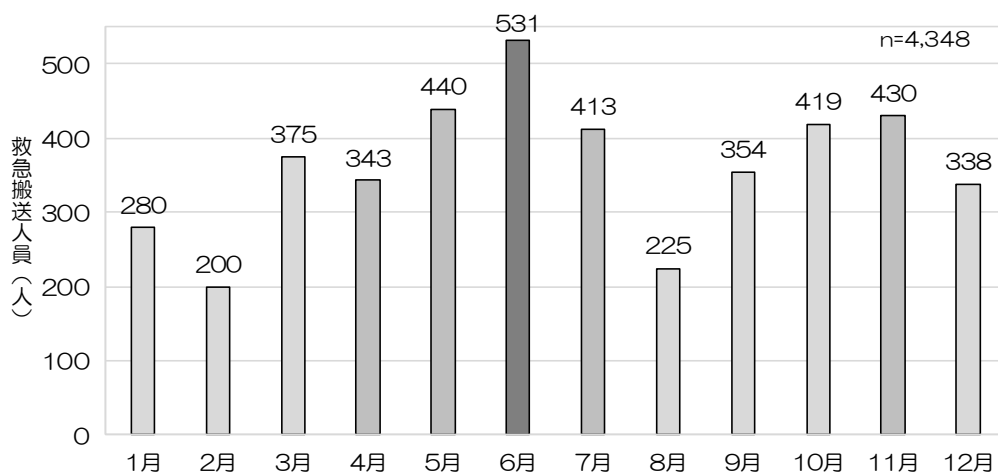


図3-12 月別の救急搬送人員

### ウ 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所のほかに学校・児童施設等が多くなっています。また、公園・遊園地・運動場等での事故も多く発生しています（図 3-13）。

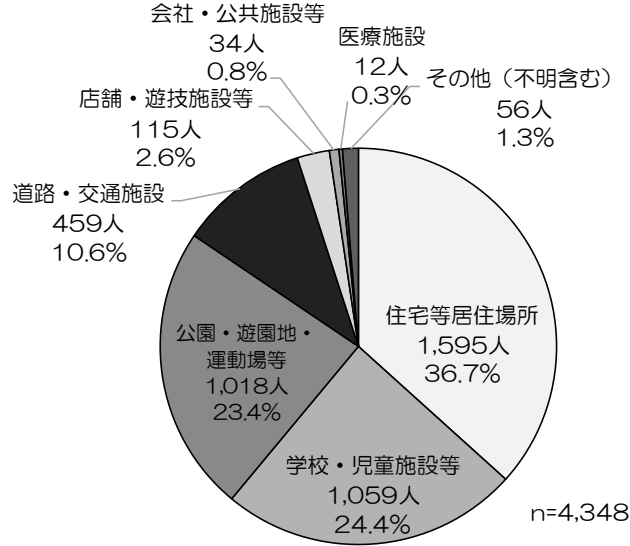
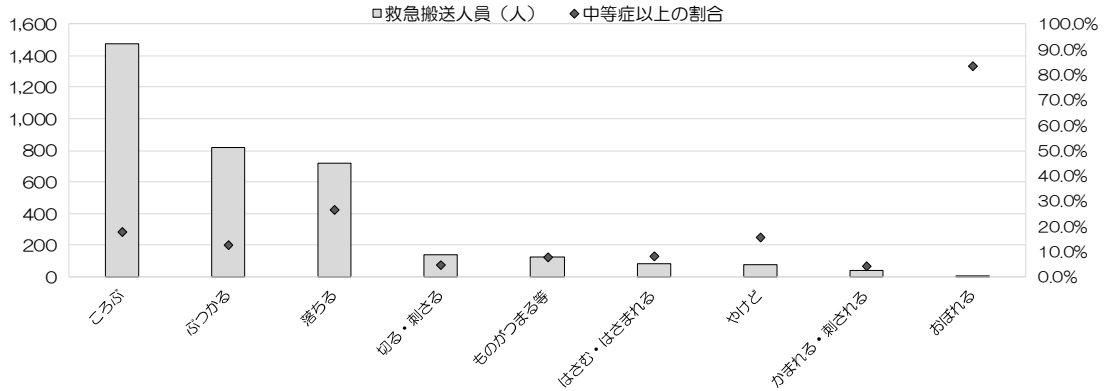


図 3-13 発生場所別の救急搬送人員

### エ 事故種別ごとの搬送人員

6歳から12歳まででは、「ころぶ」事故が多く発生しています。「おぼれる」事故では8割以上が中等症以上となっています。また、「落ちる」事故は約3割が中等症以上となっています（図 3-14）。



事故種別	ころぶ	ぶつかる	落ちる	切る・刺さる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	やけど	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	1,475人	821人	717人	142人	127人	86人	76人	44人	6人
中等症以上の割合	17.7%	12.7%	26.8%	4.9%	7.9%	8.1%	15.8%	4.5%	83.3%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図 3-14 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

## オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

子ども同士で「ぶつかる」事故が多く発生しています。

階段から「落ちる」事故も多く発生しています（表3-5）。

表3-5 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	ぶつかる	落ちる	切る・刺さる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	やけど	かまれる・刺される	おぼれる
1位	階段	人	階段	ナイフ	アメ玉類	手動ドア	味噌汁・スープ	虫	河川
	57人	124人	86人	28人	18人	27人	21人	28人	4人
2位	椅子	ボール	滑り台	手動ドア	魚等の骨	自転車	熱湯	動物等	浴槽
	47人	66人	46人	11人	14人	14人	12人	16人	2人
3位	キックボード	壁・天井	雲梯	ミシン(ミシン針含む) 食器類	硬貨	鉄道車両の戸袋門	カップ麺		
	35人	39人	36人		13人		7人		
4位	段差	柱	その他の遊具	各10人	その他の玩具 菓子	各4人	お茶・コーヒー類		
	34人	38人	35人				5人		
5位	ボール	その他の家具	ふらんこ	ガラス片	各7人	植物	ポット・魔法瓶		
	31人	31人	29人	9人		3人	4人		

※その他の家具とは、棚、タンス、ロッカー等

※その他の遊具とは、ターザンロープ、ハンモック型遊具等

※その他の玩具とは、ブロック型の玩具、マグネット、コイン等

## カ 6歳～12歳の事故事例

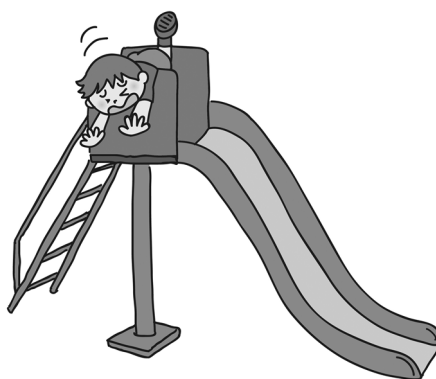
### 【事例1 高所から落ちる】

遊んでいて陸屋根のガラス面に乗ったところ、ガラスが割れて地面に墜落し、受傷した（12歳 中等症）。

#### 【事故防止ポイント】

高所からの墜落は、生命に危険を及ぼす重大な事故となることから、保護者等は、危険性を子どもに教え、理解させましょう。

小学生の年代は、運動能力の発達に加え、身長、体重、運動量、俊敏性、冒険心の増大が事故につながっていると考えられます。危険が予測される行動も多く見られることから、安全教育による事故防止も不可欠です。



### (3) 13歳～18歳（中学生・高校生）の事故

#### ア 年別搬送人員

令和4年中は、3,329人が救急搬送されています（図3-15）。

令和2年、3年と減少していましたが、令和4年はコロナ禍以前の水準に戻っています。

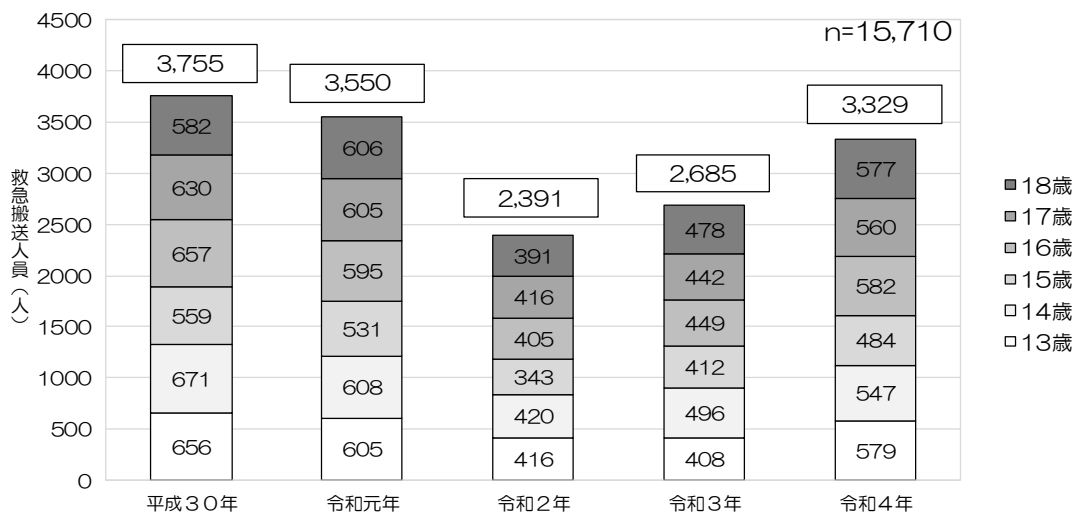


図3-15 年別の救急搬送人員（13歳～18歳）

#### イ 月別搬送人員

6月が最も多く搬送されています（図3-16）。

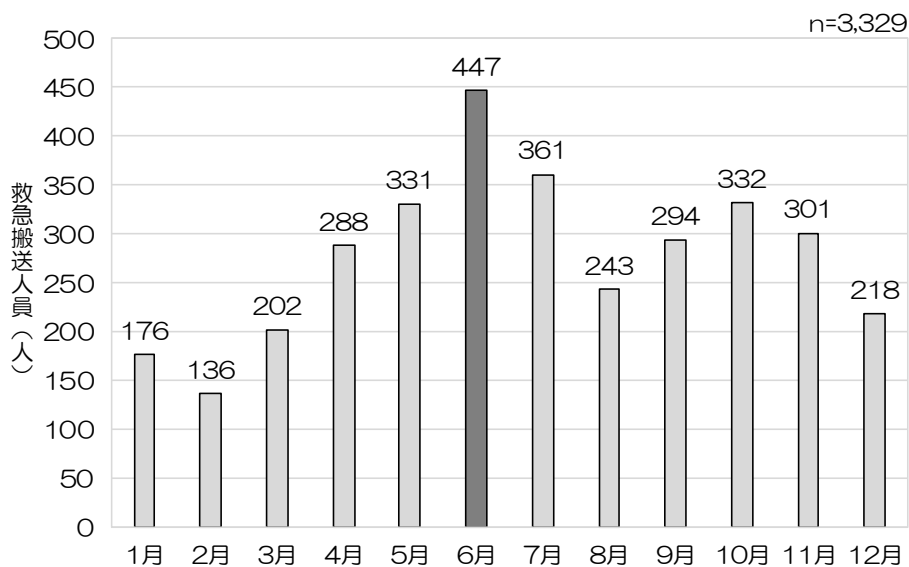


図3-16 月別の救急搬送人員

## ウ 発生場所別搬送人員

学校・児童施設等が最も多く、次いで住宅等居住場所が多くなっています（図3-17）。

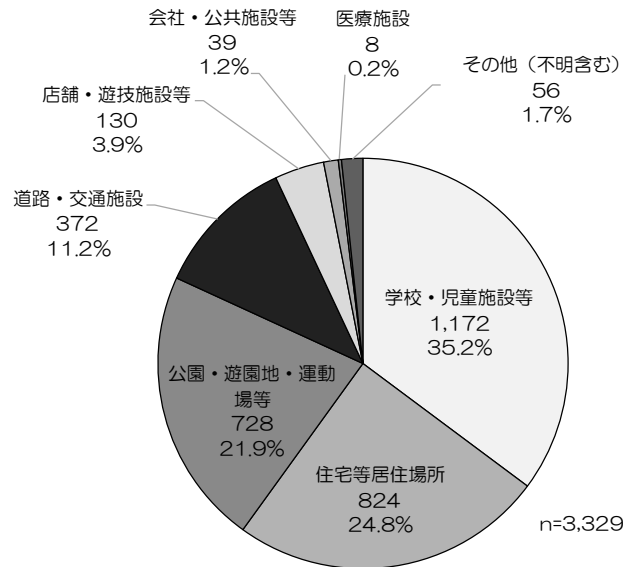
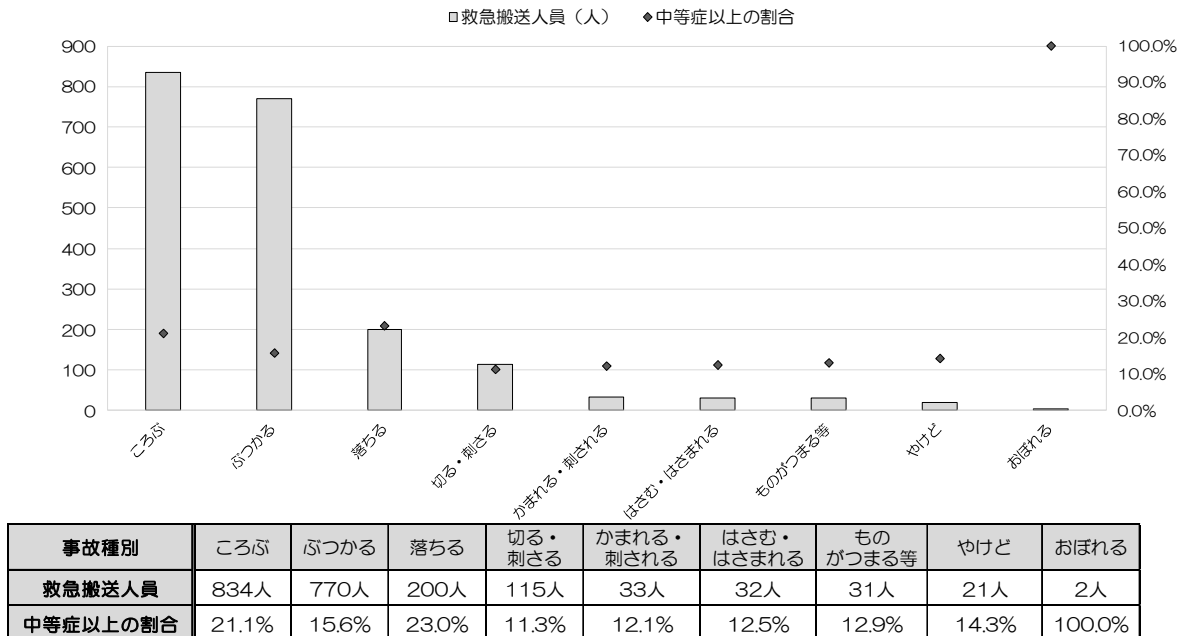


図3-17 発生場所別の救急搬送人員

## エ 事故種別ごとの搬送人員

事故種別ごとに見ると、「ころぶ」事故が最も多くなっています（図3-18）。

「ぶつかる」事故では、学校の授業やクラブ活動での人同士の衝突やボール等による事案が発生しています。



※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-18 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

## オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

人と「ぶつかる」事故が多く発生しています。

スポーツでボールにぶつかる等の事故が多くなっています（表3-6）。

表3-6 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	ぶつかる	落ちる	切る・刺さる	ものがつまる等	やけど	かまれる・刺される	はさむ・はさまれる	おぼれる
1位	階段 36人	人 309人	階段 79人	ナイフ 35人	魚等の骨 洗剤等	天ぷら油 5人	虫 19人	手動ドア 6人	浴槽 河川
2位	スケートボード 30人	ボール 211人	自転車 5人	食器類 11人	各4人	熱湯 4人	動物等 14人	鉄道車両 4人	各1人
3位	段差 17人	壁・天井 20人	エスカレーター フェンス・柵・扉 段差	針・ヘアピン・釘等 10人	菓子 3人	鍋 味噌汁・スープ		バーベル 3人	
4位	自転車 16人	手動ドア 14人		ガラス片 手動ドア	食物 入れ歯によるもの	各3人		フェンス 自転車	
5位	人 13人	バット 13人	各3人	各9人	各2人	ポット・魔法瓶 2人		各2人	

## カ 13歳～18歳の事故事例

### 【事例1 人とぶつかる】

サッカーの試合中に、対戦相手と接触して転倒し受傷した（14歳 中等症）。

### 【事例2 跳び箱から落ちる】

体育の授業中に跳び箱を飛んだところ、勢いが強く顔からマットに着地してしまい受傷した（14歳 中等症）。

### 【事故防止ポイント】

中学生、高校生の年代では、運動中の事故が多く発生しています。

- ・ウォーミングアップやストレッチは入念に行い、けがの予防に努めましょう。
- ・指導者や保護者等は、普段の練習や競技の前には事故防止の注意喚起を行うとともに、不測の事態に備え、応急手当、AED（自動体外式除細動器）の使用方法等を身につけましょう。

#### (4) 19歳～64歳の事故

##### ア 年別搬送人員

令和4年中に40,080人が救急搬送されています（図3-19）。

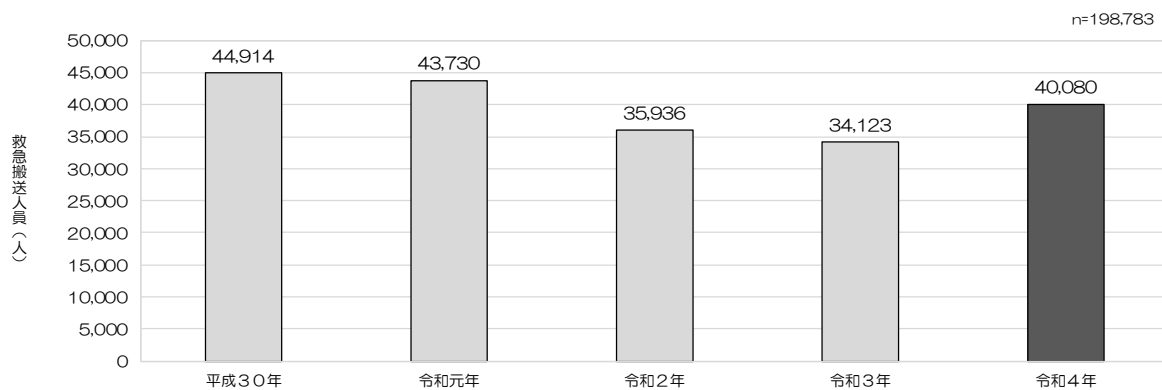


図3-19 年別の救急搬送人員

##### イ 月別搬送人員

令和4年を月別に見ると、6月に最も多く搬送され、次いで7月が多くなっています（図3-20）。

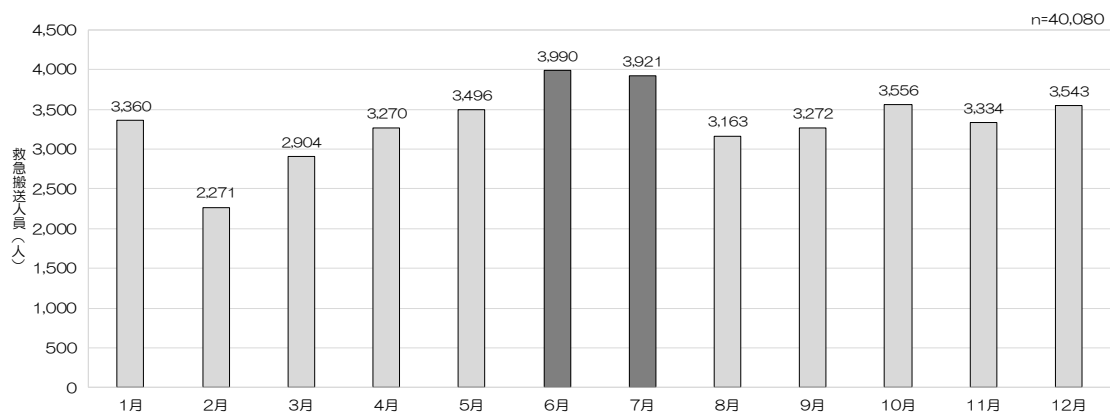


図3-20 月別の救急搬送人員



## ウ 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所、道路・交通施設での事故が多く発生しています(図3-21)。

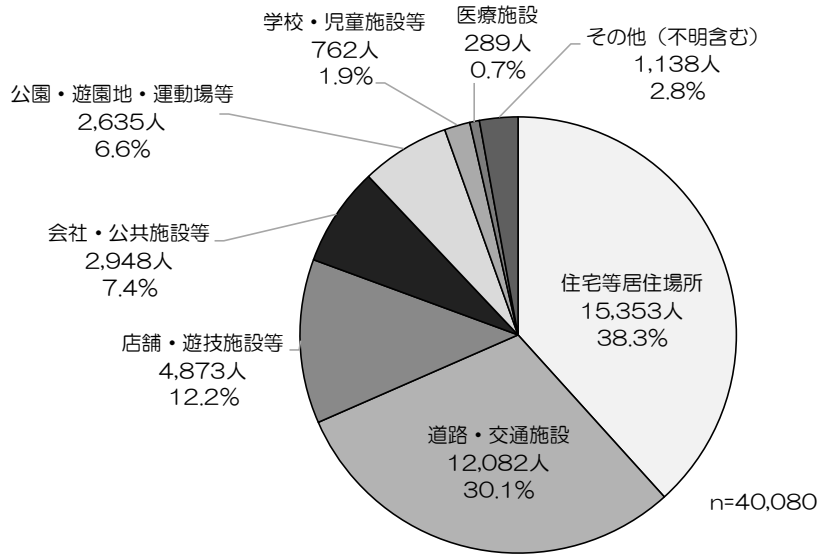
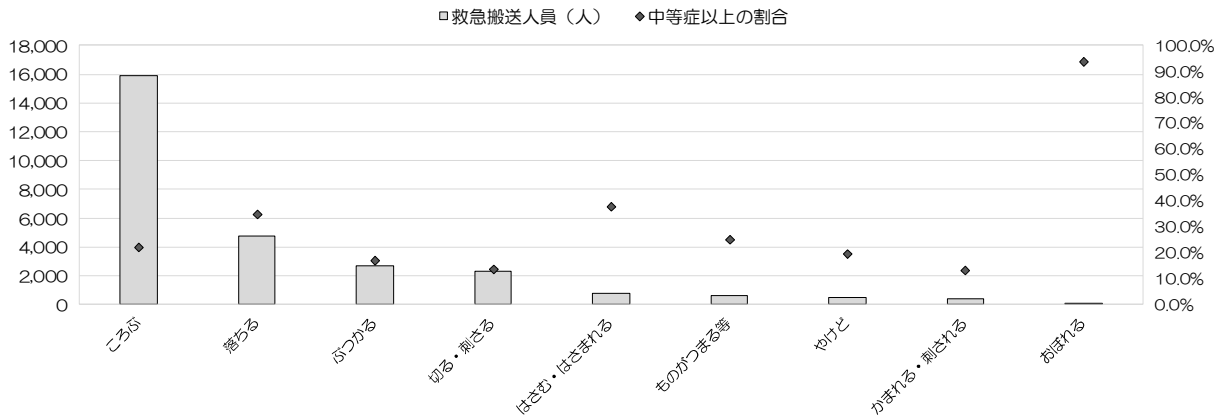


図3-21 発生場所別の救急搬送人員

## エ 事故種別ごとの搬送人員

「ころぶ」事故が最も多く発生しています。

「おぼれる」事故は中等症以上の割合が9割以上と最も高く、「はさむ・はさまれる」事故も約4割が中等症以上となっています(図3-22)。



※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-22 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

## オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

「ころぶ」事故は飲酒後の転倒が多くなっており、階段や段差でも多く発生しています。

「落ちる」事故は、階段が多くなっています（表3-8）。

表3-7 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	落ちる	ぶつかる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	ものがつまる等	やけど	かまれる・刺される	おぼれる
1位	酒類 2,200人	階段 2,296人	人 228人	ナイフ 873人	手動ドア 73人	洗剤等 71人	熱湯 115人	動物等 248人	浴槽 14人
2位	階段 1,162人	脚立・踏み台・足場 315人	ポール 192人	食器類 261人	自動車 62人	肉 64人	鍋 68人	虫 188人	河川船
3位	段差 615人	椅子 137人	壁・天井 126人	ガラス片 126人	プレス機 59人	包み・袋 50人	天ぷら油 64人		各1人
4位	自転車 366人	ベッド 110人	手動ドア 109人	スライサー 99人	その他の機械 45人	薬剤等 40人	味噌汁・スープ 48人		
5位	椅子 257人	エスカレーター 106人	その他の家具 104人	電気のごきり 77人	建材 40人	魚等の骨 39人	ポット・魔法瓶 27人		

※その他の家具とは、テレビ台、棚、タンス等

※その他の機械とは、攪拌機、ローラー、梱包機等

## カ 19歳～64歳の事故事例

### 【事例1 ホームから落ちる】

飲酒後、駅のホーム上を歩行していた際に、軌道敷に墜落し頭部を受傷した（40代 中等症）。

#### 【事故防止ポイント】

飲酒後や歩きスマホにより、駅のホームから墜落する事故が多く発生しています。

ホームの線路側を歩かないようにし、墜落防止をしましょう。

### 【事例2 機械に指をはさむ】

印刷機を作動させようとしたところ、手順を誤り、機械内のバーに腕を挟まれ受傷した（30代 中等症）。

#### 【事故防止ポイント】

機械を稼働させたまま詰まりを除去しようとして受傷する事故も発生しています。

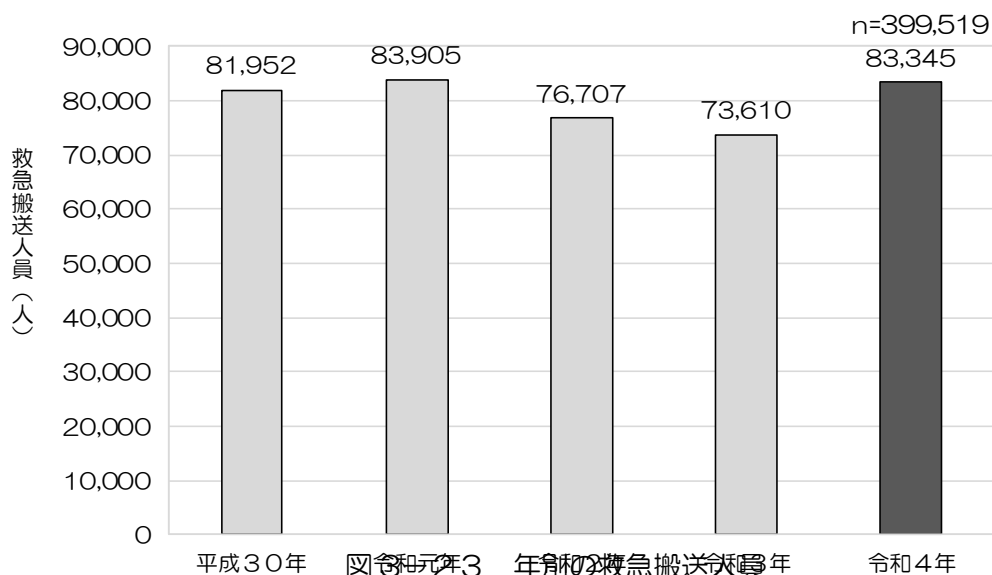
- ・機械によるはさむ・はさまれる事故は重症化しやすいことを認識しましょう。
- ・機械の点検、掃除、修理をする場合には、機械の電源を切り、コンセントを抜くなど、誤って電源が入ることがないことを確認してから作業しましょう。

## (5) 65歳以上（高齢者）の事故

### ① 65歳以上（高齢者）

#### ア 年別搬送人員

令和4年中に83,345人が救急搬送されています（図3-23）。



#### イ 初診時程度別搬送人員

高齢者は、入院を必要とする中等症以上となる割合が高く、**4割以上**となっています（図3-24）。

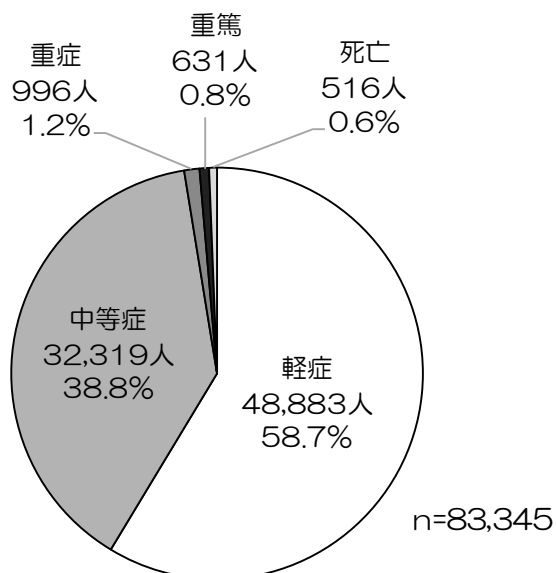


図3-24 初診時程度別の救急搬送人員

## ウ 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所での事故が6割を超え、道路・交通施設での事故と合わせると9割以上を占めています（図3-25）。

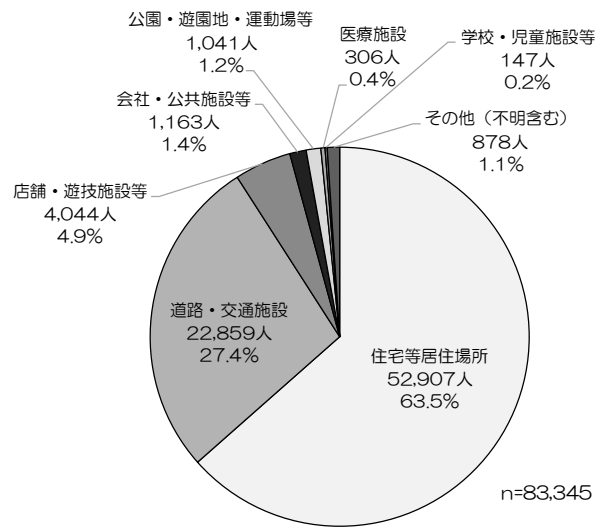


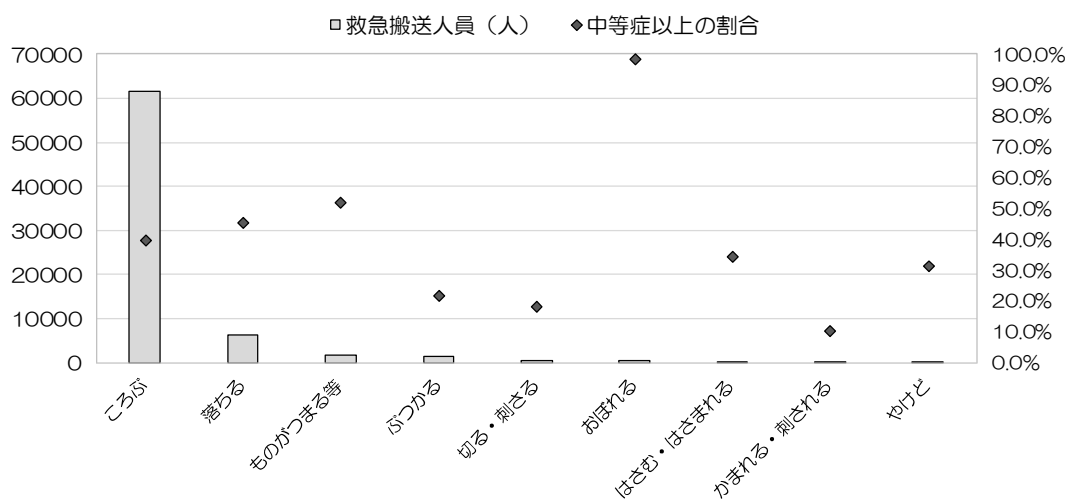
図3-25 発生場所別の救急搬送人員

## エ 事故種別ごとの搬送人員

65歳以上は中等症以上の割合が高いです。

- ・「おぼれる」事故は、98.5%（最多）
- ・「ものがつまる等」の事故は5割以上
- ・「落ちる」事故は4割以上

他の年代と比べ、重症化しやすくなっています（図3-26）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ものがつまる等	ぶつかる	切る・刺さる	おぼれる	はさむ・はさまれる	かまれる・刺される	やけど
救急搬送人員	61,507	6,231	1,668	1,318	521	397	279	231	210
中等症以上の割合	39.5%	45.3%	52.0%	21.9%	18.2%	98.5%	34.4%	10.4%	31.4%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-26 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

## オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

「ころぶ」事故は、階段や段差で多く発生しています。

「落ちる」事故は、階段やベッドが多くなっており、「おぼれる」事故は、そのほとんどが浴槽で発生しています（表3-8）。

表3-8 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	落ちる	ものが つまる等	ぶつかる	切る・ 刺さる	おぼれる	はさむ・ はさまれる	かまれる・ 刺される	やけど
1位	段差	階段	食物	人	ナイフ	浴槽	手動ドア	動物等	熱湯
	2,926人	2,653人	365人	146人	139人	392人	29人	121人	56人
2位	階段	ベッド	肉	柱	電気のござり	プール	ベッド	虫	ヤカン 鍋
	2,017人	1,011人	112人	104人	52人	4人	26人	109人	
3位	酒類	椅子	包み・袋	壁・天井	ハサミ・爪切り	河川	プレス機	魚貝類	各24人
	1,664人	451人	110人	103人	44人	1人	19人	1人	
4位	椅子	脚立・踏み台・足場	薬剤等	その他の家具	食器類		自動車のドア		味噌汁・スープ
	1,185人	303人	92人	100人	35人		17人		21人
5位	自転車	エスカレーター	おかゆ類	手動ドア	スライサー		その他の家具		ポット・魔法瓶
	815人	193人	91人	72人	24人		11人		15人

※「ぶつかる」、「はさむ・はさまれる」におけるその他の家具とは、棚、タンス等

## カ 65歳以上（高齢者）の事故事例

### 【事例1 餅を詰まらせる】

自宅で団子を食べていた際に、喉に詰まらせ意識がなくなった（80代 重篤）。

### 【事故防止ポイント】

高齢者の「ものがつまる等」の事故は5割以上が中等症以上と診断されています。

食べ物は小さく切ってよく噛んで食べましょう。



【事例2 包みの誤飲】

テレビを見ながら薬を飲もうとしたところ、誤って薬のパッケージごと飲んでしまった（70代 中等症）。

【事故防止ポイント】

高齢者が薬を服用する際は、パッケージを飲み込まないように、適時様子を見るなど注意を払いましょう。

【事例3 ころぶ事故】

床に敷いていたカーペットで足を滑らせて転倒し、大腿部を受傷した（70代 中等症）。

【事故防止ポイント】

高齢者のころぶ事故の**4割**が中等症以上と診断されています。

自宅内では整理整頓を心がけ、家具や敷物による転倒を防止しましょう。

【事例4 脚立から落ちる】

脚立に上り植木の剪定作業中に、バランスを崩して転落し受傷した（60代 中等症）。

【事故防止ポイント】

**脚立や踏み台**に上がって作業や清掃をしていて転落する事故が多く発生しています。

- 脚立の天板の上に乗って作業しないようにしましょう。
- 安定した足場を選び、バランスを崩さないようにしましょう。
- 使用時は補助者に支えてもらいましょう。
- 年齢や個々の体力を勘案し、無理な作業は控えましょう。



② 65歳～74歳（前期高齢者）と75歳以上（後期高齢者）

ア 年別搬送人員

過去5年の推移を見ると、ほぼ横ばいとなっています（図3-27、図3-28）。

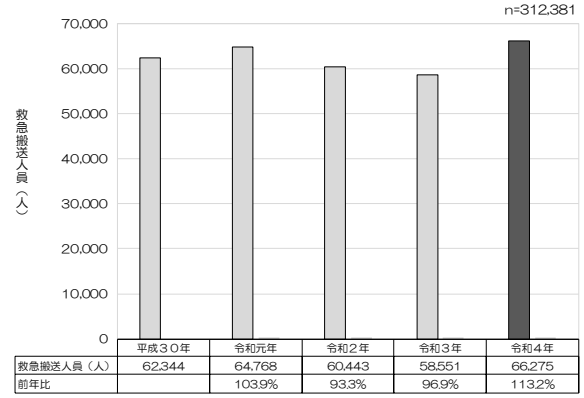
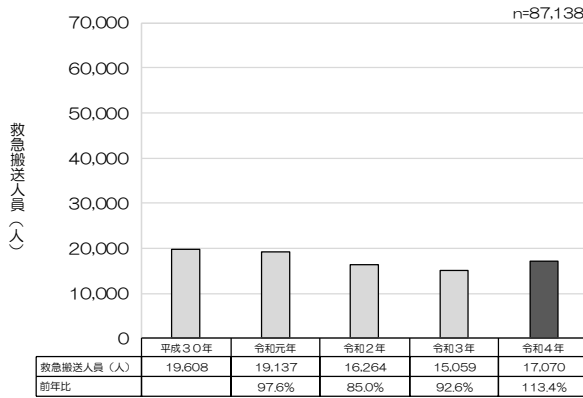


図3-27 年別の救急搬送人員（前期高齢者）

図3-28 年別の救急搬送人員（後期高齢者）

イ 初診時程度別搬送人員

前期高齢者では中等症以上の割合が約3割ですが、後期高齢者になると、さらに増加して4割以上を占めています（図3-29、図3-30）。

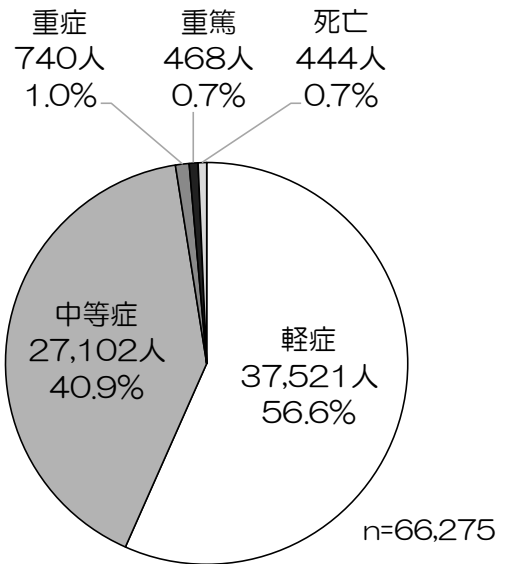
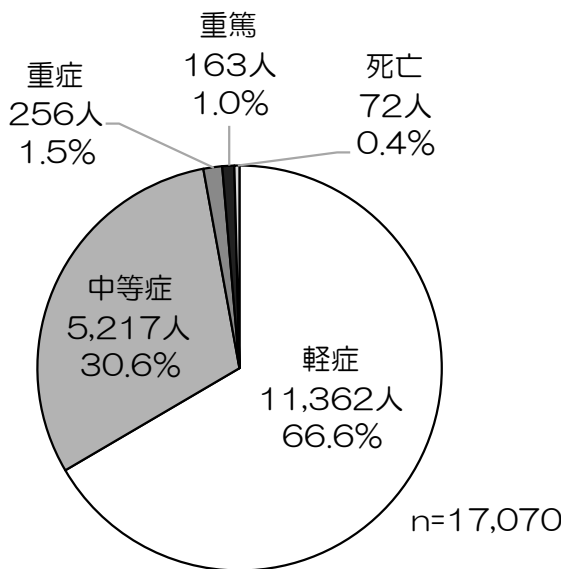


図3-29 初診時程度別（前期高齢者）

図3-30 初診時程度別（後期高齢者）

## イ 発生場所別搬送人員

前期高齢者では住宅等居住場所での事故が最も多く約5割を占めています。次いで多いのが道路・交通施設で約4割を占めています。

一方で、後期高齢者になると住宅等居住場所での割合が増加し、約7割を占めています（図3-31、図3-32）。

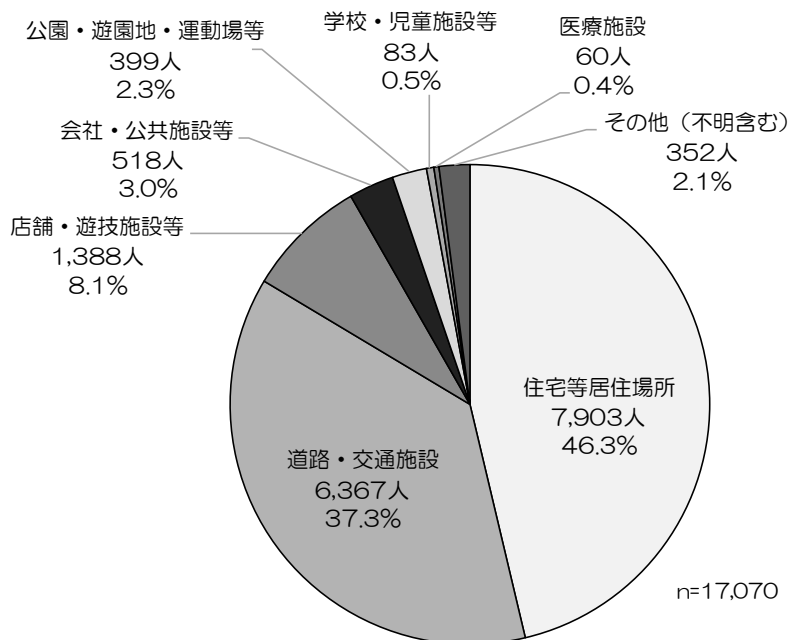


図3-31 発生場所別の救急搬送人員（前期高齢者）

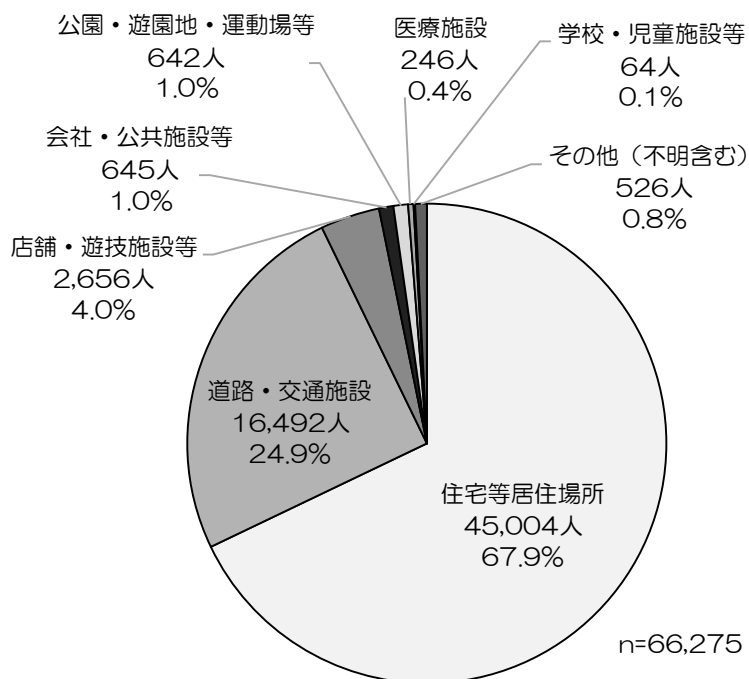


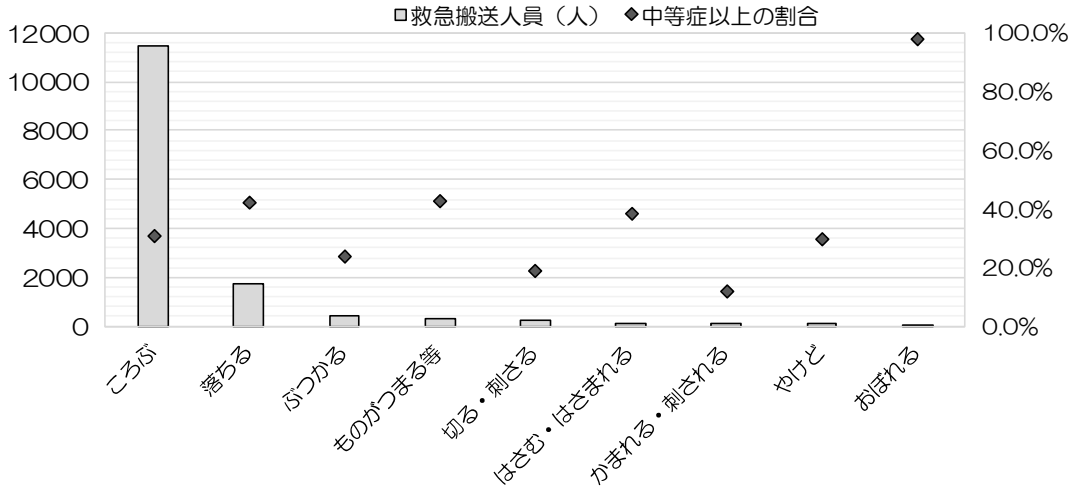
図3-32 発生場所別の救急搬送人員（後期高齢者）



## ウ 事故種別ごとの搬送人員

前期高齢者と後期高齢者で中等症以上の割合の高さを比較すると、「ぶつかる」、「切る・刺さる」、「はさむ・はさまれる」、「かまれる・刺される」では、前期高齢者が高くなっています。

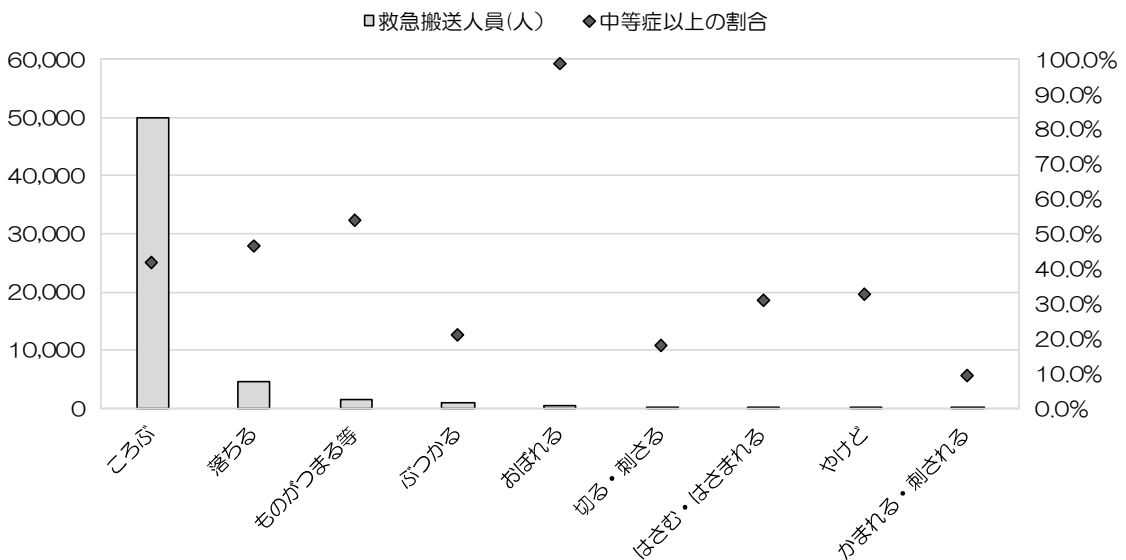
「ころぶ」、「落ちる」、「ものがつまる等」、「おぼれる」、「やけど」では、後期高齢者が高くなっています（図3-33、図3-34）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	もの がつまる等	切る・ 刺さる	はさむ・ はさまれる	かまれる・ 刺される	やけど	おぼれる
救急搬送人員	11,483人	1,732人	456人	269人	247人	130人	103人	75人	50人
中等症以上の割合	30.7%	41.8%	23.5%	42.8%	18.6%	38.5%	11.7%	29.3%	98.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-33 事故種別ごとの救急搬送人員（前期高齢者）



事故種別	ころぶ	落ちる	もの がつまる等	ぶつかる	おぼれる	切る・ 刺さる	はさむ・ はさまれる	やけど	かまれる・ 刺される
救急搬送人員	50,024人	4,499人	1,399人	862人	347人	274人	149人	135人	128人
中等症以上の割合	41.6%	46.6%	53.8%	21.1%	98.6%	17.9%	30.9%	32.6%	9.4%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-34 事故種別ごとの救急搬送人員（後期高齢者）

## 2. 年齢層別での比較

### (1) 年別搬送人員での比較

令和3年の救急搬送人員と比較すると、9歳以下が唯一減少しています。

80代の増加数が最も大きくなっています(図3-35から図3-44まで)。

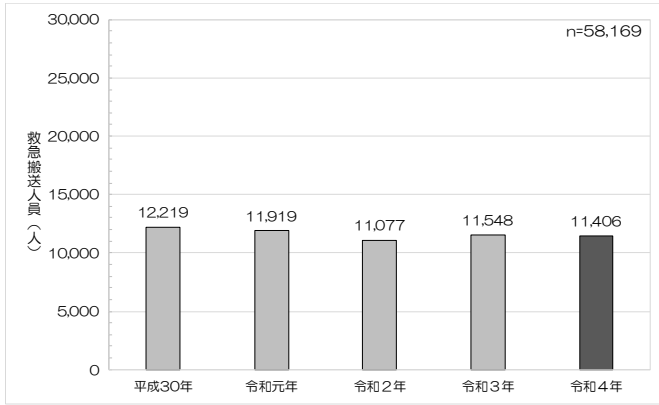


図3-35 9歳以下

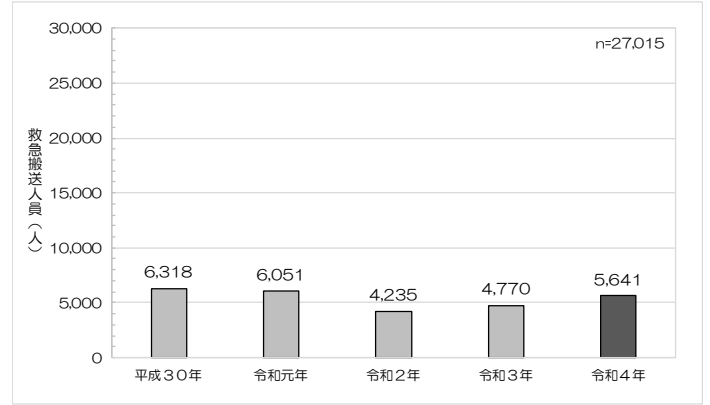


図3-36 10代

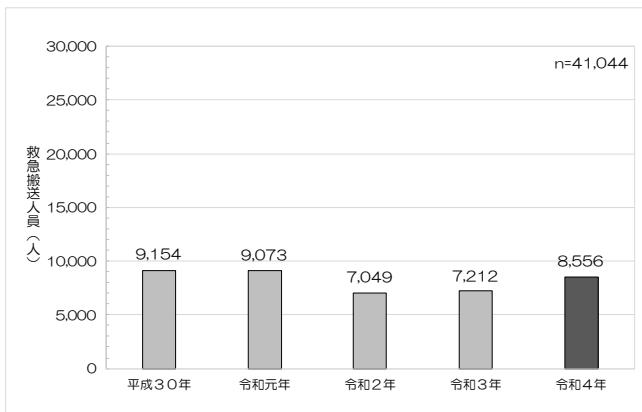


図3-37 20代

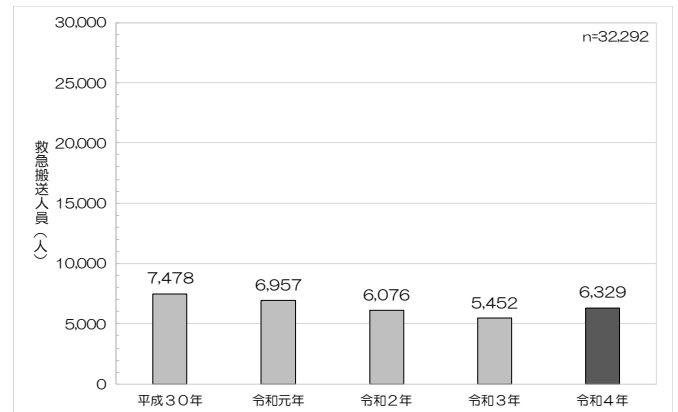


図3-38 30代

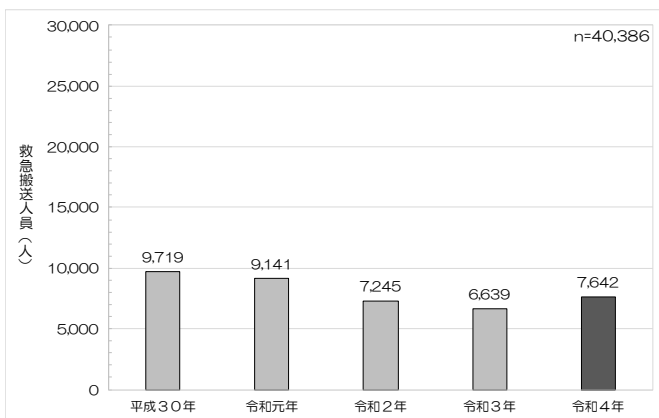


図3-39 40代

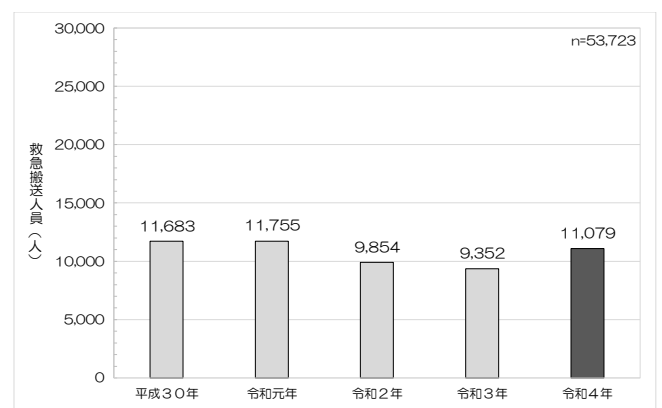


図3-40 50代

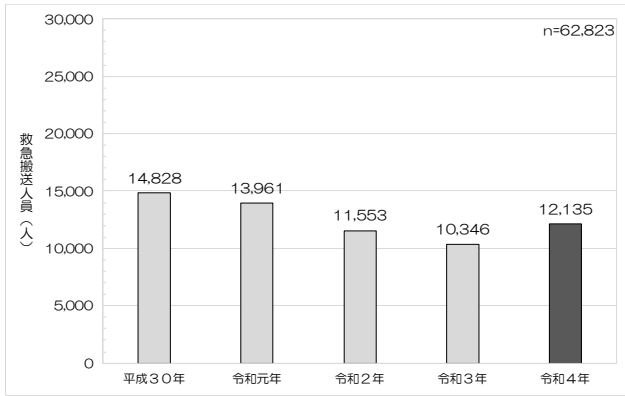


図3-41 60代

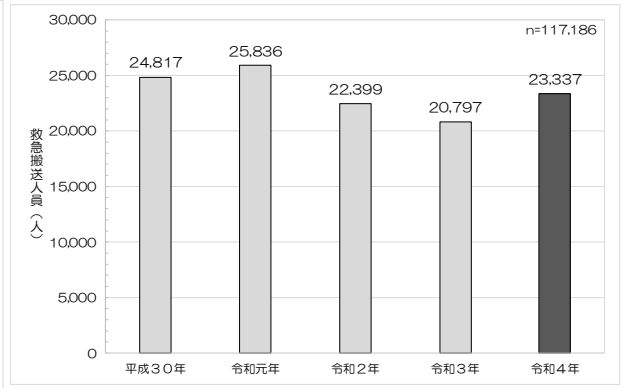


図3-42 70代

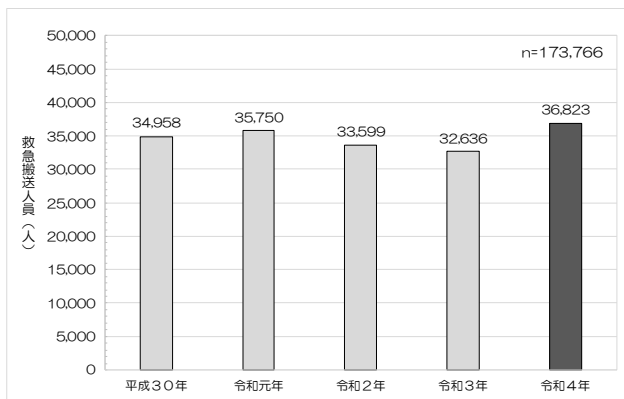


図3-43 80代

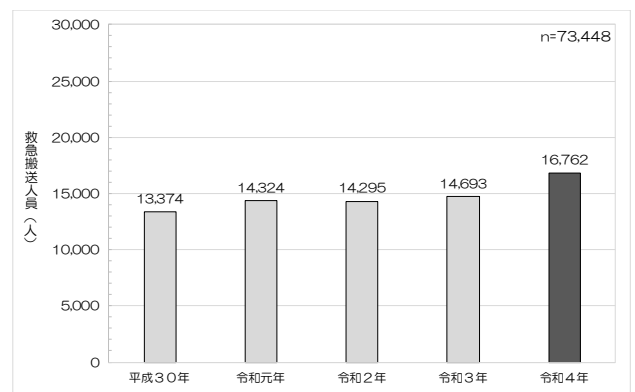


図3-44 90歳以上

## (2) 事故種別（その他、不明を除く）での比較

令和4年では、「ころぶ」事故は全年代で最も多くの割合を占めており、50代から全体の6割以上を占めています。

「ぶつかる」事故は、10代、20代のみが「ころぶ」事故に続き2番目の割合を占めています（他年代では「落ちる」が2番目）。

「落ちる」事故は、他年代では1割から2割であるのに対して、9歳以下では約3割を占めています。

「ものがつまる等」の事故では、他年代では3%未満であるのに対して、9歳以下では1割以上を占めています（図3-45から図3-54まで）。

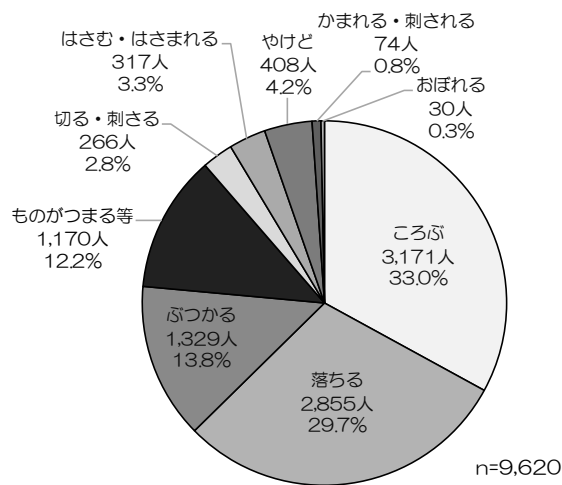


図3-45 9歳以下

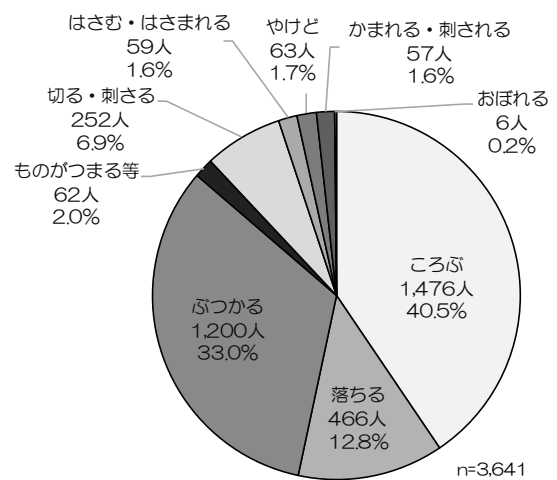


図3-46 10代

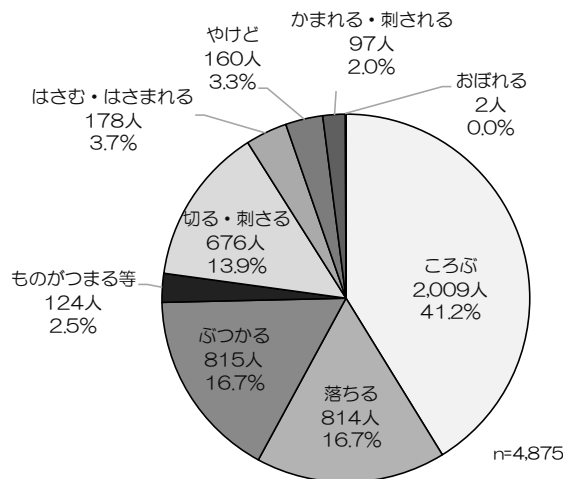


図3-47 20代

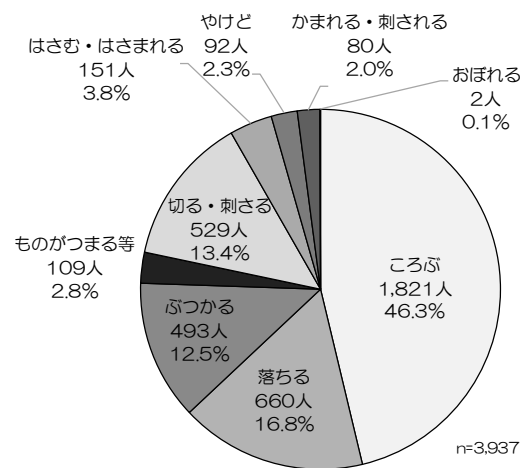


図3-48 30代

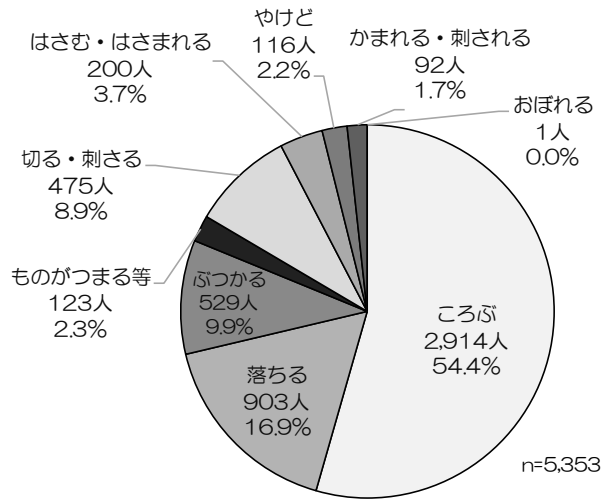


図3-49 40代

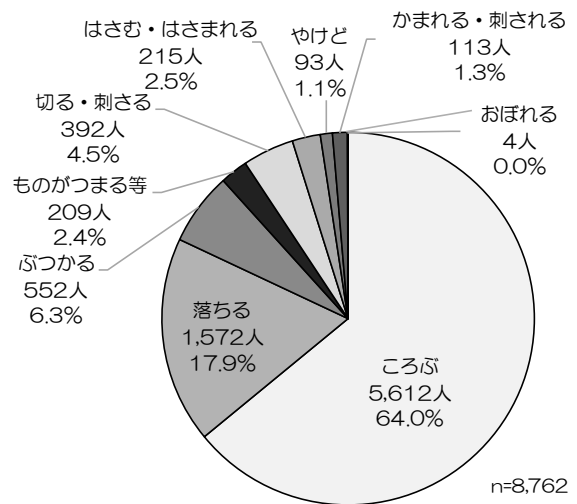


図3-50 50代

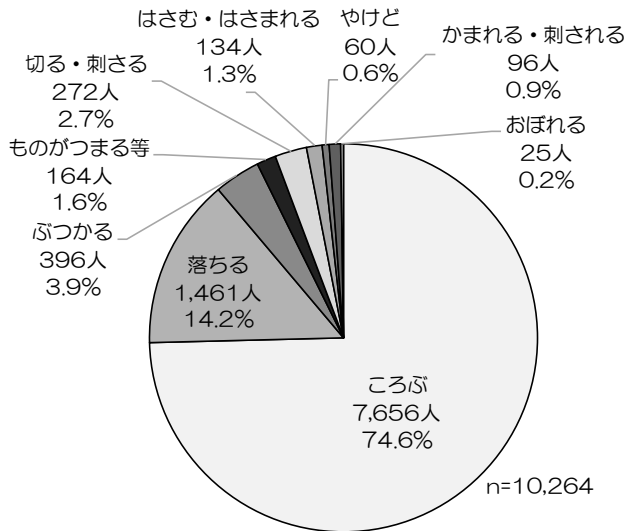


図3-51 60代

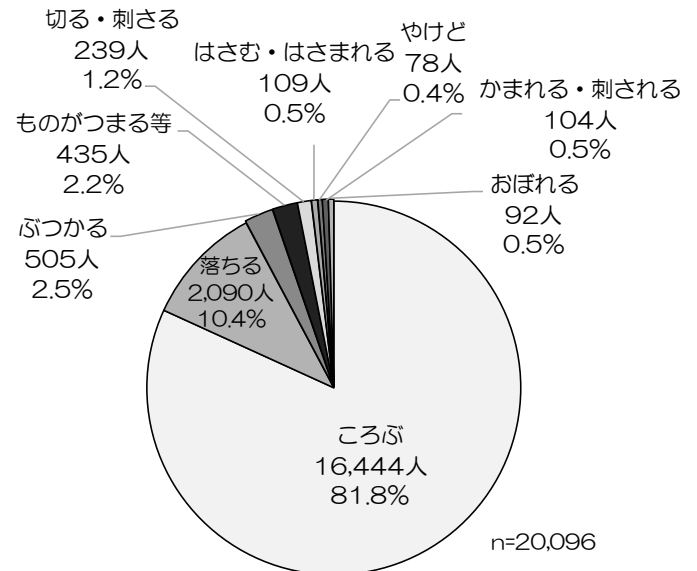


図3-52 70代

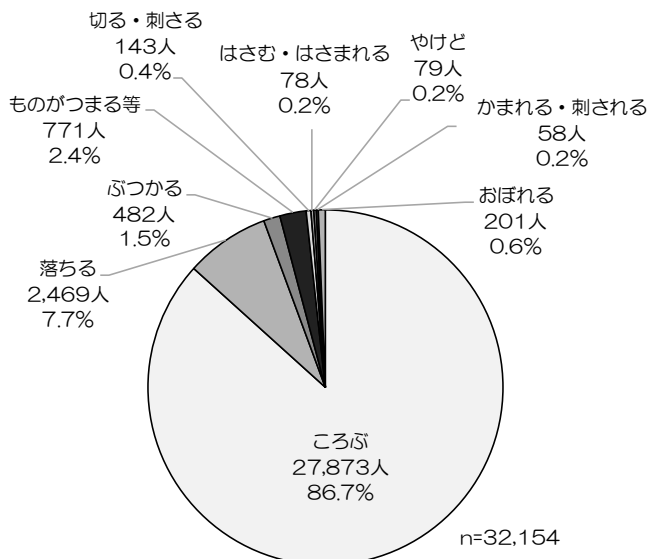


図3-53 80代

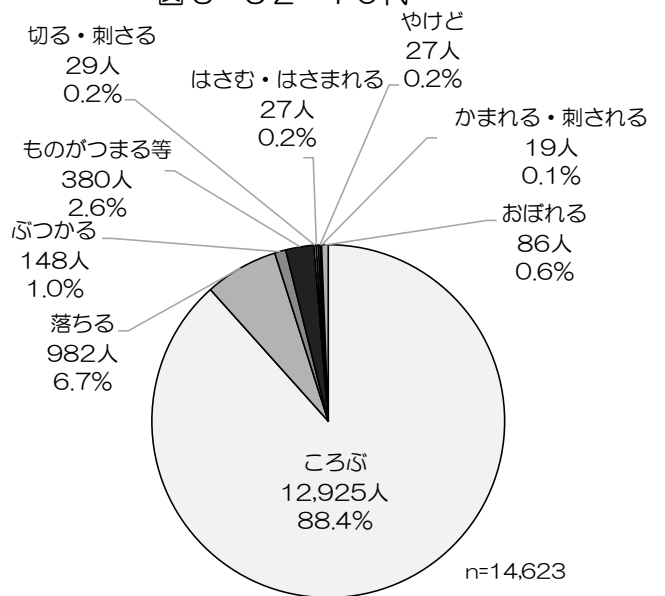


図3-54 90歳以上

### (3) 時間帯別の比較

令和4年は、9歳以下では18時台から20時台までの時間帯で1,000人以上が救急搬送されています。

10代では日中が多くなっており、20代から50代までにかけては夜間に増加しています。

60代では夜間に加えて、日中でも多く救急搬送されています。

70代以上では夜間の救急搬送が減少し、日中に多く救急搬送されています(図3-55から図3-64まで)。

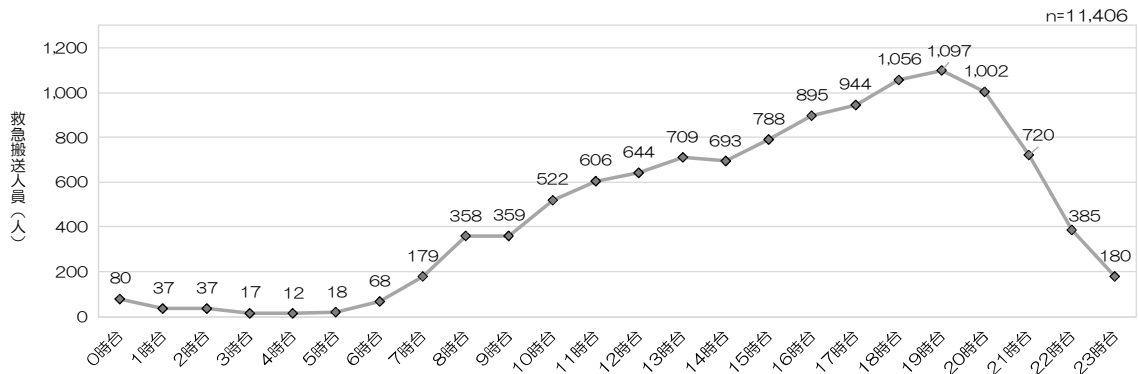


図3-55 9歳以下

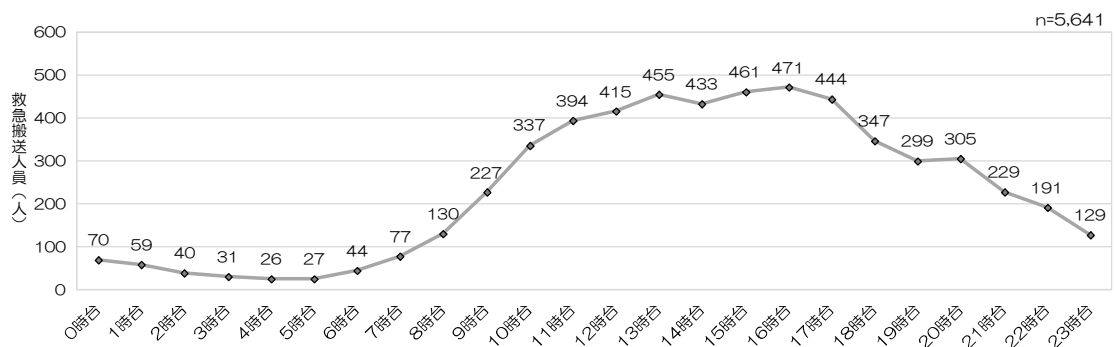


図3-56 10代

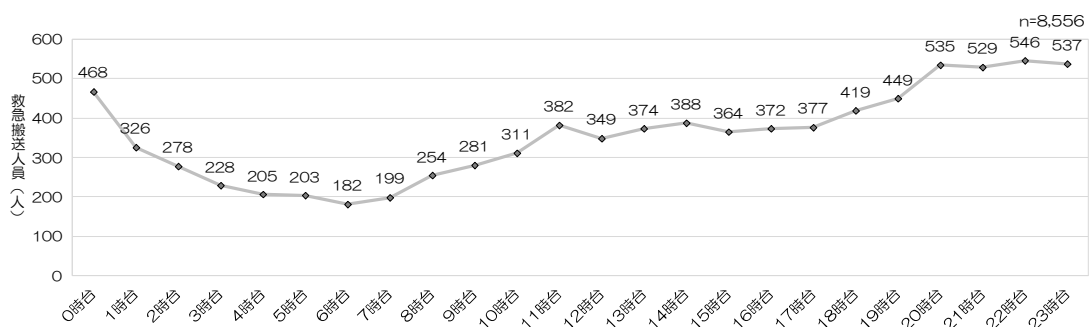


図3-57 20代

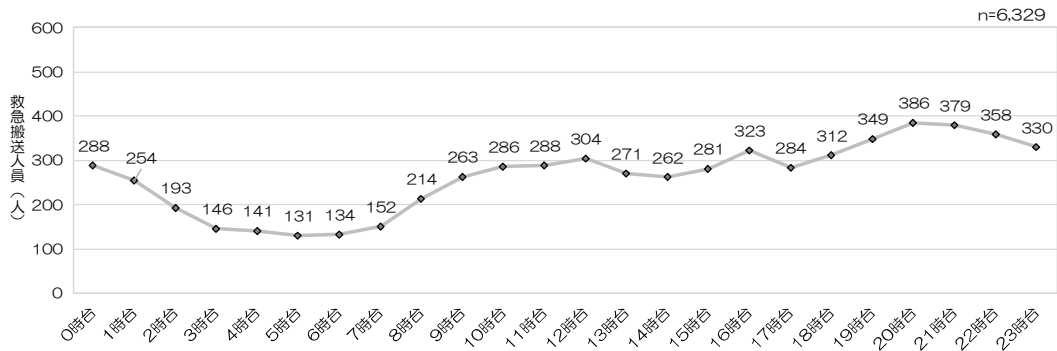


図3-58 30代

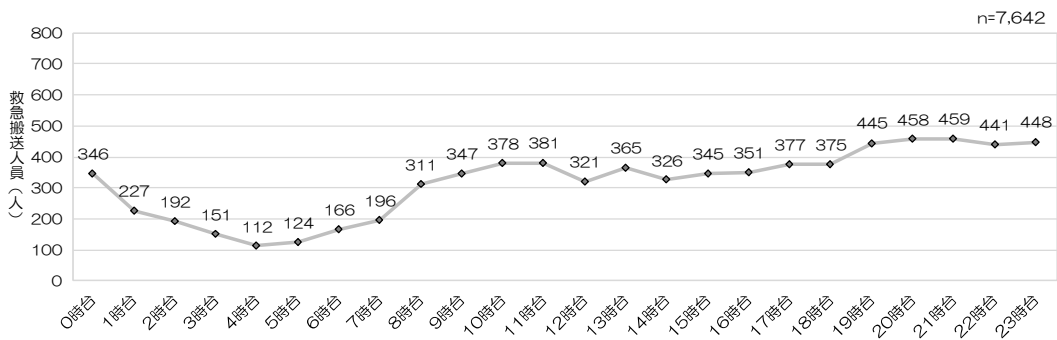


図3-59 40代

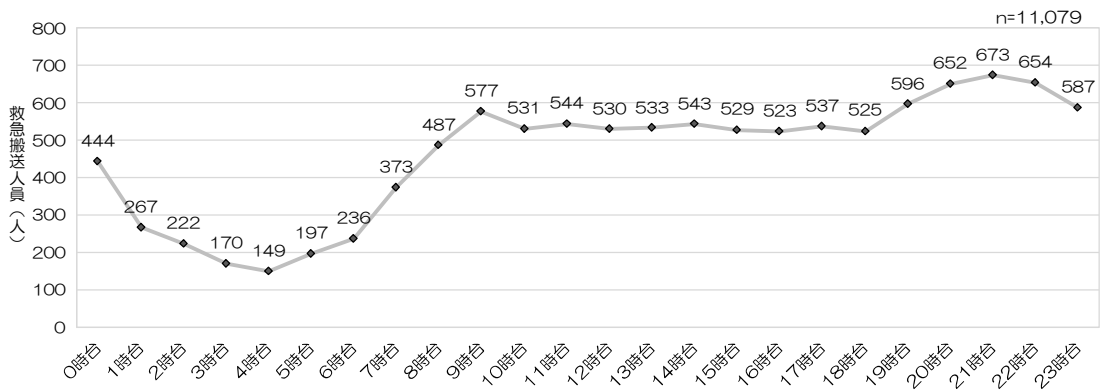


図3-60 50代

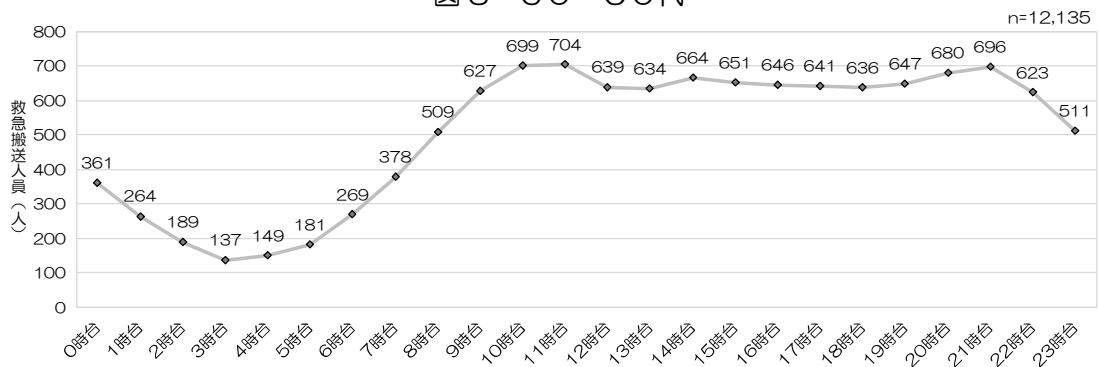


図3-61 60代

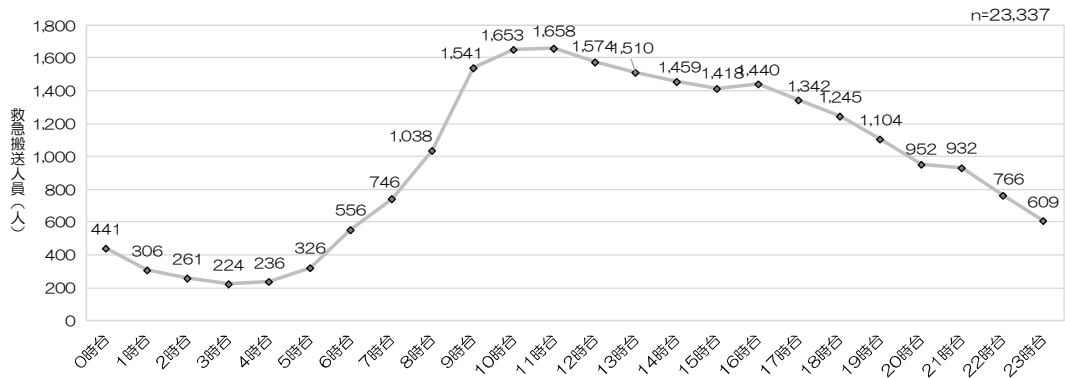


図3-62 70代

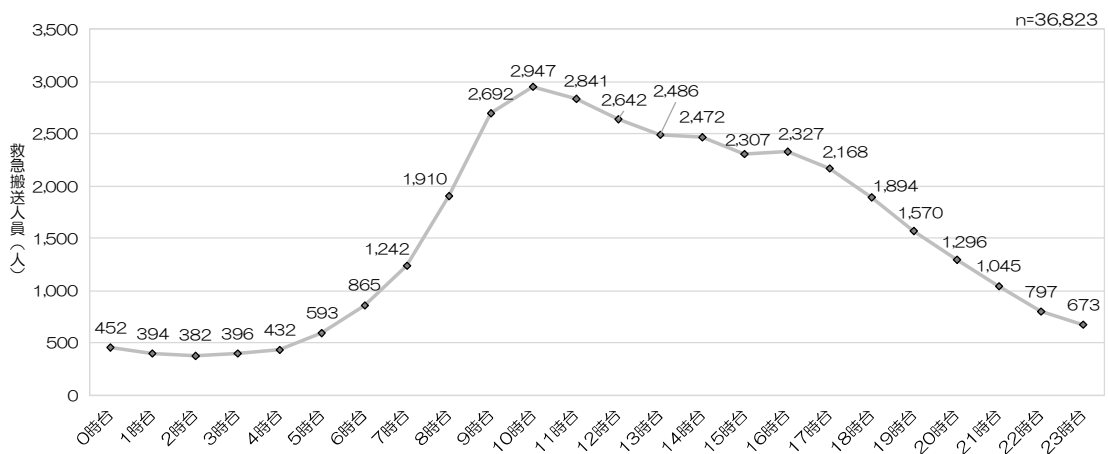


図3-63 80代

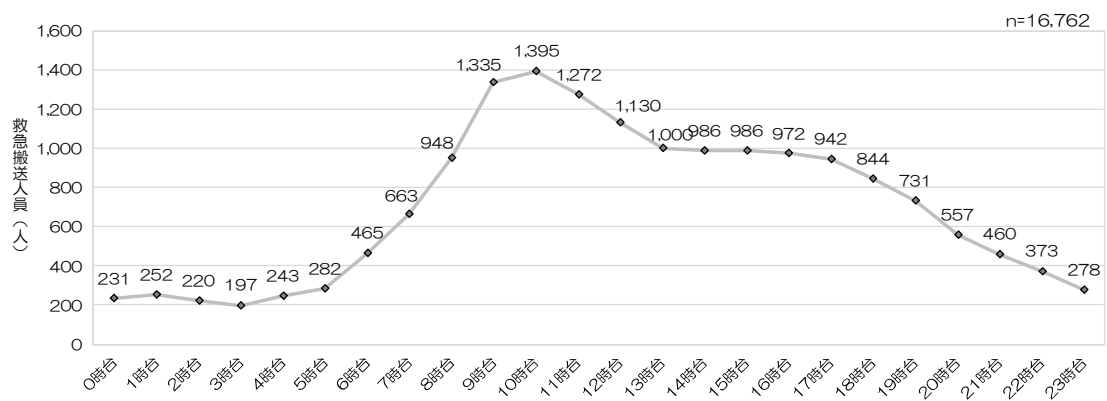


図3-64 90歳以上



# 第4部 初診時程度（死亡・重篤）から見た事故

## 1. 年別発生状況

東京消防庁管内では、平成30年から令和4年までの5年間に日常生活における事故により救急搬送された**8,595人**が、初診時程度が死亡または重篤でした。

令和4年中は、**1,650人**が死亡または重篤でした（図4-1）。

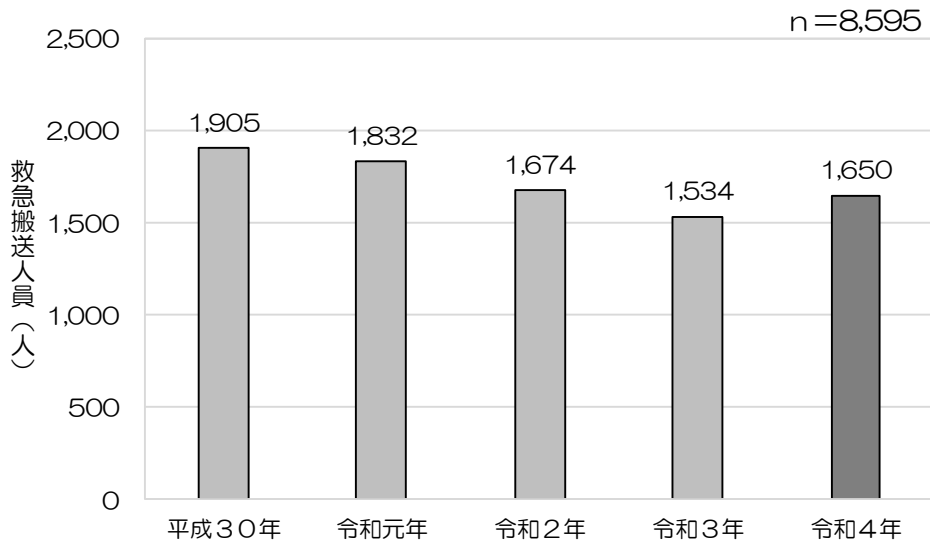


図4-1 年別の救急搬送人員

## 2. 月別搬送人員

月別に見ると、1月の**189人**が最も多く、次いで12月、2月に死亡・重篤となる事案が多く発生しています（図4-2）。

年末年始の餅による「ものがつまる等」の事故、冬の入浴による「おぼれる」事故が増える時期に搬送人員が増える傾向が見られます。

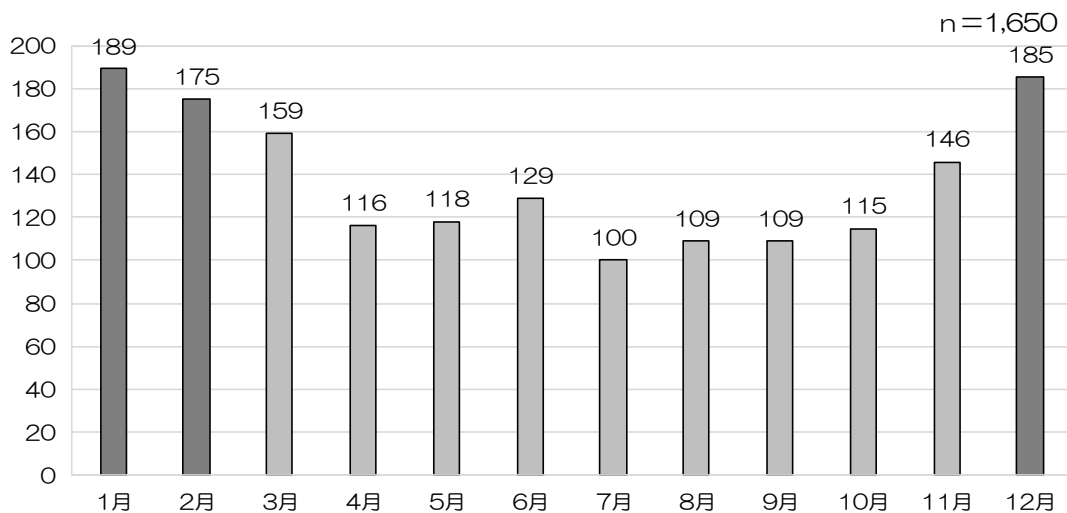


図4-2 月別の救急搬送人員

### 3. 事故種別ごとの搬送人員

令和4年では、「ものがつまる等」「おぼれる」事故が多く、その2つで全体（その他、不明を除く）の7割以上を占めています。

また、落ちる事故も2割以上を占めています（図4-3）。

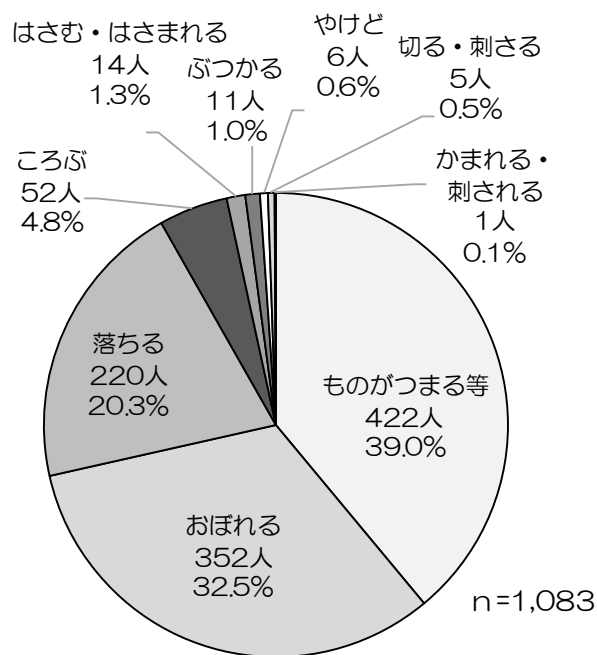


図4-3 事故種別ごとの救急搬送人員（その他、不明を除く）

#### 4. 時間帯別・事故種別ごとの搬送人員

時間帯及び事故種別ごとに見ると、時間帯としては12時台及び18時台から20時台までで多くなっています。

食事の時間帯に「ものがつまる等」の事故が多く発生しており、また、入浴をする夜の時間帯に「おぼれる」事故が多く発生しています（図4-4）。

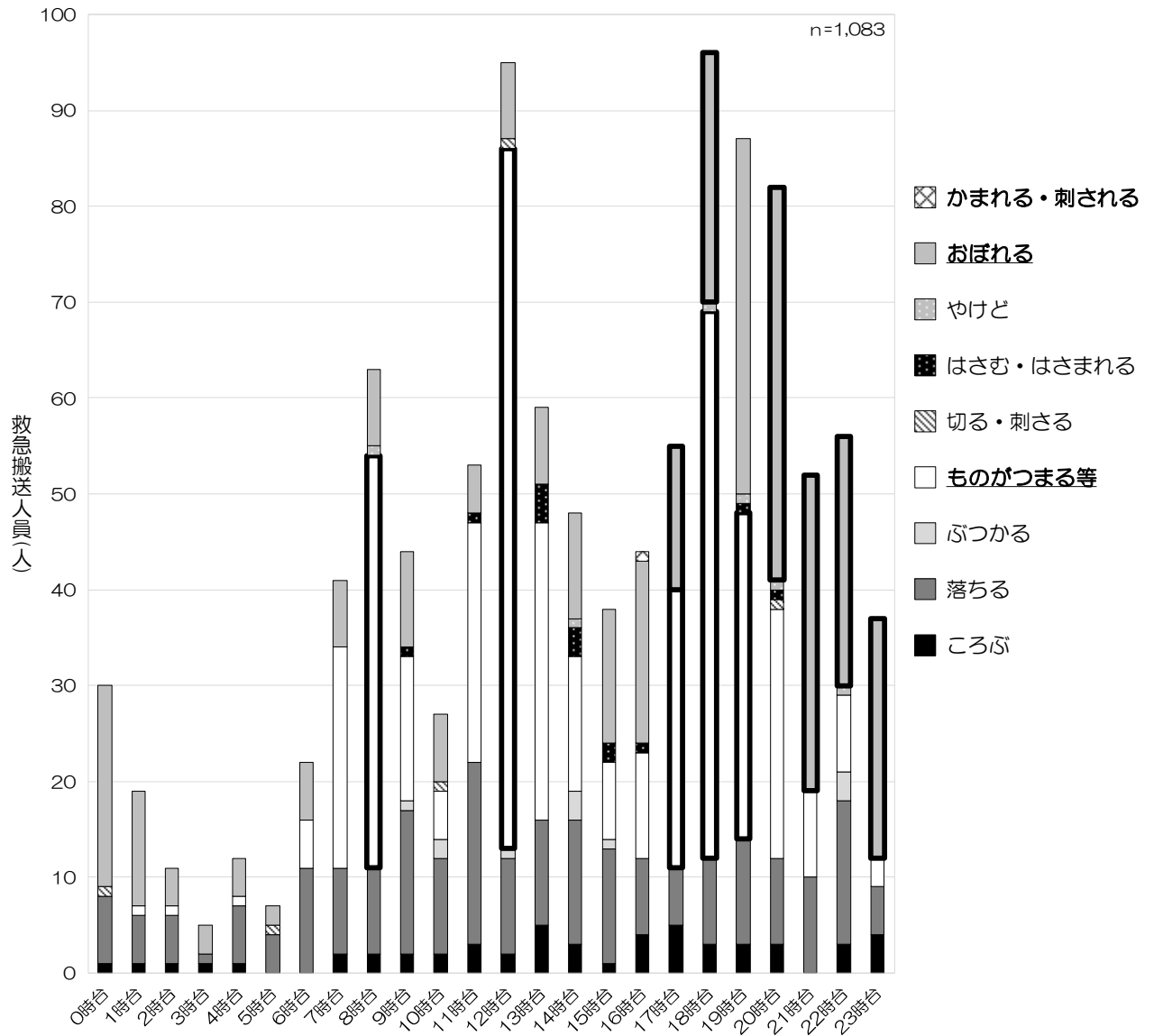


図4-4 時間帯別・事故種別ごとの救急搬送人員（その他、不明を除く）

## 5. 年代別・発生場所別の搬送人員

年代別に見ると、70代及び80代が5割以上を占めています。発生場所別に見ると、住宅等居住場所が約8割を占めています（図4-5）。

住宅等居住場所を除いて見てみると、年代別では70代が2割以上を占めています。発生場所別では道路・交通施設が4割以上を占めています（図4-6）。

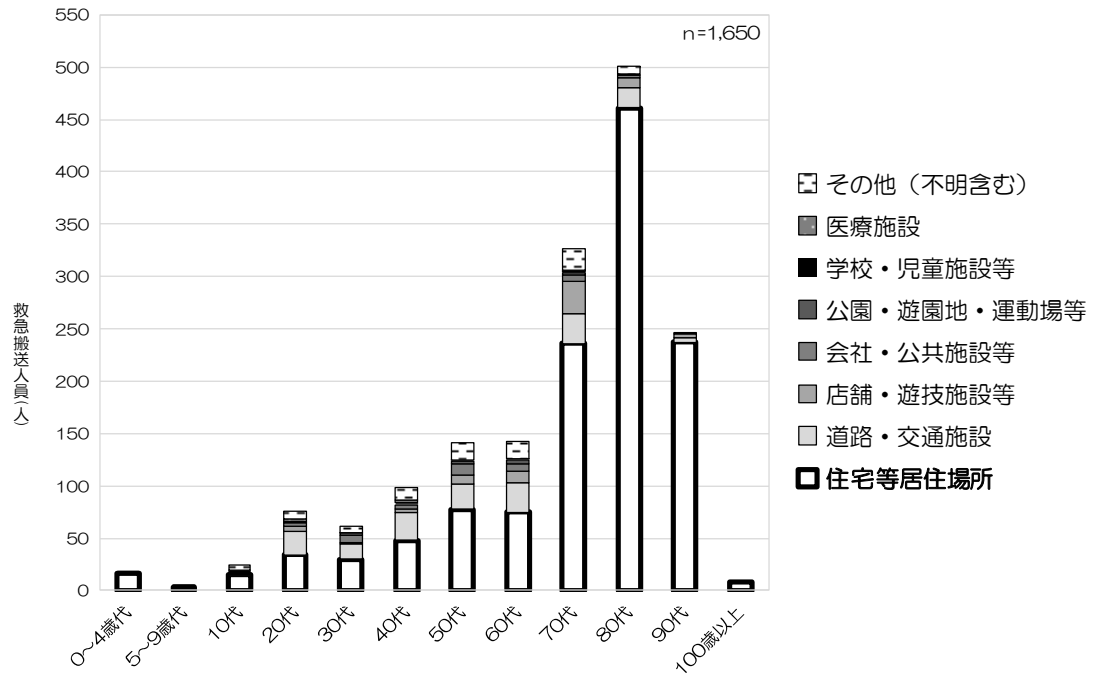


図4-5 年代別・発生場所別の救急搬送人員

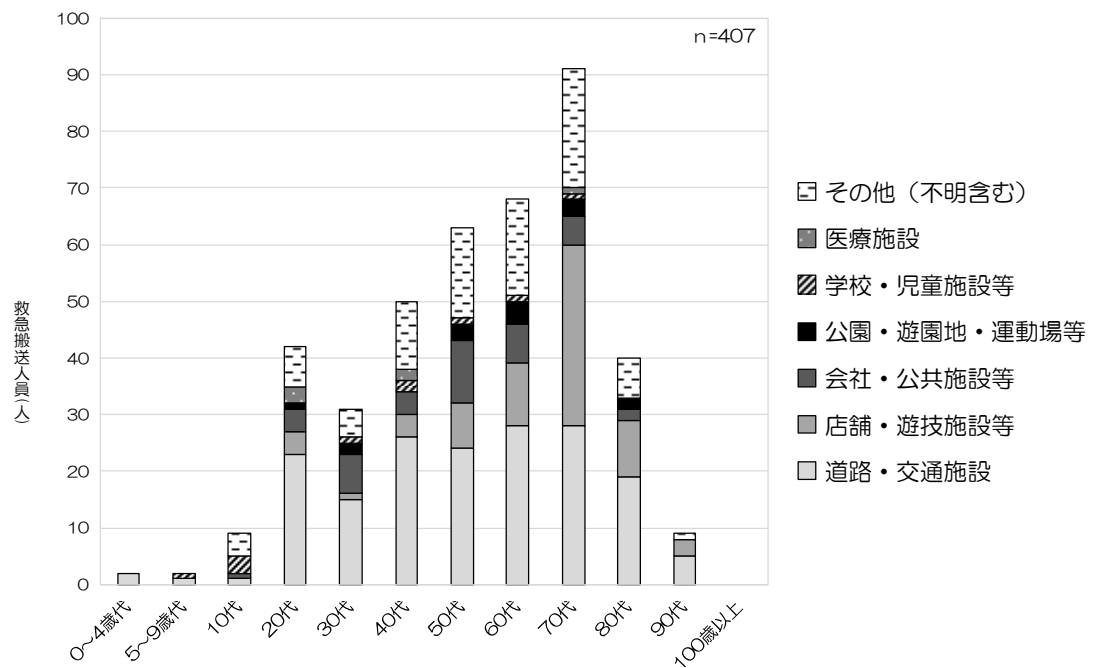


図4-6 年代別・発生場所別の救急搬送人員（住宅等居住場所を除く）

## 6. 事故種別ごとに見る死亡・重篤事故

### (1) ものがつまる等

#### ア 年代別の搬送人員

年代別に見ると、70代から90代までが全体の約9割を占めています（図4-7）。

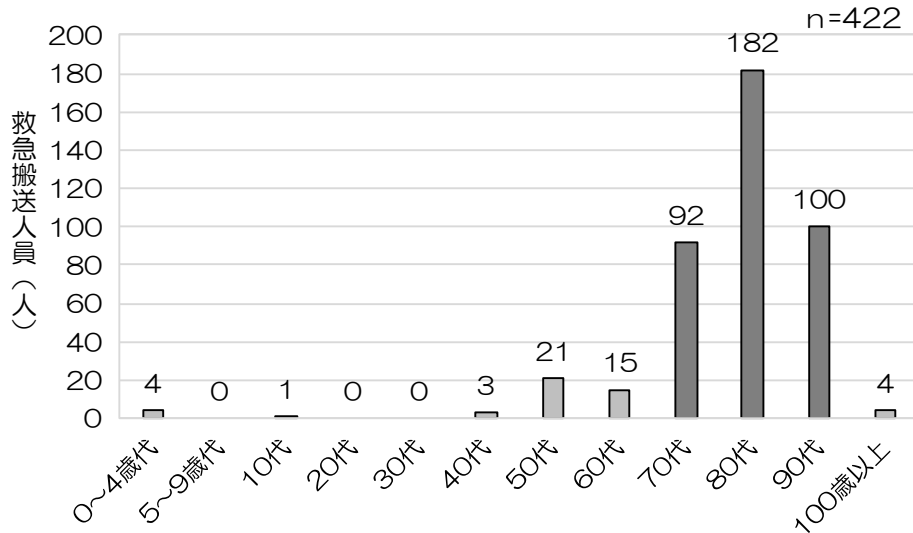


図4-7 年代別の救急搬送人員

#### イ 死亡・重篤事故が多かった要因

死亡・重篤事故以外を含む「ものがつまる等」の事故全体では、玩具類、食べ物、洗剤、包み・袋といった要因が多くを占めていますが、死亡・重篤事故を見ると、食べ物による事故が多くを占めています（表4-1）。

表4-1 初診時程度で死亡・重篤が多かった事故の要因

年代	順位	1位	2位	3位	4位	5位
	10代以下		ミルク 2人	おかゆ類、肉、野菜・果物 各1人		
20代~50代		肉 9人	パン、食物 各4人		麺類、ご飯 各3人	
60代以上		食物 122人	おかゆ類 43人	餅、パン 各36人		肉 33人

※その他、不明を除く

#### 【事例 ものがつまる等】

ステーキを食べていて、喉に詰まらせて意識を失った（60代 重篤）。

(2) おぼれる

ア 年代別の搬送人員

70代から90代までが全体の約9割を占めています（図4-8）。

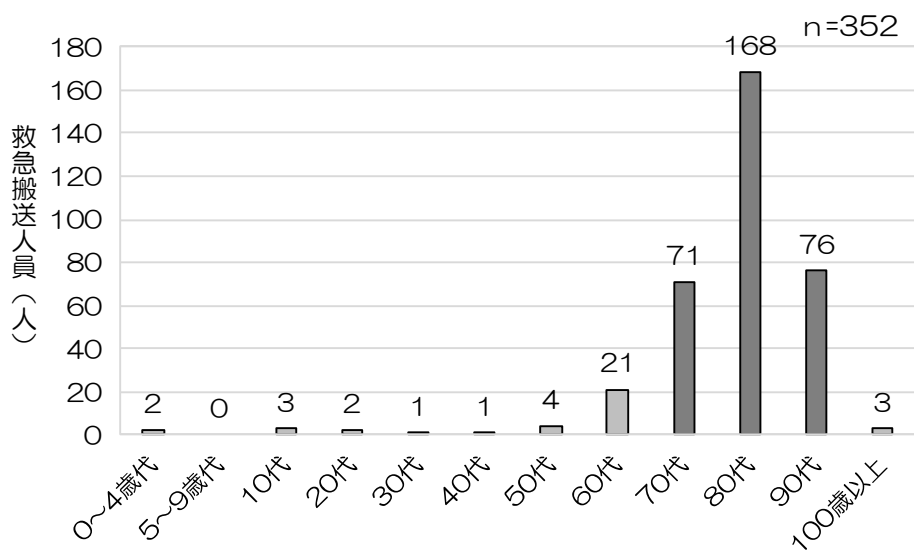


図4-8 年代別の救急搬送人員

イ 死亡・重篤事故が多かった要因

死亡・重篤事故以外を含む「おぼれる」事故全体では、浴槽での事故が多くを占めていますが、死亡・重篤事故を見ても、浴槽での事故が多くを占めています（表4-2）。

表4-2 初診時程度で死亡・重篤が多かった事故の要因

年代 \ 順位	1位	2位	3位	4位	5位
10代以下	浴槽 6人	河川 2人			
20代~50代	浴槽 8人				
60代以上	浴槽 332人	プール 3人	河川 1人		

※その他、不明を除く

**【事例 おぼれる】**  
 浴室が静かなことに気づいた家族が様子を見に行ったところ、浴槽内で顔を水没させて意識を失っていた（80代 死亡）。

(3) 落ちる

ア 年代別の搬送人員

70代が多くなっていますが、10代以下や90代以上を除き、各年代において死亡・重篤事故が発生しています（図4-9）。

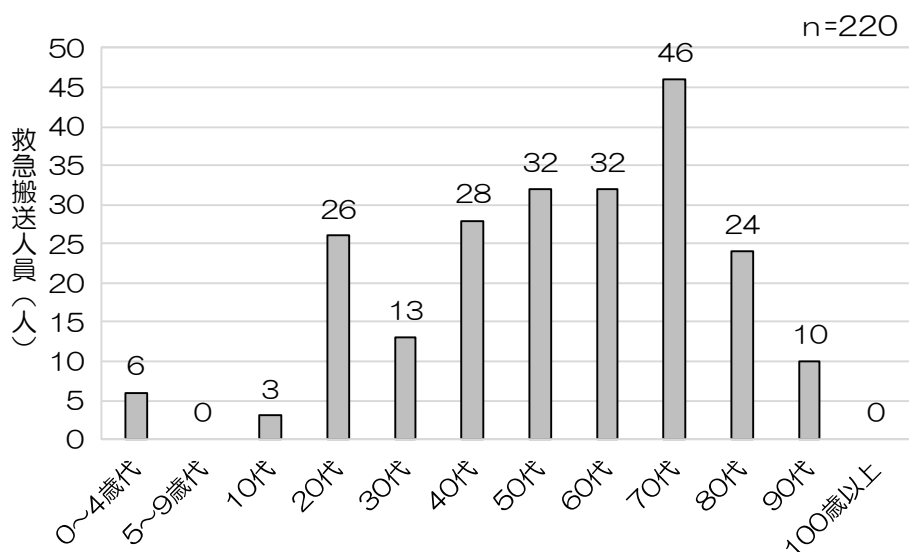


図4-9 年代別の救急搬送人員

イ 死亡・重篤事故が多かった要因

死亡・重篤事故以外を含む「落ちる」事故全体では、階段、ベッド、椅子といった要因が多くを占めていますが、死亡・重篤事故を見ると階段が要因の事故が多くなっています。

20代以上では脚立・踏み台・足場による事故も多くを占めています（表4-3）。

表4-3 初診時程度で死亡・重篤が多かった事故の要因

年代 \ 順位	1位	2位	3位	4位	5位
10代以下	階段 3人	ベビーカー、ベランダ、屋根 等 各1人			
20代~50代	階段 12人	脚立・踏み台・足場 9人		屋根、酒類 各2人	
60代以上	階段 31人	脚立・踏み台・足場 9人	屋根 3人	エスカレーター、酒類 各2人	

※その他、不明を除く

【事例 落ちる】

工事現場にて、バランスを崩して5mの高さの足場から墜落した（50代 重篤）。

(4) ころび

ア 年代別の搬送人員

年代別に見ると、80代、90代で多く発生しています（図4-10）。

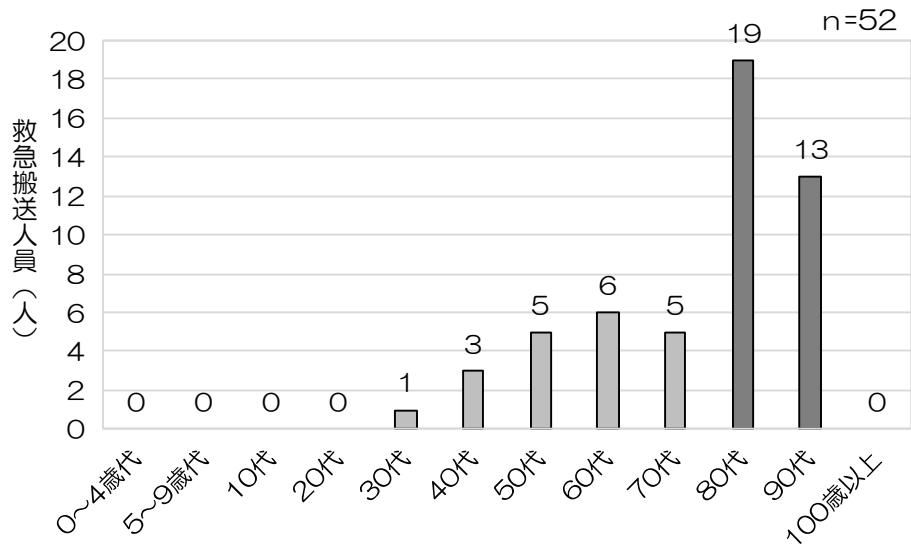


図4-10 年代別の救急搬送人員

イ 死亡・重篤事故が多かった要因

10代以下では「ころび」事故による死亡・重篤事故は発生していません。

20代以上では、階段をはじめとして様々な要因で死亡・重篤事故が発生しています（表4-4）。

表4-4 初診時程度で死亡・重篤が多かった事故の要因

年代 \ 順位	1位	2位	3位	4位	5位
10代以下	なし				
20代~50代	階段、ガードレール、椅子、机、酒類 各1人				
60代以上	階段 4人	段差、歩行器、酒類 各2人			自転車等 各1人

※その他、不明を除く

【事例 ころび】

自宅の階段付近で大きな物音がしたため、同居家族が駆け付けたところ、傷病者が階段の途中で倒れて意識がない状態を発見した（90代 重篤）。



(5) 切る・刺さる

ア 年代別の搬送人員

20代で2人発生しています（図4-11）。

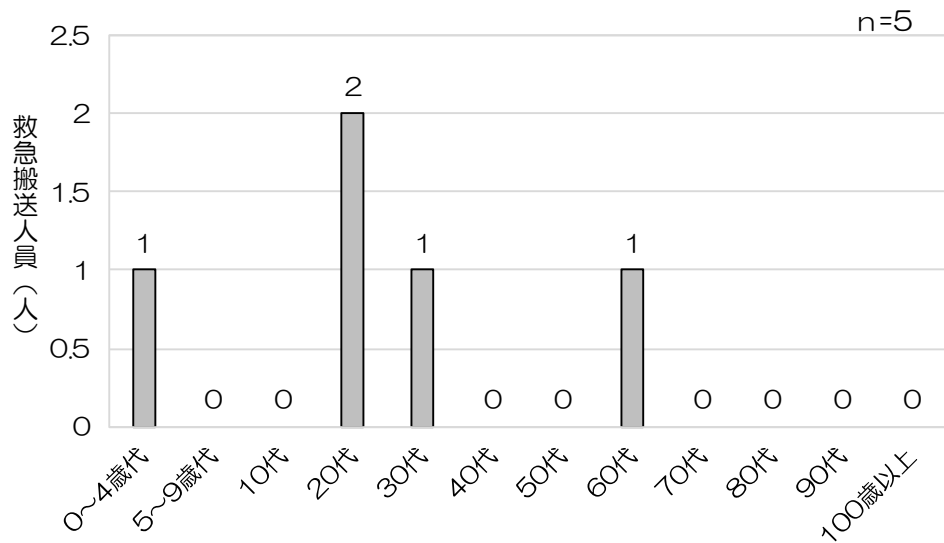


図4-11 年代別の救急搬送人員

イ 死亡・重篤事故が多かった要因

ナイフ、ガラス片といったもののほか、割れた手動ドアの破片や突起物が刺さる事故も発生しています（表4-5）。

表4-5 初診時程度で死亡・重篤が多かった事故の要因

年代 \ 順位	1位	2位	3位	4位	5位
10代以下	ガラス片 1人				
20代~50代	ナイフ、手動ドア、突起物 各1人				
60代以上	ナイフ 1人				

※その他、不明を除く

【事例 切る・刺さる】

浴室から出て来た際にふらついて浴室の扉を左腕で割り、受傷した（20代 重篤）。

(6) ぶつかる

ア 年代別の搬送人員

年代別に見ると40代で多く発生しています（図4-12）。

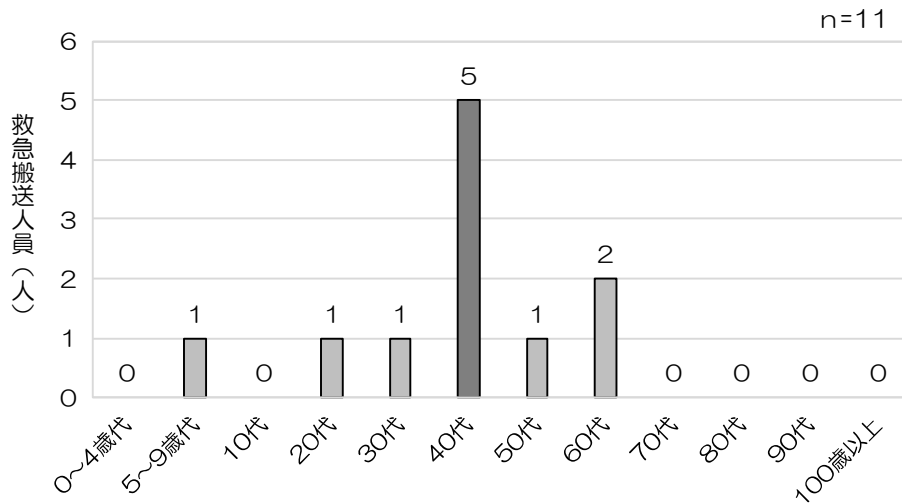


図4-12 年代別の救急搬送人員

イ 死亡・重篤事故が多かった要因

10代以下では、**自転車**を使用中にぶつかる事故が発生しています。

20代以上では、**鉄道車両**にぶつかる事故等が発生しており、**労働中の事故**も発生しています（表4-6）。

表4-6 初診時程度で死亡・重篤が多かった事故の要因

年代	順位	1位	2位	3位	4位	5位
	10代以下		自転車 1人			
20代~50代		鉄道車両 5人	梯子・タラップ 2人	柱 1人		
60代以上		パワーショベル、石 各1人				

※その他、不明を除く

【事例 ぶつかる】

工事現場で作業中に、動いていたショベルカーのバケットにぶつかり受傷した（60代 重篤）。

(7) はさむ・はさまれる

ア 年代別の搬送人員

年代別に見ると40代、50代、70代で多く発生しています（図4-13）。

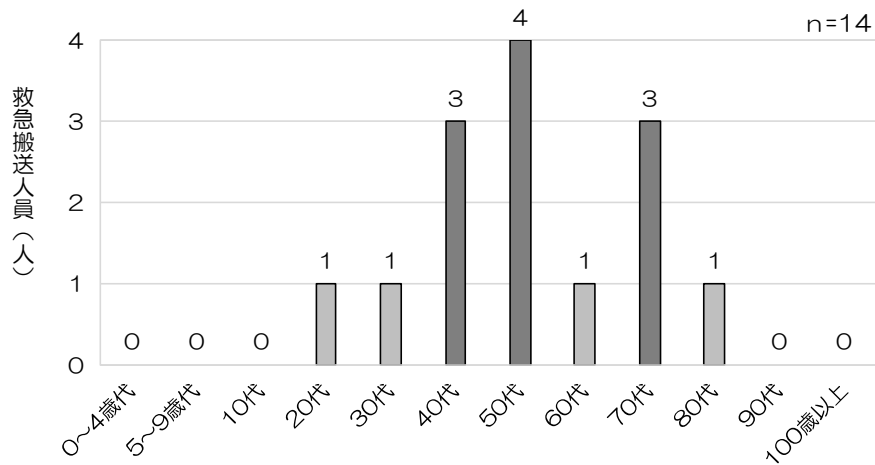


図4-13 年代別の救急搬送人員

イ 死亡・重篤事故が多かった要因

10代以下では、「はさむ・はさまれる」事故による死亡・重篤事故は発生していません。

20代以上では、事故の要因にばらつきは見られますが、かくはん機やフォークリフト等、仕事上の事故の割合が高くなっています（表4-7）。

表4-7 初診時程度で死亡・重篤が多かった事故の要因

年代 \ 順位	1位	2位	3位	4位	5位
10代以下	なし				
20代~50代	建材 3人	エレベーター、かくはん機、自動車、船 等 各1人			
60代以上	壁、柵、フォークリフト、製麺機、旋盤 各1人				

※その他、不明を除く

【事例 はさむ・はさまれる】

倉庫内で荷物の積み下ろし中に、荷物の下敷きになり受傷した（50代 重篤）。

(8) やけど

ア 年代別の搬送人員

年代別に見ると10代以下で発生しており、50代、70代及び80代でも発生しています(図4-14)。

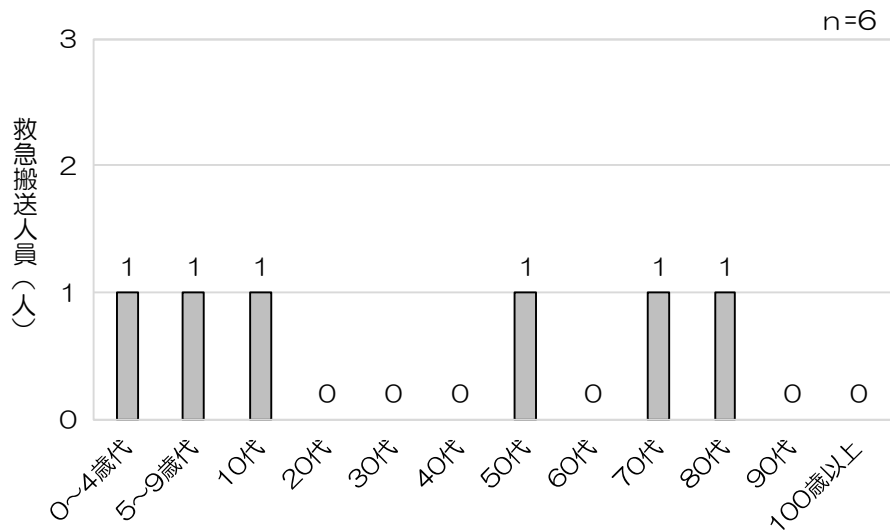


図4-14 年代別の救急搬送人員

イ 死亡・重篤事故が多かった要因

10代以下では、**カップ麺**等食事に際して事故が発生しています。  
50代では、**ライター**を要因とした事故が発生しています(表4-8)。

表4-8 初診時程度で死亡・重篤が多かった事故の要因

年代 \ 順位	1位	2位	3位	4位	5位
10代以下	カップ麺、味噌汁、攪拌機 各1人				
20代~50代	ライター 1人				
60代以上	浴槽 2人				

※その他、不明を除く

【事例 やけど】

熱湯を湯たんぽに入れて搬送していたところ、誤って湯たんぽをひっくり返してしまい、受傷した(70代 重篤)。